粉河寺遺跡

－長屋川砂防環境整備工事に伴う発掘調査報告書－

2008年2月

財団法人　和歌山県文化財センター

序

紀の川市所在の粉河寺遺跡は、和歌山県北部を西流する紀ノ川と和泉山脈の間に位置しています。

西国三十三所観音霊場の第三番札所として知られる粉河寺において、過去に実施された発掘調査は少なく、考古学的アプローチによる寺院史の解明が期待されているところです。

財団法人和歌山県文化財センターでは、長屋川砂防環境整備工事に伴い平成 18 年度に発掘調査を実施しました。小規模な調査ではありましたが、長屋川の護岸施設と考えられる室町時代の石積み遺構を発見し、当時の粉河寺の一景観を明らかにすることができました。

平成 18 年度から平成 19 年度にかけて整理作業を進めて参り、その成果をまとめることができましたので、このたび発掘調査報告書として刊行する次第でございます。本書が県民の皆様のみならず、広く一般の方々に活用していただける歴史資料となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本書の作成にあたりご指導・ご協力を賜りました関係各位、粉河寺、地元の皆様に対し厚くお礼申し上げます。

平成20年２月

財団法人 和歌山県文化財センター
理事長 小 関 洋 治

例　言

1　本書は、紀の川市粉河に所在する粉河寺遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査は、長屋川砂防環境整備工事に先立つもので、平成18年度に粉河寺遺跡の発掘調査と出土遺物整理の一部を行い、平成19年度に残りの出土遺物整理を実施した。

3　発掘調査及び出土遺物整理業務は、和歌山県の委託を受けた財団法人和歌山県文化財センターが、和歌山県教育委員会の指導の下に実施した。

4　現地調査及び報告書作成に際し、紀の川市教育委員会をはじめ、関係機関および粉河寺など地元の方々から助言・協力を得た。

5　本書は、調査・整理事業担当者である佐々木が執筆・編集した。

6　図版編遺構写真および遺物写真は、佐々木が撮影した。

7　発掘調査にあたっては、次の諸氏から多大な御指導・御教示を賜った。

武内雅人（和歌山県立博物館）、立岡和人（紀の川市教育委員会）

また、陶磁器類の遺物については、森村健一氏（堺市教育委員会）に御教示いただいた。記して感謝申し上げる。

8　調査・整理業務で作成した図面・写真及び台帳等の記録資料は、財団法人和歌山県文化財センターが、出土遺物は和歌山県教育委員会が各々保管している。

9　発掘調査・出土遺物整理業務の調査組織は、以下に示すとおりである。

調　査　組　織

事　務　局

事務局長	熊崎　訓白（平成18年度）
（兼専務理事）	松田　長次郎（平成19年度）
事務局次長	山本　新平（平成19年度）
管理課長	西本　悦子（平成18年度）
（兼事務局次長）	山本　新平（平成19年度）
埋蔵文化財課長	渋谷　高秀（平成18年度）
	村山　弘（平成19年度）

発掘調査業務担当

埋蔵文化財課副主査　佐々木　宏治

出土遺物整理業務担当

埋蔵文化財課課長補佐　井石　好裕（平成18年度）

埋蔵文化財課副主査　佐々木　宏治（平成19年度）

凡　例

1　遺構実測図及び地区割の基準線は、平面直角座標系第Ⅵ系（世界測地系）に基づき、図示した北方位は座標北を示す。

2　遺構実測図の基準高は、東京湾標準潮位（T.P.）である。

3　発掘調査で使用した調査コードは、以下のとおりである。

　06－07・022（2006年度－旧粉河町・粉河寺遺跡）

4　地区割の詳細については、第Ⅲ章第１節に記述する。

5　遺構番号と遺物番号は、１番からの通し番号とし、遺構番号には必要に応じて最後に種類を付した。

　例　遺構39(井戸)

なお、本書の大部分が石積み遺構についての記述である。石積み遺構には遺構40の番号を付してはいるが、本文中では番号を用いず石積み遺構と記載している。

6　遺物番号は、本文・実測図・写真図版において一致する。

7　遺物実測図の縮尺は、すべて1/4である。

遺物写真の縮尺は、統一していない。

8　土器及び調査時の土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修　小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』（2000年版）を使用した。

本 文 目 次

ページ

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過 …… 1

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 1

第１節　地理的環境 …… 1

第２節　歴史的環境 …… 2

第３節　既往の調査 …… 3

第Ⅲ章　調査の方法と成果 …… 5

第１節　調査の方法 …… 5

１．調査地の地区割 …… 5

２．調査の方法 …… 5

第２節　層序 …… 6

第３節　調査の成果 …… 9

１．石積み築造前の遺構と遺物 …… 9

２．石積み …… 9

３．石積み築造後の遺物 …… 16

４．石垣築造時の遺物 …… 17

５．２層上面の遺構と遺物 …… 18

６．調査前の状況 …… 18

第Ⅳ章 まとめ …… 26

挿図目次

図１　遺跡位置図
図２　遺跡周辺地形図(S-1/200,000)
図３　周辺遺跡図(S=1/25,000)
図４　調査区位置図(S=1/2,500)
図５　調査地区割②図
図６　東半中央トレンチ土層断面図(S-1/80)
図７　中央トレンチ土層断面図(S=1/80)
図８　東壁土層断面図(S=1/80)
図９　南壁土層断面図(S=1/80)
図10　石積み遺構平面図・立面図(S=1/80)
図11　４区２段目石積み部南北断面図(S-1/40)
図12　東階段　３段目板石部南北断面図①(S=1/40)
図13　東階段　３段目板石部南北断面図②(S=1/40)
図14　東階段　２段目板石部南北断面図(S=1/40)
図15　東階段　２～３段目間東西断面図(S-1/40)
図16　西階段　東端部南北断面図(S=1/40)
図17　西半中央トレンチ（西階段西端）南北断面図(S=1/40)
図18　２層上面遺構平面図(S=1/80)
図19　遺構33(石列)南北断面図(S=1/40)
図20～26　出土遺物実測図(S-1/4)
図27～34　土師器皿の口径と器高

表目次

表１　発掘調査工程表
表２　出土地別遺物数量
付表１　出土遺物観察表

図版目次

図版１　石積み遺構全景(北東から)，石積み遺構全景(北西から)
図版２　石積み遺構全景(北から)，１区1-1，1-2，2段目石積み(北から)，2区3段目石積み(北から)，石積全景(西から)，2区1-1段目石積み背後礫(北から)
図版３　東階段全景(北から)，東階段2段目板石部(西から)，東階段3段目板石部(南から)，東階段2･3段目板石部(西から)，東階段3段目(上部)板石部(南から)、東階段3段目(上部)板石部(北から)，2区石積み検出状況(移動石含む)(北から)，2区石積み検出状況(移動石含む)(南から)
図版４　西階段全景(北から)，3区石積み検出状況(移動石含む)(北から)，西階段ベース土成形状況(北西から)、西階段板石部(南から)，4区2段目石積み(北から)
図版５　1･2区2層上面遺構：拡張前(西から)，遺構33(石列)検出状況(西から)，遺構33(石列)南北土層断面(東から)，遺構39(井戸)土層断面(北から)，調査前状況：西半(北西から)，調査前状況：東半(北西から)，地山面検出状況(北東から)，地山面検出状況(北から)
図版６　中央トレンチ2層堆積状況(西から)，東半中央トレンチ3段目石積み土層断面(東から)，東半中央トレンチ1段目石積み土層断面(北西から)，1区南壁土層断面(北から)，東階段2段目板石部南北土層断面(西から)，東階段2～3段目間東西土層断面(北から)，東階段3段目板石部南北土層断面(西から)，東壁南北土層断面(東から)
図版７～14
出土遺物写真

第Ⅰ章　調査に至る経緯と経過

紀の川市（旧粉河町）所在の粉河寺遺跡は、長屋川を境に北側がその範囲とされていたが、平成16年度に県教育委員会が実施した試掘調査により、長屋川の南まで遺構の分布が認められたため、埋蔵文化財包蔵地の範囲変更が行われた。

那賀振興局によって進められていた長屋川砂防環境整備工事が、この範囲に該当していたため、工事を中断し県教育委員会が急遽立会調査を行った。その結果、多数の中世に属する遺物や石組遺構等が検出されたため、協議のうえ、本発掘調査を実施することとなった。

現地調査は、平成18年11月13日から平成19年1月31日にかけて約220㎡実施した。

出土遺物等整理については、その一部を平成18年2月1日から3月29日にかけて行い、遺物洗浄、注記、接合作業を実施した。平成19年12月１日から平成20年２月20日にかけて、遺物実測、遺物・遺構実測図のトレースおよび、遺物写真撮影などの報告書作成作業を実施し、本書を刊行した。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第1節　地理的環境

紀ノ川中流域の北岸と和泉山脈の間には、緩やかな勾配をもった丘陵、段丘、氾濫原の地形面が階段状に連なっている。和泉山脈から南流する名手川と中津川の間には隆起扇状地状を呈する上位段丘面が広がるが、小河川により細かく浸食され、多数の谷底平野を形成している。粉河寺は、この段丘南西部の長屋川など小河川により形成された谷底平野末端部に位置する。この北側にも不動谷、湯屋谷、薬師谷の小さな谷底平野が連なっており、坊・院の存在が推定されている。

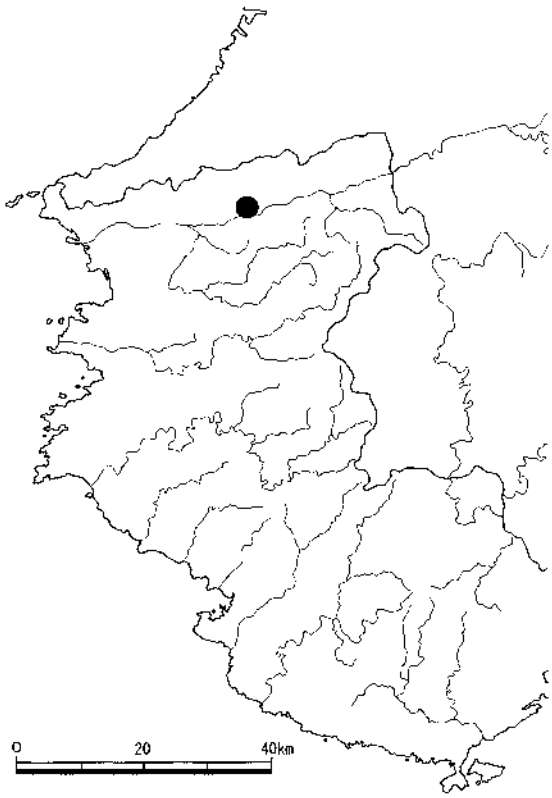


図１　遺跡位置図

表1　発掘調査工程表

	平成18年度						平成19年度										
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
平成18年度事業 現地調査																	
出土遺物等整理																	
平成19年度事業 出土遺物等整理																	

第2節　歴史的環境

旧粉河町内の遺跡は42箇所で、紀ノ川流域の他市町に比べそれほど多くはないが、平野が広がる紀ノ川北岸に遺跡の分布が目立つ。特に粉河寺周辺と長田観音付近で遺跡の密度が高い。

周辺の遺跡について、時代別に簡単に述べる。

旧石器時代では、紀ノ川北岸の中津川に接する段丘上の猪垣遺跡で国府型ナイフ形石器等少量の遺物が発見されている。

縄文時代では、粉河寺大門の北東約１kmの洪積台地南端で発見された西風山遺跡がある。土器片20点、掻器片１点、叩石１点や炉跡の可能性を示す焼石が出土しており、縄文時代中期～後期と考えられている。下層からは前期の隆起線文土器が１点出土している。この他にも、紀ノ川南岸の荒見中筋遺跡などで有舌尖頭器や石鏃が出土している。

弥生時代の明確な遺跡は認められず、遺物の採集が少数あるのみである。

古墳時代の遺跡もほとんど認められない。紀ノ川中流域では旧打田町と旧粉河町を境にその東側で古墳の数が激減する。旧粉河町内では現存する古墳は1基もなく、長田観音から深山の丘陵端に消滅古墳が少数存在したとされるのみである。

奈良時代以降になっても、城跡や経塚の数は増加するものの、現在のところ集落遺跡についてはほとんど確認されていない。粉河寺の北には、不動谷遺跡、湯屋谷遺跡、薬師谷遺跡、産土神社経塚群などが位置するが、粉河寺の関連遺跡と捉えたほうが良いであろう。

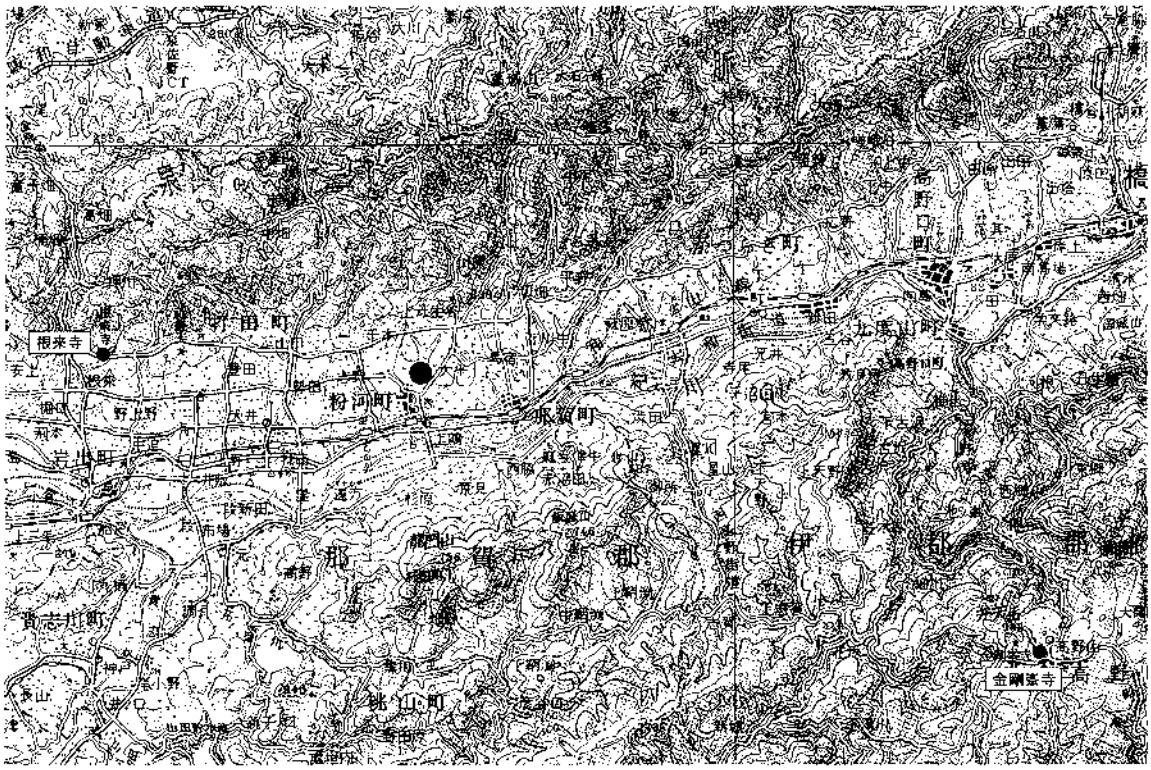


図２　遺跡周辺地形図(S=1/200,000)

第3節　既往の調査

粉河寺の発掘調査事例は少なく、以下の５地点を数えるのみである。

①産土神社経塚群発掘調査（昭和34年）：参考文献１

②北室院試掘調査（昭和57年）：参考文献１

③六角堂解体修理に伴う発掘調査（平成７年）：参考文献２

④防災事業に係る発掘調査（平成13～平成14年度.県教育委員会）：参考文献３・４

⑤長屋川左岸試掘調査（平成16年度.県教育委員会）：参考文献４

①の産土神社経塚群は、産土神社背後の雑木林に位置する。植林中に第１号経塚が、その後の整地中に第２～３号経塚と井戸が発見されている。第１号経塚の経典は、天治２年（1125年）銘をもつ鋳銅製経筒に納入され、この経筒は陶製の外筒（猿投窯産）に納められていた。鎌倉時代初頭の第２号経塚は、須恵質の片口鉢を蓋にした常滑壺の中に経筒が納められ、鉄製刀子・鋏・鈴・鎌・提子、瓦器椀が副納されていた。第３号経塚は、撹乱が激しいが、常滑壺片、刀子、鏡、鉄製鍋、瓦器椀片等が出土している。

②の調査では、寺域の東端付近で、古図に「北室院」と表示された中院谷に面した地点に、第Ⅰから第Ⅳ調査区を設定して調査を実施している。平安時代の瓦や、室町時代の土師器などが出土した他、天正の兵火時の堆積と考えられる焼土層が確認されている。

③の調査では、正徳３年(1713)に本堂が消失した際の焼土や瓦を含む整地層が検出されている。

④の防災事業に係る調査は、初めて寺の中心部を対象とした発掘調査である。約170㎡の貯水

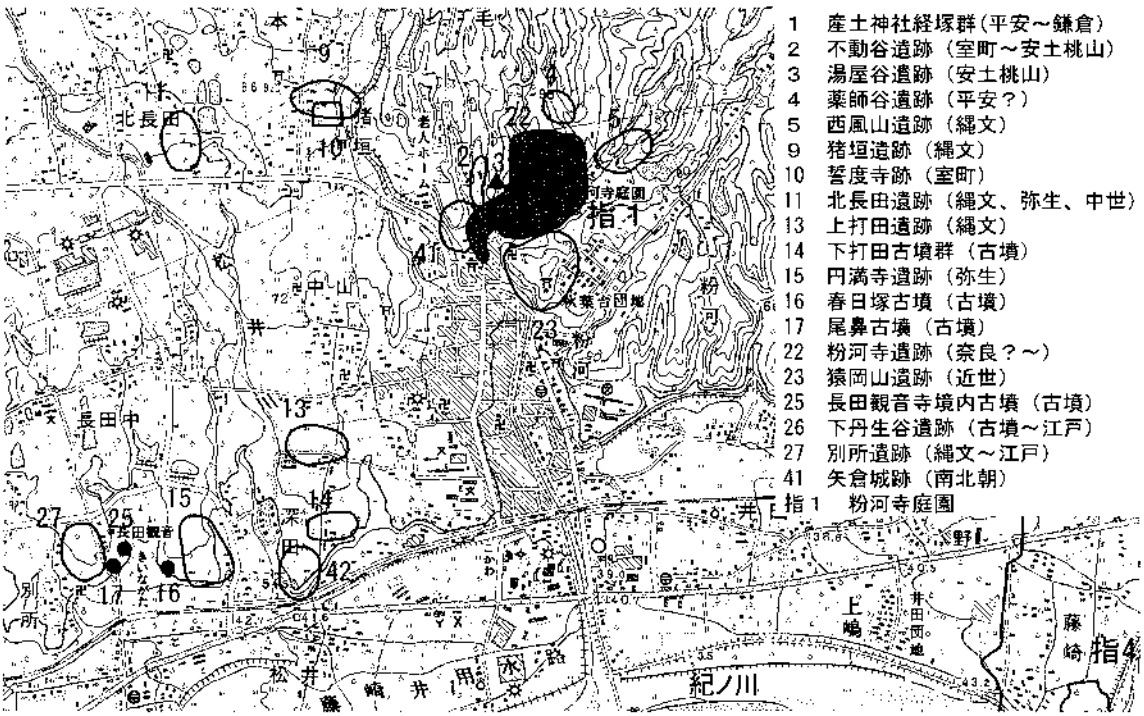


図３　　周辺遺跡図(S=1/25,000)　＊参考文献19掲載図に一部加筆

槽および名勝庭園指定範囲内の配管工事部を対象とした本発掘調査の他、その他の配管工事部に対して立会い調査を実施している。

貯水槽調査区では、中世から近世に至る６時期の遺構面が確認され、中世から近世をとおして井戸、埋桶、溝など水場として利用されていたと考えられている。名勝庭園内の調査区では、旧中門跡の可能性がある基壇、正徳期の火災層や石組暗渠が検出され、現在の名勝庭園が正徳以後に築造されたことが明らかになるなど大きな成果が得られている。

⑤の試掘調査では、計５箇所のトレンチを設定して調査されており、２トレンチは今回の調査区に南接する。地形的には、３・４トレンチ付近にかけては平坦面をなすが、２トレンチの手前で急激に北へ落ち込んでいることが確認されている。また、１・５トレンチでは、南北方向に延びる石積みが認められ、近世に西側へ土地の拡張がなされたようである。３トレンチでは、多量の瓦など近世の遺物とともに焼土面や鞴の羽口が検出されている。３・４トレンチで中世遺物が希薄であるのに対し、２トレンチで瓦器片など中世の遺物が多く出土していることから、南側を削った土を北側へ持ち込んで整地した可能性がある。調査区が狭いこともあり、建物跡など当時の土地利用状況を推定できる遺構は見つかっていない。

なお、この調査により粉河寺遺跡の範囲が長屋川の南まで拡張されることとなった。

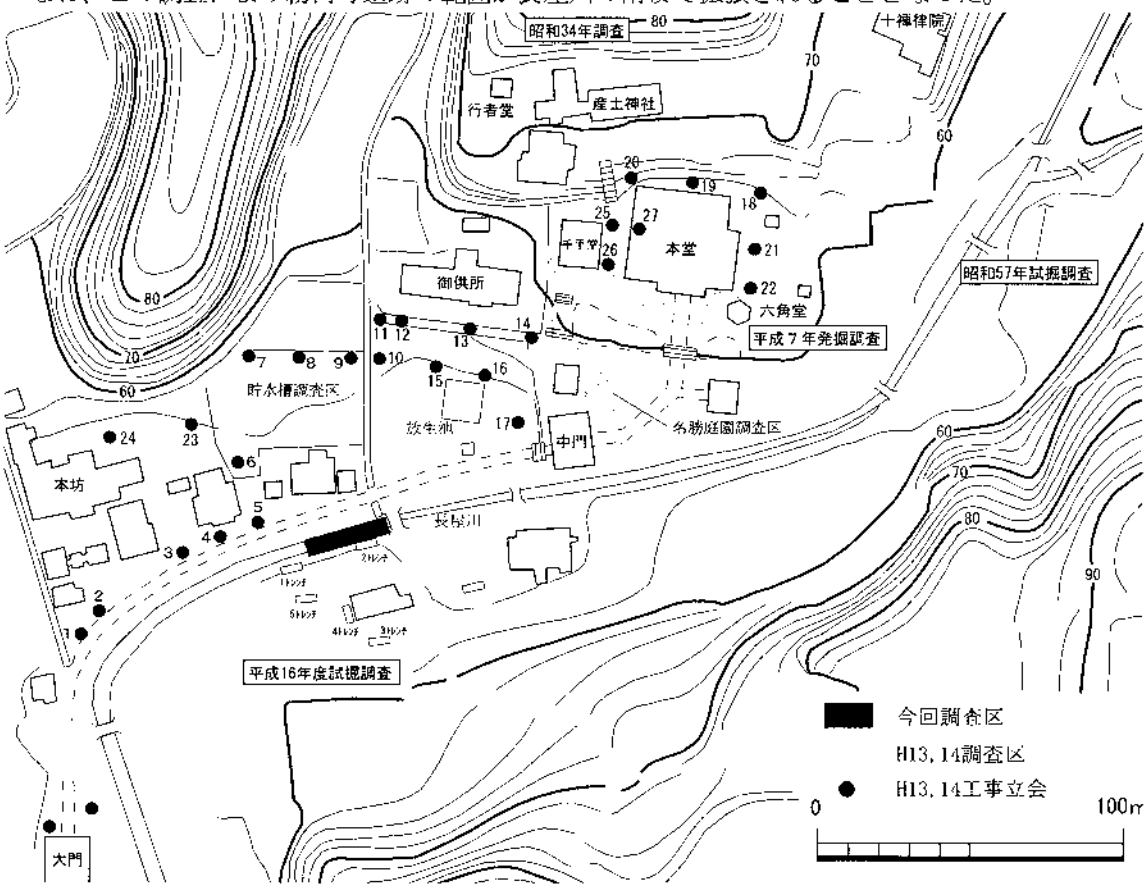


図４　調査区位置図(S=1/2,500)　＊参考文献３掲載図を一部加筆・修正

第Ⅲ章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

１．調査地の地区割　今回の調査では、変則的であるが２種の地区割を設定した。機械掘削から石積み遺構検出までは、国土座標第Ⅵ系（世界測地系）を使用した地区割①を、それ以後は石積み遺構・トレンチの位置を基準とした地区割②を使用した。

地区割①は、粉河寺遺跡を網羅する範囲の北東に位置するX=-190.300km、Y=-54.500kmを基点として行った。この基点から西方向と南方向にそれぞれ１辺100mの正方形区画を１単位とした大区画（東西方向をA～Y、南北方向を１～25）を設定し、さらにこの大区画を4m毎に割り、小区画（東西方向をａ～ｙ、南北方向を１～25）を設定した。各地区はこれらの組合せで呼称した（例：4D11a）。

地区割②については、ａ:調査区が狭小で細長い、b:調査区長短辺と座標軸の間に20度近い角度差がある、c:土層が厚く、かつ傾斜して堆積していることから、地区割①では適正な出土位置の把握が困難で作業効率が著しく低下するため、調査区を石積みに平行する方向に4分割、直行する方向に4分割した（図５）。いずれの地区割も、標高はT.P.を使用した。

遺物の取り上げは、特別な場合を除き地区割①または②の区画単位で行った。

２．調査の方法　調査対象は、長屋川左岸に沿う約220㎡(図４)である。調査前まで機能していた石垣と表土(１層)を重機で掘削、これ以下を人力により掘削した。なお、３・４区については、一部既に整備工事が及んでいたため、表土から約1.5m掘削された状態から調査を開始した。

１層除去後、２層上面で遺構検出（近世遺構面）、その後東西の壁と３箇所設けた南北方向トレンチの上層断面を観察しながら各層ごとに掘削し、石積み遺構を検出した。この作業途中、事業者と県教育委員会の協議により１・２区の南側約14㎡について追加調査することとなったが、拡張部については既に重機の侵入が困難であったため、表土から人力で掘削した。また、拡張時には既に第２層以下を掘削中であり、近世遺構については個別に記録した。

発掘調査によって出土した遺物は、破片数で約12,800点、遺物収納コンテナ（28ﾘｯﾄﾙ）約45箱分に及ぶ。平成18・19年度の約4.5ヶ月で整理作業を実施し、出土遺物は本書作成後和歌山県教育委員会へ移管した。

なお、調査コードは、「06-07・022」であり、この記号を用いて記録類及び出土遺物を管理している。

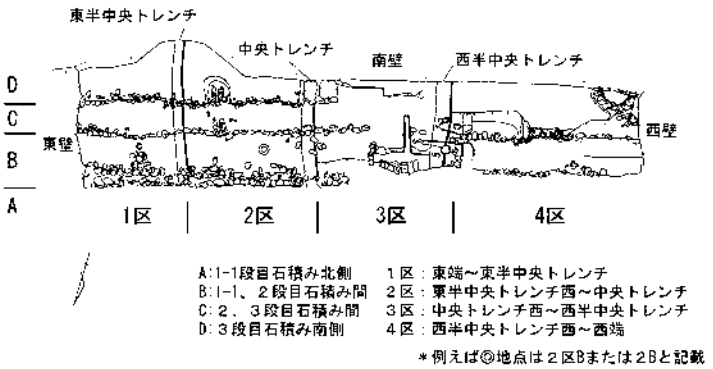


図５　調査地区割②図

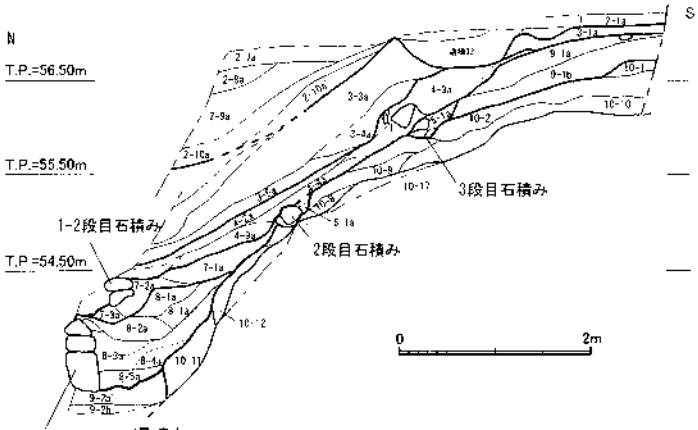
第２節　層序

調査区は長屋川左岸に沿って延長約30m、上端幅員約５mの狭小な範囲であり、北面と東面には石垣が構築されている。

石積みや石垣を築造するために人為的に持ち込まれた土が多く認められることから、厳密に各土層の連続性を把握することが困難な場合も多数存在する。このため、土層番号は、出土遺物の特徴も考慮しながら、その土層の位置と性格から大きく10層に分割した。また、この層番号以下には数字及びアルファベットが付してあるが（例：8-3a）、両者とも同一の場合は土層の連続性が確実であるもの、数字のみ同一である場合は同一土層の可能性が高いものを示している。

10層は無遺物層で、２・３区付近で北側に張り出す。土質は場所によって大きく異なっている。東半では南側の高い位置に堆積する黄色系の細砂～シルト質の土層と、それ以下に堆積する橙色系の砂礫土に大きく分かれる。西半は灰色系砂礫の河川堆積土である。

９層は石積み築造前の自然堆積土で、平安時代後半～鎌倉時代前半の遺物包含層である。３段目石積み以南が9-1層、1-1段目石積み下が9-2層、1-2～３段目石積み下が9-3層である。9-1層は工事による削平のため１・２区にのみ遺存する。9-3層は地形が東方へ落ち込む１区東端に厚く堆積し、地山の張り出す２・３区付近には認められない。なお、図８で9-3層は８層の上に堆積しているが、出土遺物の時期から見て、石積み構築時に成形したために土層が逆転したものと判断し９層としている。9-2a層は、中央トレンチ付近の石積み下だけでなく背後にも堆積することから1-1段目構築時に成形している可能性がある。



1層：表土
2層：近世石垣（現石垣）築造時の整地土
-1a　褐色(10YR4/4)細砂　やや軟
-7a　にぶい黄褐色(10YR4/3)中砂　やや硬　粗砂混じる、～5cm大の丸礫
-8a　黄褐色(2.5Y5/6)中砂～粗砂　硬　灰色土混じる
-9a　にぶい黄褐色(10YR4/3)中砂　やや硬　粗砂・他色土斑状、～2cm大の丸礫少量
-10a 灰黄褐色(10YR4/2)中砂　粗砂・他色土斑状に混じる
-10a'オリーブ褐色(2.5Y4/3)中砂　やや硬　粗砂・他色土斑状に混じる
3層：石積み廃絶後の堆積土
-1a　灰黄褐色(10YR4/2)細砂　やや硬　粗砂混じる
-3a　灰黄褐色(10YR4/2)中砂　やや硬　粗砂・黄白色粒斑状に混じる
-4a　褐色(10YR4/4)中砂　硬　砂礫・他色土斑に混じる
-5a　オリーブ褐色(2.5Y4/4～4/6)細砂　明黄褐色粗砂混じる
4層：石積み崩落土（一部3層に含まれる可能性あり）
2a　オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト　やや硬　少量の粗砂・黄白色土斑に混じる
-3a　にぶい黄褐色(10YR4/3)中砂　やや軟
-4a　オリーブ褐色(2.5Y4/3)、褐色(10YR4/4)シルト～細砂　やや硬　～10cm大の丸礫中量
-9a　オリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂、褐色(10YR4/4)細砂～中砂　やや硬　～10cm大の丸礫中量
5層：3段目石積み構築土
-1a　オリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂　やや硬　黒色粒含む、上位に黄味土混じる
6層：2段目石積み構築土
-1a　オリーブ褐色(2.5Y4/3)粗砂　やや硬　小礫・黒色粒混じる
7層：1-2段目石積み構築土
-1a　オリーブ褐色(2.5Y4/4)細砂～中砂　やや硬　オレンジ粒含む
-2a　オリーブ褐色(2.5Y4/4)細砂～中砂　黄色粒少量含む
-3a　暗灰黄色(2.5Y4/2)中砂　やや硬　粗砂混じる
8層：1-1段目石積み構築土
-1a'オリーブ褐色(2.5Y4/3)中砂　やや軟　粗砂・炭・黄色土斑に混じる
-1a　オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト　やや軟　粗砂混じる
-2a　暗灰黄色(2.5Y4/2)細砂　やや軟　粗砂混じる、～5cm大の丸礫中量
-3a　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト～細砂　下位ほど粗砂多い
-4a　黄灰色(2.5Y4/1)粗砂　やや軟　小礫含む
-5a　灰色(7.5Y4/1)細砂　やや軟　小礫中量
9層：石積み構築前堆積土
1a　褐色(10YR4/6)細砂　やや硬　粗砂混じる(5層の可能性もあり)
-1b　にぶい黄褐～暗褐色(10YR4/3～3/3)シルト　やや軟　粗砂混じり、～5cm大丸礫少量
-2b'黒褐色(2.5Y3/1)中砂　やや軟
-2b　暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)粗砂
10層：無遺物層
-1　黄褐色(10YR5/6)細砂　やや軟　礫ほとんどなし、黒味あり
-2　黄褐色(10YR5/6)細砂　やや軟　礫ほとんどなし
-8　黄褐色(10YR5/6)　やや軟
-9　にぶい黄褐色(10YR4/3)中砂　粗砂混じる
-10　黄褐色(10YR5/6)細砂～中砂　～5cm大角礫中量
-11　褐色(10YR4/6)粗砂　小礫混じる　やや硬
-12　オリーブ褐色(2.5Y4/6)シルト　礫少量　やや硬
17　明褐色(7.5YR5/8)砂礫

図６　東半中央トレンチ土層断面図（S=1/80）

８層は、1-1段目石積み構築土である。大部分が石積み構築前の堆積土と考えているが、石積構築時に大きく成形した可能性が高い点を考慮し８層とした。鎌倉時代の遺物を含む。

７層は、1-2段目石積み構築土で、鎌倉時代から室町時代前半の遺物を含む。

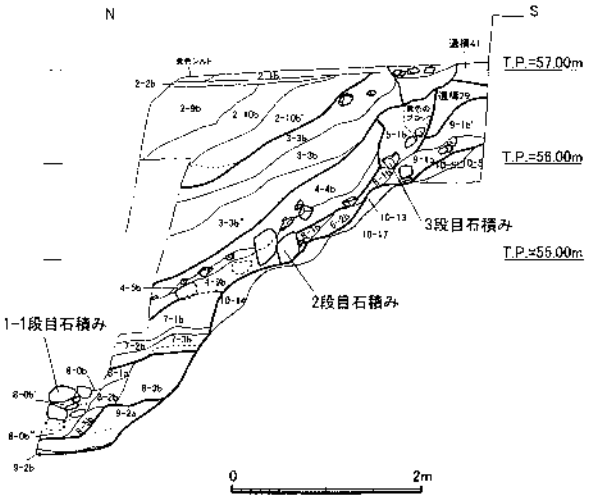
６層は、２段目石積み構築土である。４区の石積み部を除きほとんど遺存していない。平安時代後半～鎌倉時代の遺物を含む。

５層は、３段目石積み構築土である。３・４区は既に消失しており、１・２区にのみ堆積している。図６の9-1a層は５層の可能性もある。鎌倉時代の遺物を含む。

４層は、石積みの崩落土と考えられる堆積層であるが、厳密に抽出することは難しく、一部３層を含むものと思われる。鎌倉時代後半の遺物とともに15世紀後半の遺物が出土している。

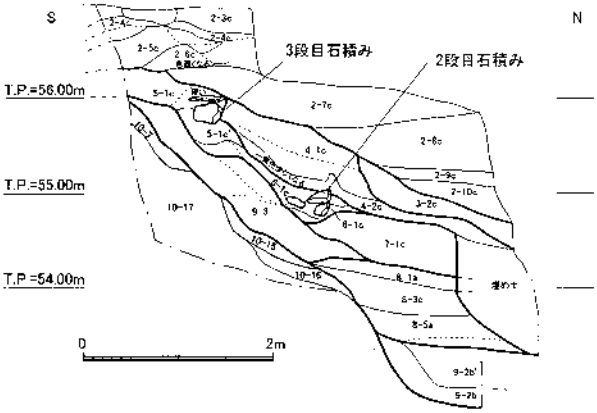
３層は、石積み廃絶後の自然堆積土である。灰色系の中砂～細砂で、15世紀後半を中心とした遺物を含む。

２層は、石垣構築時の黄色系整地土で17世紀の遺物が出土する。１層は現代の表土である。



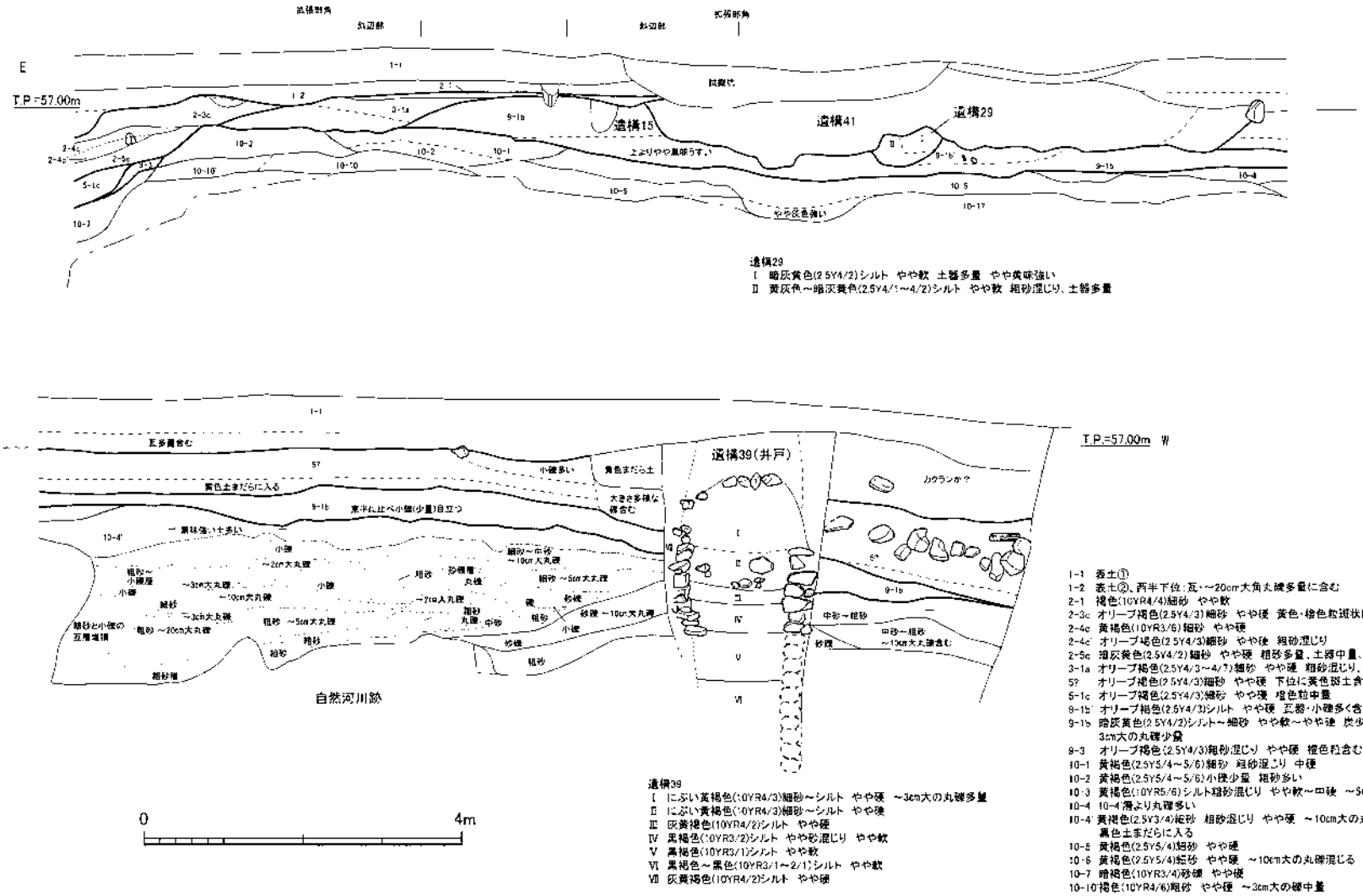
2-1b オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト　やや硬　中砂混じり
2-2b オリーブ褐色(2.5Y4/3)粗砂　硬　直径1～2cm大の礫入る
2-9b 明黄褐色(10YR6/6)細砂　硬　粗砂混じり、灰黄褐色(10YR4/2)中砂多量にまだらに含む　～5cm大丸礫中量
2-10b 明黄褐色(2.5Y6/6)シルト　硬　粗砂混じり、にぶい黄褐色(10YR5/3)細砂粗砂混じり　部分的に入る。～2cm大丸礫少量
2-10b'にぶい黄褐色(10YR4/3)粗砂　やや硬　黄褐色(10YR5/6)粗砂まだらに入る　～1cm大丸礫中量
3-3b にぶい黄褐色(10YR4/3)中砂　やや硬　～1cm大礫少量
3-3b' オリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂　やや軟　土師・瓦器片混じり、灰色シルト局所的に入る
3-3b"灰黄褐色(10YR4/2)中砂　やや硬　黄・赤・橙色粒多く含む
4-4b 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト　やや硬　粗砂混じり、橙・白色粒多い。
4-5b 黄灰色(2.5Y4/1)中砂　やや硬
4-9b オリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂　粗砂混じり　やや硬
5-1b 黄褐色(2.5Y5/4)細砂　やや軟～やや硬
6-1b 暗灰黄色～オリーブ褐色(2.5Y4/2～4/3)シルト～細砂　やや硬
6-2b オリーブ褐色(2.5Y4/4)細砂　やや硬
7-1b オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト～細砂　やや軟　粗砂混じり、黄色粒含む
7-2b オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト　やや硬　黄色粒含む
7-3b 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト　やや硬　～5cm大丸礫中量含む、土器中量
8-0b オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト　黄色粒含む
8-0b' オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト　上より均質
8-0b" オリーブ黒色(5Y3/2)細砂　やや軟
8-1a オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト　やや硬　土器中量、～3cm丸礫少量
8-2b 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト　やや硬　黄色粒、土器中量、小礫中量
8-3b 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト　炭多く含む、土器多量、～3cm大丸礫中量
8-5b 灰色(5Y4/1)粗砂～シルト　やや軟　～5cm大丸礫少量
9-1b' オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト　やや硬
9-1b 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト　やや硬
9-2a オリーブ黒色(5Y3/1)シルト～細砂　やや軟　上位ほど粘性大きい
9-2b 暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)粗砂～砂礫層　やや軟
10-5' オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト　～3cm大丸礫中量
10-5 黄褐色(2.5Y5/4)細砂　やや硬
10-13 暗灰黄色(2.5Y4/2)中砂～粗砂ベース　やや硬　～5cm大の角丸礫
10-14 褐色(10YR4/4)
10-17 黄褐色(10YR5/8)砂礫

図7　中央トレンチ土層断面図(S=1/80)



2-3c オリーブ褐色(2.5Y4/4)粗砂　軟
2-4c 明黄褐色(2.5Y6/6)シルト　粗砂混じる
2-5c 灰黄褐色(10YR4/2)中砂　硬
2-6c オリーブ褐色(2.5Y4/4)中砂　硬　～2cm大丸礫少量
2-7c 黄褐色(2.5Y5/4)　硬　～1cm大の丸礫中量　黄色の土多く含む
2-8c 黄褐色(2.5Y5/4)中～細砂　硬　～2cm大の丸礫少量　他色土斑状
2-9c 黄褐色(10YR5/6)粗砂　硬　～2cm大の丸礫少量
2-10c オリーブ褐色(2.5Y4/4)中砂　硬　粗砂混じり　他色土斑状
3-2c オリーブ褐色(2.5Y4/3)粗砂　やや硬　～3cm大丸礫含む
4-1c 黄褐色(2.5Y5/4)中砂～粗砂　やや硬
4-2c 黄褐色(10YR5/6)シルト　やや硬　白色粒等他色土斑に含む
5-1c オリーブ褐色(2.5Y4/3)中砂　やや硬　粗砂まじり
5-1c' オリーブ褐色(2.5Y4/4)細砂　やや硬　粗砂・黄色粒含む
6-1c 褐色(10YR4/4)細砂
6-1c' 褐色(10YR4/4)細砂　やや硬　下位:にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂　やや硬
7-1c 褐色(10YR4/4)中砂　やや硬　～10cm大の丸礫少量
8-1a' オリーブ褐(2.5Y4/3)中砂　やや軟
8-3c 暗灰黄色(2.5Y3/2)細砂　やや硬　粗砂混じる
8-5a 灰色(7.5Y5/1)細砂　やや軟　グライ化
9-2b' 黒褐色(2.5Y3/1)中砂　やや軟
9-2b 明オリーブ灰色(2.5GY4/1)粗砂
9-3　にぶい黄褐色(10YR4/3)中砂　やや硬　橙色粒中量
10-7 にぶい黄褐色(10YR4/3)粗砂　～3cm大の丸礫中量　硬
10-15 黄褐色(2.5Y5/4)細砂　やや硬　均質
10-16 明褐色(7.5YR5/8)粗砂　～5cm大丸礫混じり

図8　東壁土層断面図(S=1/80)



遺構29
Ⅰ 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト やや軟 土器多量 やや黄味強い
Ⅱ 黄灰色～暗灰黄色(2.5Y4/1～4/2)シルト やや軟 粗砂混じり、土器多量

遺構39
Ⅰ にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂～シルト やや硬 ～3cm大の丸礫多量
Ⅱ にぶい黄褐色(10YR4/3)細砂～シルト やや硬
Ⅲ 灰黄褐色(10YR4/2)シルト やや硬
Ⅳ 黒褐色(10YR3/2)シルト やや砂混じり やや軟
Ⅴ 黒褐色(10YR3/1)シルト やや軟
Ⅵ 黒褐色～黒色(10YR3/1～2/1)シルト やや軟
Ⅶ 灰黄褐色(10YR4/2)シルト やや硬

1-1 表土①
1-2 表土②、西半下位：瓦・～20cm大角丸礫多量に含む
2-1 褐色(10YR4/4)細砂 やや軟
2-3c オリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂 やや硬 黄色・橙色粒斑状に混じる
2-4c 黄褐色(10YR3/6)細砂 やや硬
2-4c' オリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂 やや硬 粗砂混じり
2-5c 暗灰黄色(2.5Y4/2)細砂 やや硬 粗砂多量、土器中量、炭、黄色粒含む
3-1a オリーブ褐色(2.5Y4/3～4/7)細砂 やや硬 粗砂混じり、礫多く含む
5? オリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂 やや硬 下位に黄色斑土含む
5-1c オリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂 やや硬 橙色粒中量
9-1b 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト～細砂 やや軟～やや硬 炭少量、3cm大の丸礫少量
9-3 オリーブ褐色(2.5Y4/3)粗砂混じり やや硬 橙色粒含む
10-1 黄褐色(2.5Y5/4～5/6)細砂 粗砂混じり 中硬
10-2 黄褐色(2.5Y5/4～5/6)小礫少量 粗砂多い
10-3 黄褐色(10YR5/6)シルト粗砂混じり やや軟～中硬 ～5cm大丸礫
10-4 10-4層より丸礫多い
10-4' 黄褐色(2.5Y3/4)細砂 粗砂混じり やや硬 ～10cm大の丸礫 黒色土まだらに入る
10-5 黄褐色(2.5Y5/4)粗砂 やや硬
10-6 黄褐色(2.5Y5/4)粗砂 やや硬 ～10cm大の丸礫混じる
10-7 暗褐色(10YR3/4)砂礫 やや硬
10-10 褐色(10YR4/6)粗砂 やや硬 ～3cm大の礫中量

図9 南壁土層断面図(S=1/80)

第３節　調査の成果

平安時代から近世に至る遺構と遺物を検出した。平安時代後半の遺構はなく、長屋川左岸の斜面上に遺物の堆積が認められるのみである。鎌倉時代前半に入ると上面に遺構が認められるが、形状や用途ははっきりしない。斜面には大量の瓦器・土師器皿が堆積する。室町時代では４段の石積みと、２ヶ所の階段部を検出した。14世紀後半から15世紀中頃の遺物は希薄で、石積み廃絶後斜面上に遺物が堆積するのは15世紀後半である。この後再び空白期間を経て、17世紀に整地・石垣の築造がなされる。近世では石列遺構などを検出したが、調査範囲が狭小なこともあり、全体像を復元するには至らなかった。

1. 石積み築造前の遺構と遺物(図7・9・20～22・25、図版7～10)

９層出土遺物が該当する。１区東端の落ち込み部に堆積する9-3層からは、口径15cmを超える土師器大皿(1)や外面ミガキは認められないが内面ミガキの密な瓦器椀(2)などが出土している。層序の項でも述べたように、図８で8-1a'層上に9-3層が堆積しているが、1,2など出土遺物の遺存状況がよく磨耗も少ないことから、石積み築造の整地時に逆転したものと考えられる。2区の上部に堆積する9-1b層からは玉縁口縁の白磁碗(7)、いわゆるての字状口縁皿(8)、大きく突出した突帯を有する土師器羽釜(20)や口縁外面がヨコナデにより凹む土師器椀(12)、３区斜面下部に堆積する9-2b"層からは、口縁が内湾しながら立ち上がる東播系片口鉢(34)や外面ミガキを施す瓦器椀(35)など12世紀代まで遡る遺物が出土している。

９ 2a層は２区Bの石積み遺構下から背面に堆積する。石積み築造時に土層を成形している可能性があるが、下に堆積することから９層とした。土師器羽釜(40～45)、瓦器盤(57)、瓦器椀(58～61)等が出土している。40～42は直立する口縁部、43～45は外反する口縁部をもち、20,33と比べ突帯が退化する。59～61も下層出土瓦器椀に比べ器高、口径とも縮小し、高台も退化している。土師器皿(56)のような口径の縮小した大皿も認められる。以上から13世紀代の堆積層と考えられる。

遺構については、調査区の大部分が傾斜地であるため、２区Dの中央トレンチ及び南壁で遺構29の断面を確認したのみである。中央トレンチ南北断面では、3段目の石積み築造時に北半が消失している。遺物は土師器皿(167・168)、瓦器椀(169)などが出土している。12～13世紀に機能した遺構と考えられる。

2. 石積み(図10～17・22～25、図版1～4・6・9～13)

長屋川の左岸約25mにわたり石積み遺構を検出した。東端部は近代の石垣築造時に破壊されており、東へさらに延びていたかどうかは不明である。西端については、河川改修工事中の県教育委員会による調査で石組遺構が部分的に検出されていることから西へ続いていたものと考えられる。

石積みは長屋川に並行して計４段構築されている。下から1-1段、1-2段、２段、３段目の石積みとして記載する。西半の３段目は既に工事のため削平されており遺存しない。西半の1-1段目については、近世の石垣築造時に消失したものと考えられる。

石積みの高さは1-1段目基底部から３段目上端部までで3.5m～４mを測る。各段の石列の上部は、大部分が消失しているが、高いところで１m程度遺存する部分もある。1-2・２段目間、２・３段目間は平面距離1.5m前後の間隔をあけるが、1-1・1-2段目間は40cmと間隔が狭い。

また、西半中央トレンチ付近、東半中央トレンチ西に階段状の施設が設けられていたことを確認した。以下に各段ごとの石積みと２箇所の階段について記述する。

(1)1-1段目　１・２区で検出した。砂岩の自然石を野面積みしている。基底部には大きいもので40～50cm大の石を据え、上部には20～30cmのやや小振りな石を積み上げている。上端部の石がところどころ崩れて天端のラインが一定しないが、1-2段目の高さから考えて、1-1段目石積み高さは80cm程度と考えられる。１区では石積み上部が前方にやや孕んでいる。

この石積みに関連する堆積層は８層である。１区については、石積みの背後に裏込め栗石層と呼べるような構造はなく、シルト質の土層で石積みを支持している。２区については、20～30cm大の砂岩礫が石積み背後上部に埋設されていた（図版２）。上端部に部分的に認められるのみであることから裏込めの栗石としての機能を担っていたとは考え難い。また、胴木や栗石敷きなどの基礎構造は認められなかった。

遺物は、8-3層を中心として多量に出土している。106は外面タタキ、底面に木の葉の圧痕が明瞭に残る。108は瓦質のこね鉢で口縁外面がヨコナデにより凹む。この他、土師器羽釜、東播系片口鉢、瓦器椀、土師器皿、青磁、白磁、石鍋、４cm大の不明鉄器１点などが出土しており、大部分が9-2a層と同様、13世紀代の遺物であるが、青磁杯(82)、高台の消失した瓦器椀(88・103)、いわゆる土師器ヘソ皿(112)など14世紀に下る遺物が少量含まれる。石積み築造前の堆積層(13世紀代)を成形して1-1段目の石積みを築造したことにより生じた遺物構成と考えられる。築造時期は、後述の４層出土遺物を考慮すれば14世紀中頃から15世紀後半の間に収まる。

(2)1-2段目　1～４区で検出した。1-1段目同様、砂岩の自然石を用いているが、1-1段目ほど大きくない。遺存状況は悪く、大部分が基底石を残すのみである。１区では２段目との高低差が小さく、最大でも50cm程度の高さに復元できる。この石積みに関連する堆積層は７層である。石積背後に裏込め栗石層の役割を担う構造や、胴木、栗石敷きなどの基礎構造は認められない。

遺物は、８層と同様大部分を13世紀代の土器が占めるが、14世紀以降に下る遺物も一定量含まれる。124は蓮弁文青磁碗で、蓮弁は丸みを持ち稜はやや不明瞭である。125,129は、倣建窯系の黒釉天目茶碗である。灰色系の胎土で鉄釉・黒釉を二重掛けする。茶溜り部には茶筅痕が明瞭に残る(図版13)。125の底部外面には成形時に付いた工具痕が段状に認められる。この他、鉄釘と

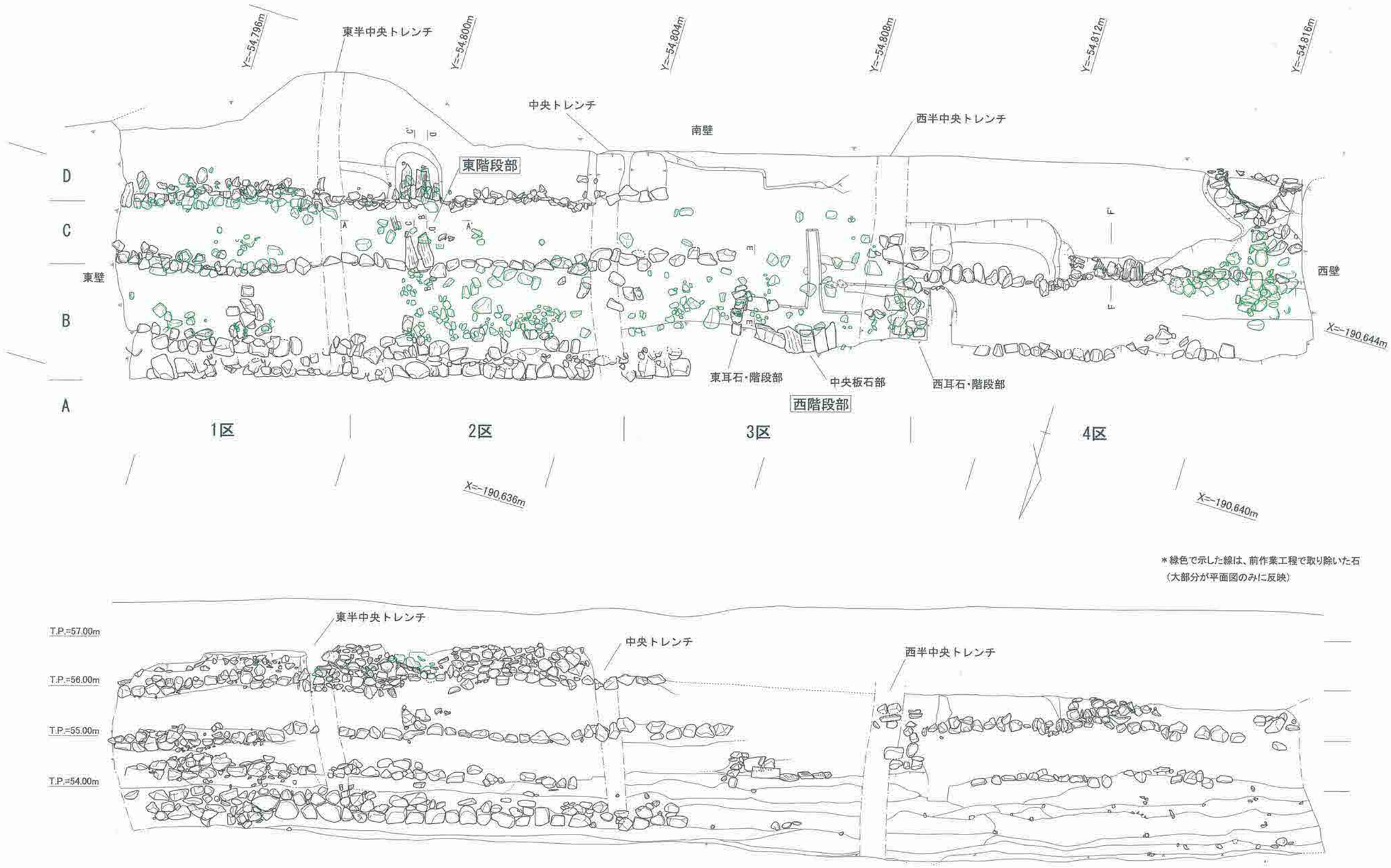


図10 石積み遺構平面図・立面図(S=1/80)

思われる棒状鉄器3点、10cm大の不明鉄器1点が出土している。

築造時期は、1-1段目と同様、14世紀中頃から15世紀後半の間に収まるものと考えられる。

(3)2段目　1～４区で検出した。砂岩の自然石を主体とするが、一部結晶片岩も含まれる。最大でも40cm程度のやや小ぶりな石を用いている。遺存状況は悪く、大部分が基底石を残すのみであるが、４区で高さ60～70cmの石積みが残る。基底石の標高は西へ行くほど高くなり、東西端での高低差は約40cmである。

この石積みに関連する堆積層は６層である。石積み背後に裏込め栗石層の役割を担う構造はないが、１段目と異なり明瞭な掘形が認められる。この掘形埋土を6-1層、ベースとなる土層を6-2層としている。胴木や栗石敷きなどの基礎構造は認められない。

遺物は、1-2段目に比べ全般に古い様相を示すものが多い。6-2層出土の土師器羽釜(136)の突帯は大きく突出する。瓦器椀(140)は大きく外に張り出す高台をもち、外面にもミガキが施される。土師器椀(138)は口縁部に２段のヨコナデが認められる。6-1層では、6-2層と同様、149など12世紀以前に遡る遺物が出土する一方、高台の消失した14世紀代の瓦器椀(146)が含まれる。この出土状況から、12世紀以前に堆積した土層を成形して、14世紀中頃以降に石積みを築造したものと考える。下限は４層出土遺物から15世紀後半である。地山の張り出しがない１・４区にやや古い土層が堆積していたようである。6-2d層は４区では石積み下にも堆積することから、９層として扱ったほうが適切であったかもしれない。

(4)3段目　１・２区で検出した。西半は、表土から1.5m程度が工事により既に削平されていた。砂岩の自然石を主体とするが、一部結晶片岩も含まれる。石積の遺存状態は４段の中で最も良く、80cm程度の高さが残る。石の大きさは一定せず10cm弱～40cm程度の石が乱雑に積み上げられている。石間には土が介在する部分も多く認められ、石積みは非常に雑な印象を受ける(図版２)。石積み上部は前方に大きく張り出し、崩落の危険性が高かったため、基底部の検出前に上部の石積みを一部取り除きながら調査を進めた。

この石積みに関連する堆積層は５層である。石積背後に裏込め栗石層の役割を担う構造はないが、２段目同様、明瞭な掘形が認められる。この掘形埋土を5 1層としている。胴木や栗石敷きなどの基礎構造は認められない。

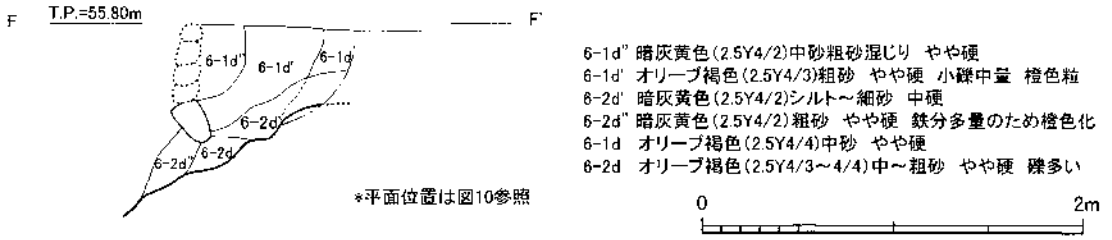


図11　4区2段目石積み部南北断面図(S=1/40)

遺物の出土量は少ない。図化できる遺物は全て12世紀まで遡る遺物であるが、第Ⅳ章で述べるように、２段目構築後に３段目が造られることから、やはり14世紀中頃から15世紀後半に築造されたものと考えられる。

(5)東階段　２区で検出した。２段目石積み付近について見ると、長さ80cm前後、幅約30cm、厚さ約10cmの板状の結晶片岩２枚が２段目石積みを２石積み上げた上に設置されていた。２段目から３段目にかけても、小ぶりであるが棒状の結晶片岩１点が据えられる。やや浮いた状態で原位置はとどめていなかったが、他に１点の棒状結晶片岩を確認している。これらの板状・棒状の石材は、ベース面を緩い皿状に掘削した後設置している(図15、図版６)。石の設置自体は掘削をしなくても可能であることから、ベース面の傾斜を緩くすることによって板石埋設土が流れ落ちにくくするための工夫であると考えられる。

３段目石積み部は、長さ最大70cm、幅20cm前後、厚さ5cm程度の板状結晶片岩が最低でも３枚設置されていた。間には平坦面を持つ棒状の砂岩も確認している。これらの石は、３段目石積みの石を基底部から３石積み上げた上に据え置かれたものと考えられる(図版３)。西側については下の石材が抜けてしまったためか、北から見て右下がりの状態で検出された。図12では、基底石自体も前方に押し出されている様子が観察できる。

図12～15の土層堆積状況から、この階段部は２・３段目石積みも含めて、下から順に構築されたことがわかる。また、断面図には反映できていないが、図10の緑色で記載した石、図版３に示すように、前述の３段目板石の上

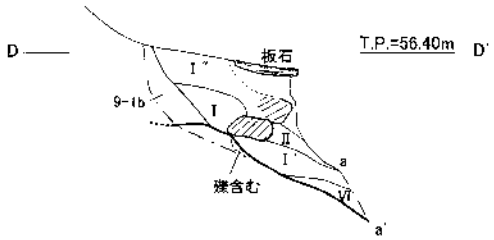


図12　東階段 3段目板石部南北断面図①(S=1/40)

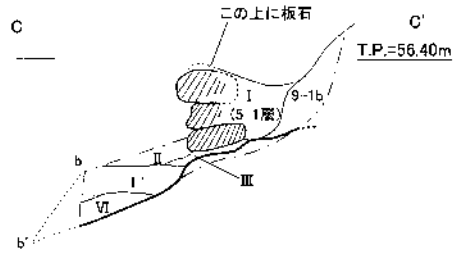


図13　東階段 3段目板石部南北断面図②(S=1/40)

Ⅰ,Ⅰ'　オリーブ褐色(2.5Y4/3)　黄色土まだらに多量　中砂　粗砂混じり　やや硬
Ⅰ"　オリーブ褐色(2.5Y4/3)　細砂～シルト　中硬
Ⅱ　オリーブ褐色(2.5Y4/3)粗砂　やや硬　黄色粒少量含む
Ⅲ　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト　中硬
Ⅳ　黄褐色(2.5Y5/6)シルト～細砂　粗砂混じり　礫等不純物少ない 中硬
　　オリーブ褐色(2.5Y4/3)粗砂　やや軟
Ⅴ　オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト～細砂　丸礫多くあり
Ⅵ　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト　炭,土器橙色粒含む　やや軟
Ⅶ　黄褐色(2.5Y5/6)シルト～細砂　粗砂混じり　礫等不純物少ない 中硬

＊平面位置は図10参照

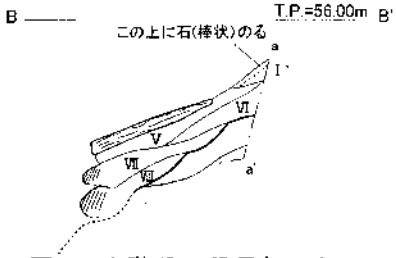


図14　東階段 2段目板石部
南北断面図(S=1/40)

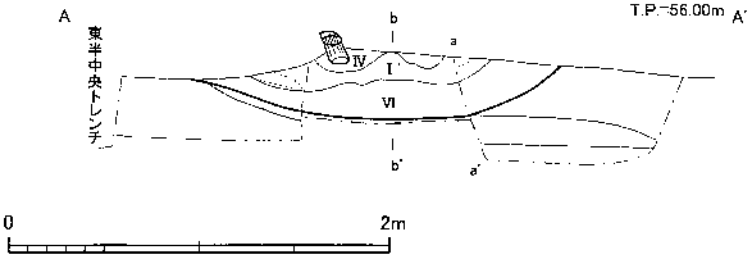


図15　東階段 2～3段目間東西断面図(S=1/40)

に、砂岩を介して結晶片岩の板石が２枚同方向に据えられていた。３段目石積み天端の東西約１m、南北約1.5mの範囲に堆積していた柔らかい黄色斑土を除去した際に検出したもので、これ以下の埋土は明らかに硬く、埋没状況が異なると判断できた。これらのことから、少なくとも３段目の石積み部では、新旧２時期にわたって階段として利用されていたと考えられる。

１段目・２段目間については、階段としての使用状況を十分確認することができなかったが、図11の緑色石（前工程で取り除いた石）、図版３を見ると、２区西半、特に階段と考える板石の延長線上に小礫が多く分布していることがわかる。形態は不明だが、通路として利用されていたことは十分推測可能である。

出土遺物は少なく、遺物から時期を比定することは難しいが、石積みとの関連からやはり14世紀中頃から15世紀後半の間に造られたものと考えられる。

(6)西階段　３区西半で検出した。検出した階段状遺構は、大きく分けて中央板石部、東耳石・階段部、西耳石・階段部がある。中央板石部は、長さ50cm、幅30cm前後、厚さ5cm程度の結晶片岩板石４枚で構成され、1-2段目の石積みから20cm程度南へ下がった位置に設置されている。図10及び図版４上にある東端の板石上にのる結晶片岩は、厚さが30cm近くあり平坦面をなすことから、廃絶後に移動したものであろう。

東耳石・階段部については、南北方向に１m余りを検出したのみである。全て砂岩を用い、耳石には細長く平坦面を持つ石材を選んで用いているようである。耳石西側に接して上面・北面、東西面が平坦面をなす幅40×奥行き30×高さ30cmの砂岩が設置されている。西隣の砂岩とともに階段のステップとして使われたものと考えられる。

西耳石部・階段部は南北方向に約２mを検出した。耳石の形状に統一性はなく、若干移動している石もあるため、東耳石部ほど整然とした並びではない。階段部についても、２段目石積み付近にほぼ水平に設置された結晶片岩製の板石を除けば、必ずしも階段に適した平坦面をもつ石とはいえないが、石の埋設状況や地山土の成形状況（図17)は、明らかに階段の構造を示している。

東西耳石間の状況を見てみると、中央部に設定した南北トレンチ断面では階段形状は確認できていない。また、図10や図版４の前工程で取り除いた石を見ても量は少なく、現状から全面に据えられた石階段の様子を復元することはできない。しかし、２段目石積みが東西耳石と考えている地点で途切れていることや中央板石の存在から、中央部についても入り口として使用

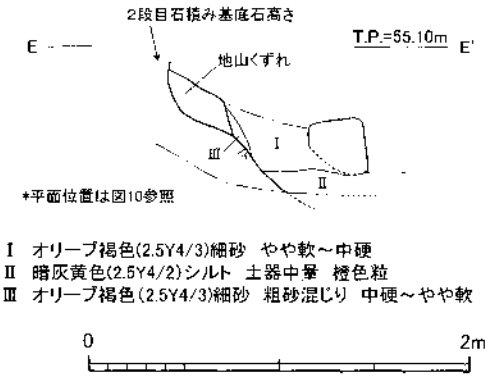


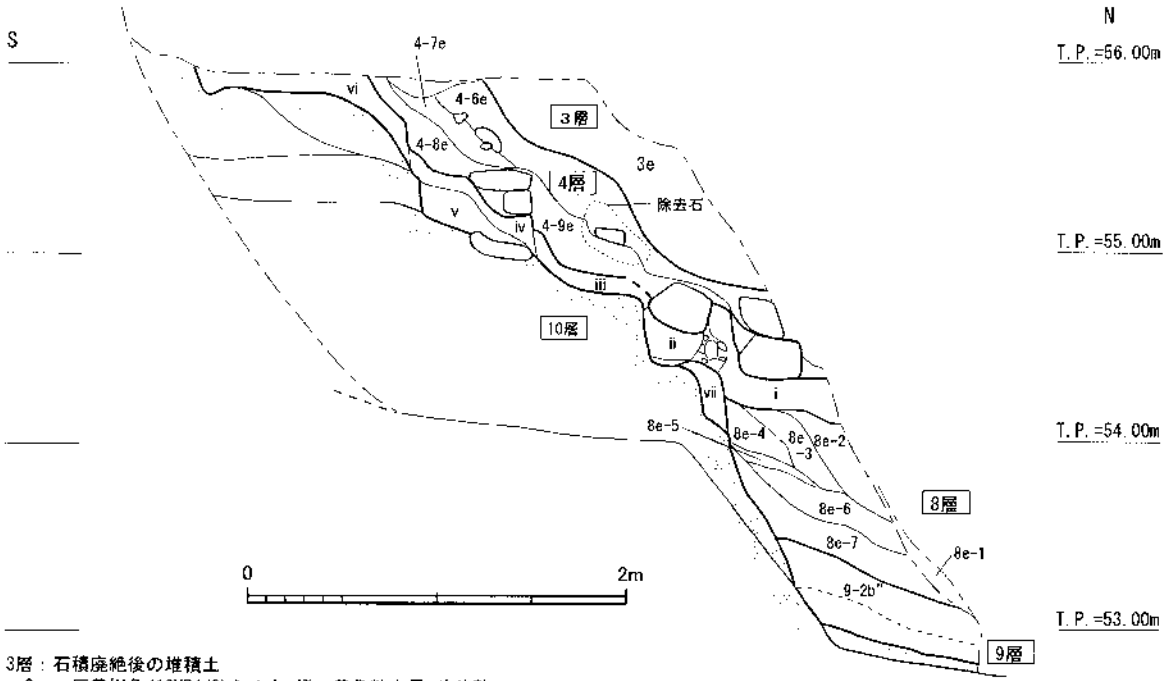
図16　西階段 東端部南北断面図(S=1/40)

されていたことは間違いないと思われる。両端のみ階段で中央は斜面と言う特異な構造を考える必要がなければ、石が抜き取られたかあるいは木製などの階段を考えても良いかもしれない。

遺物は、石埋設上から少量出土している。13世紀代に収まる遺物であるが、２段目石積みと同時期に造られた可能性が高いことから、やはり14世紀中頃から15世紀後半の築造と考えられる。

3. 石積み築造後の遺物(図25･26、図版13･14)

３、４層出土遺物が該当する。４層は、石積みが崩落した土と考えているが、その後の堆積層と厳密に分類することは難しい。ただし、この中で4 9層と4-3層は崩落土の可能性が非常に高い。出土遺物は、14世紀以前のものも出土するが、５層以下に比べると数量が減り破片も細かい。土師器皿は、底部が厚く平坦面を形成する形態が多くなり、口縁部径は小さくばらつきが認められる。上層の３層と形態が類似する。土師器の皿が多くを占めるため、時期の比定は難しいが、15世紀代と考えられる青磁が出土している。この他、鎹と思われる直角に屈曲する棒状鉄器１点



3層：石積崩絶後の堆積土
　3e　灰黄褐色(10YR4/2)シルト 橙・黄色粒少量 やや軟
4層：石積崩落土（一部3層に含まれる可能性あり）
　-6e　オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト～細砂 黄色粒少量 やや硬
　-7e　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト やや軟
　-8e　黄褐色(2.5Y5/3)シルト 均質 やや硬
　-9e　オリーブ褐色(2.5Y4/3)～黄褐色(2.5Y5/3)シルト
8層：1-1段目石積構築土
　e-1　青灰色砂礫土
　e-2　暗灰黄色(2.5Y4/2)中砂 黄色粒微量 やや硬
　e-3　黄灰色(2.5Y4/1)細砂 中砂混じる 下位ほど黄色土斑に含む
　e-4　暗灰黄色(2.5Y4/2)粗砂 白・橙・黄色粒含む
　e-5　黒褐色(2.5Y3/1)中砂 小礫混じる やや硬
　e-6　暗灰黄色(2.5Y4/3)中砂 粗砂・黄色粒中～多量混じる
　e-7　黄灰色(2.5Y4/1)細砂～中砂 やや硬
9層：石積構築前堆積土
　-2b" 上位：オリーブ黒色(5Y3/1)細砂 粗砂混じる やや軟
　　下位：暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)細砂 やや軟
10層：無遺物（砂礫層）

階段構築土
　i　暗灰黄色(2.5Y4/2)中砂 黄色土・～2cm大丸礫少量 やや軟
　ii　オリーブ褐色(2.5Y4/3)中砂 ～2cm大丸礫少量 硬
　　下位には黄灰色土
　iii　オリーブ褐色(2.5Y4/3～4/4)中砂 ～3cm大の角丸礫中量
　iv　暗灰黄(2.5Y4/2)中砂 小礫少量 やや硬
　v　オリーブ褐色(2.5Y4/3)中砂 粗砂・小礫・黄色粒中量 やや硬
　vi　暗灰黄色(2.5Y5/2)中～粗砂 赤・黄色粒少量 上位は黄味強い
　vii　オリーブ褐色(2.5Y4/3～4/4)中砂 小礫中量
　　灰・黄・白色粒斑状に含む

図17　西半中央トレンチ
（西階段西端）南北断面図（S=1/40）

がある。結果的には、石積み構築土出土の土師器皿と形態が大きく異なることから、４層とした大部分については、石積み廃絶後、15世紀代の堆積層とするのが妥当と思われる。

３層は石積み廃絶後の自然堆積層である。３・４層一括で取り上げを行った遺物を含めて 15 世紀後半の陶磁器類が急激に増加する。３・４層出土の龍泉窯系線描蓮弁文青磁碗（193, 197）、３層下位出土の土師器ヘソ皿（201）、瀬戸・美濃系陶器（200, 203, 204）、３層出土の備前焼擂鉢（207）、龍泉窯系青磁盤（208, 210, 211）、瓦質土器甕（214）・羽釜（215）、瀬戸・美濃系天目茶碗（209）などほぼ 15 世紀後半に収まる遺物が多数を占める。この他、長さ６cm、１辺４mm の方形断面を有する鉄釘１点が出土している。なお、３層下位とした遺物は、４区２段目の高さ 80cm ほど積みあがっていた石積み前面の下層堆積である。軒平瓦（212）は、瓦当に文字が刻まれている。「・・暦元年」？の可能性もあるが、一部欠損しているため断定はできない。暦？の文字の右上に横線が残り、わずかに屈曲する様子が観察できることから、仮に「・・暦元年」であるとすれば、治暦元年（1065）、元暦元年（1184）、嘉暦元年（1326）の可能性が考えられる。

4. 石垣築造時の遺物(図26、図版14)

上面平坦部を北側へ拡張するため、黄色系土を持ち込んで整地を行っている。大きくは、最初川沿いの北側に土を入れ、その後東側の傾斜部に土を入れて整地している。遺物はそれほど

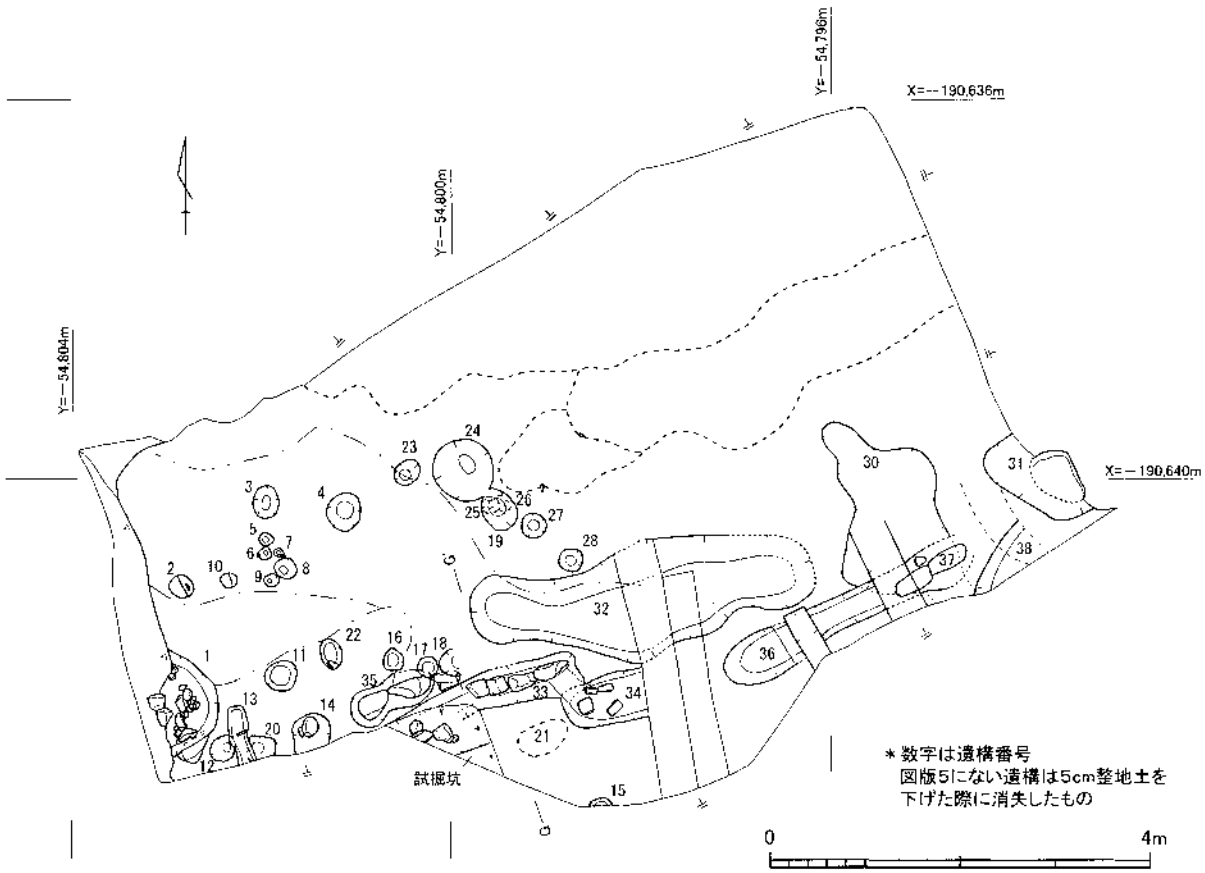


図18 2層上面遺構平面図(S=1/80)

多く出土していないが、17世紀代の肥前系陶器(221,223)、伊万里染付(222)の他、青花、藁灰釉杯など17世紀後半を下限とする遺物が出土している。この他、永楽通宝２枚や13世紀代の丹波焼(219)が出土している。

5．2層上面の遺構と遺物(図18・19・26、図版14)

2-1層上面で遺構を検出した。４区で遺構39(井戸)、１・２区で遺構33,35,37(石列)など近世の遺構を確認した。敷地の端であるためこれら遺構の機能まで特定することはできなかった。遺構37の石列については明らかに２層整地土の上に据えられていたことから近世遺構と考えていたが、遺構33,35については、遺構37と方向がやや異なり、ほとんど2層の堆積が認められない部位であった。また、東階段の軸線に直交しほぼ正面に位置することから、石積み遺構に伴う可能性も考えて調査を進めた。図19、東階段部の南北トレンチ断面を観察したところ、階段の３段目上部板石が埋没した土の堆積後石列が設置されていたことから、少なくとも東階段の埋没後であることが判明した。近世と断定はできないが、階段と無関係で、石積みから１mの近距離に位置することは不自然であることから、近世に属する可能性が高いと考えた。

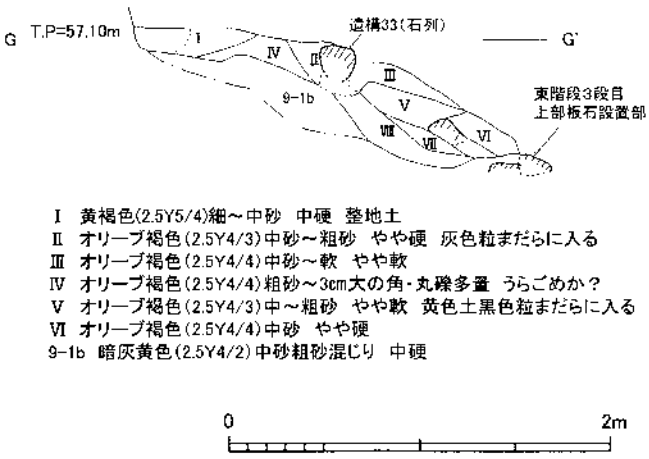


図19 遺構33(石列)南北断面図(S=1/40)

出土遺物は少ないが、井戸底付近からは18世紀代の波佐見焼が出土している。他の遺構についてもこれ以降の遺物が確認できないことから、近世中頃の遺構の可能性がある。

6．調査前の状況(図版5)

調査前の長屋川左岸には石垣が積まれていた。調査区東半と西半では、石垣の傾斜が異なることや、西半の石の積み方がやや雑なことなどから、明らかに両者の築造時期は異なるものと考えられる。雑な計測ではあるが、東半の石垣傾斜角が71°、西半の傾斜角が65°であり、やや西側の石垣の勾配が緩くなっている。また、西側の基底部には胴木が据えられていたが、東側には胴木など特別な基底部構造は認められなかった。

石垣の裏込めまで機械により掘削したため詳細は不明であるが、東半については、裏込め部から17世紀代の肥前系陶器の皿底部(225)が出土していることや、石垣築造時の整地土出土遺物が17世紀後半を下限とすることから考えて、石垣の築造は17世紀後半を上限とする時期と考えられる。西半については、時期を確定できる遺物の出土がなく築造時期は不明である。

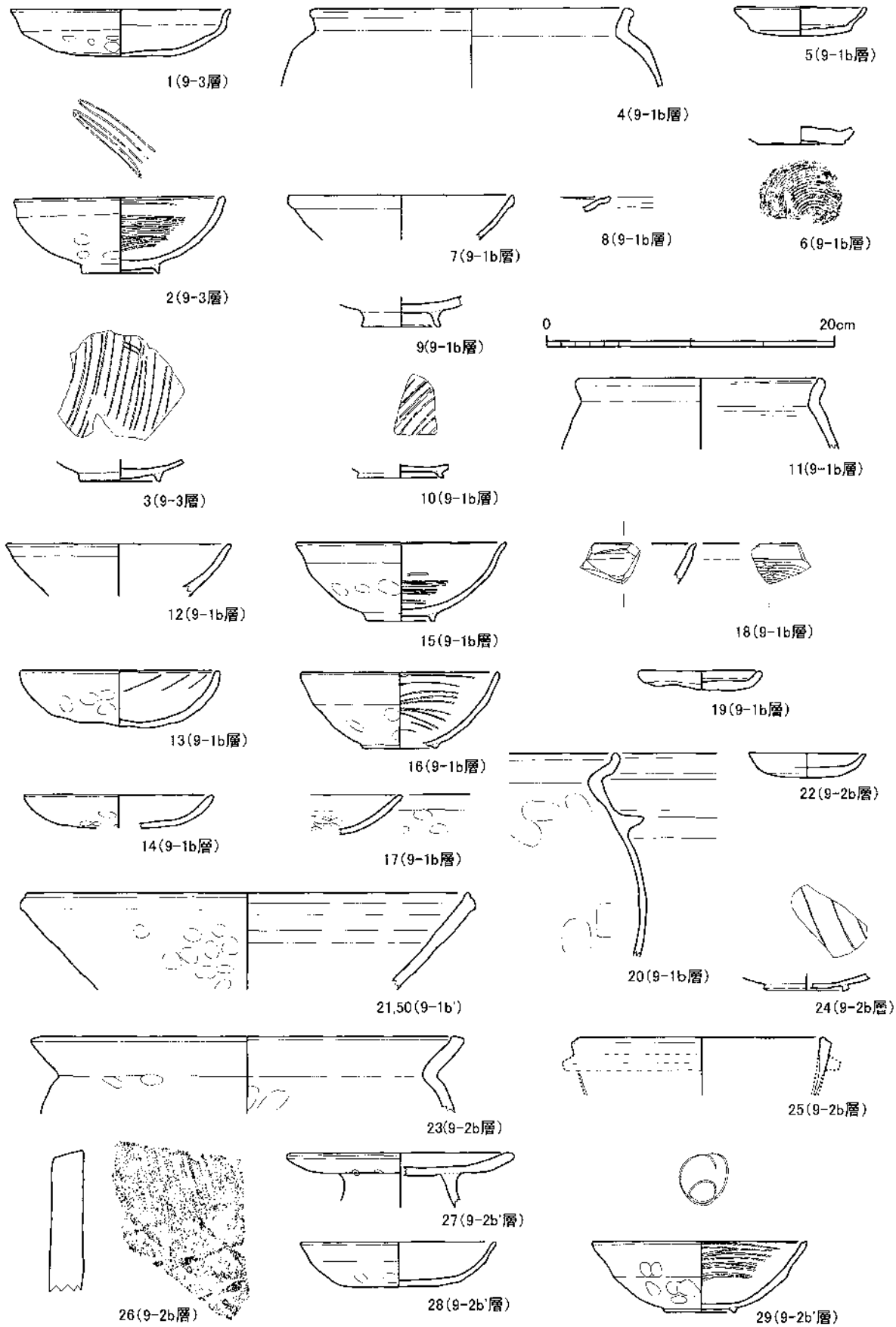


図20 出土遺物実測図(9層)

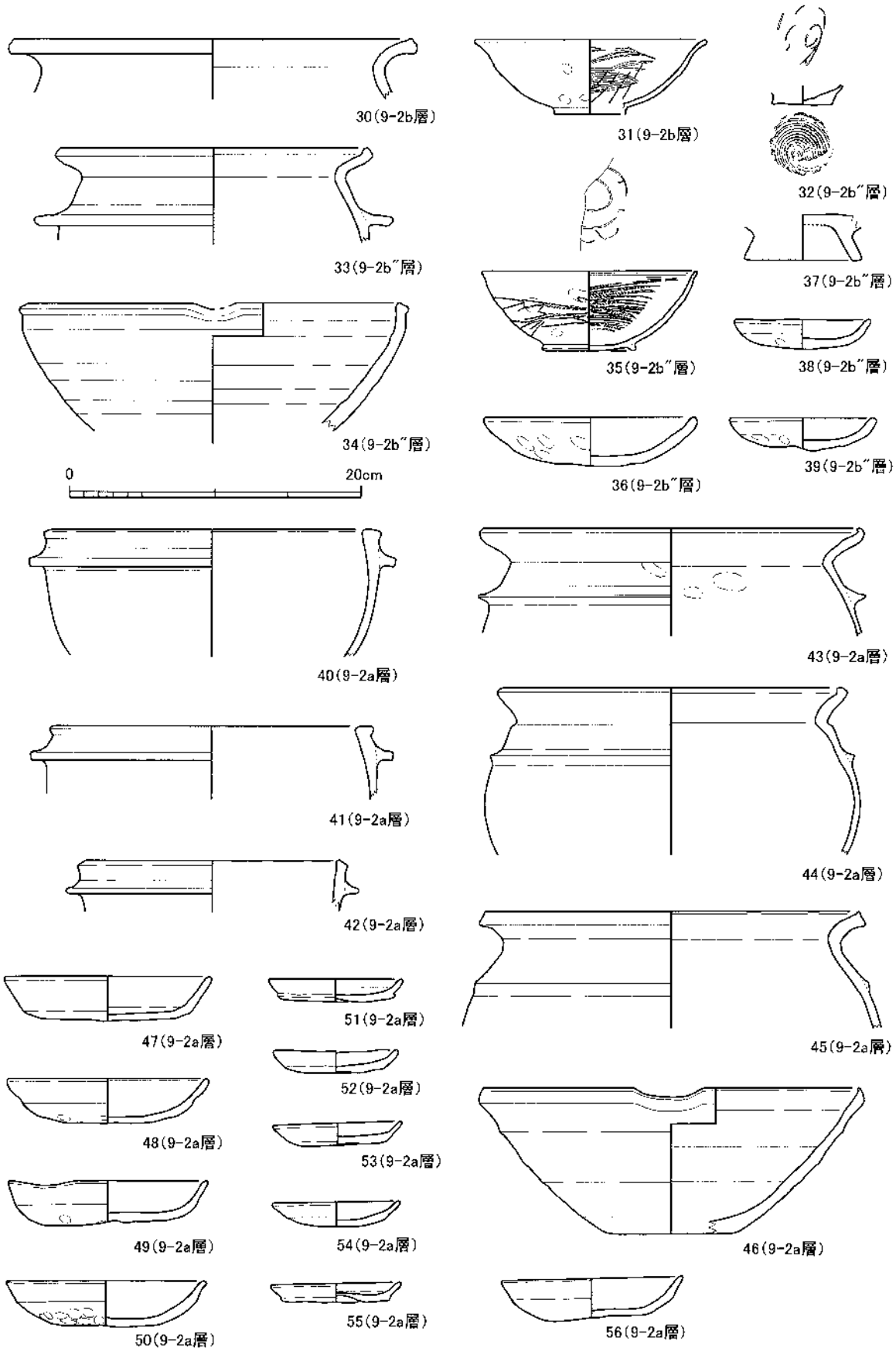


図21 出土遺物実測図(9層)

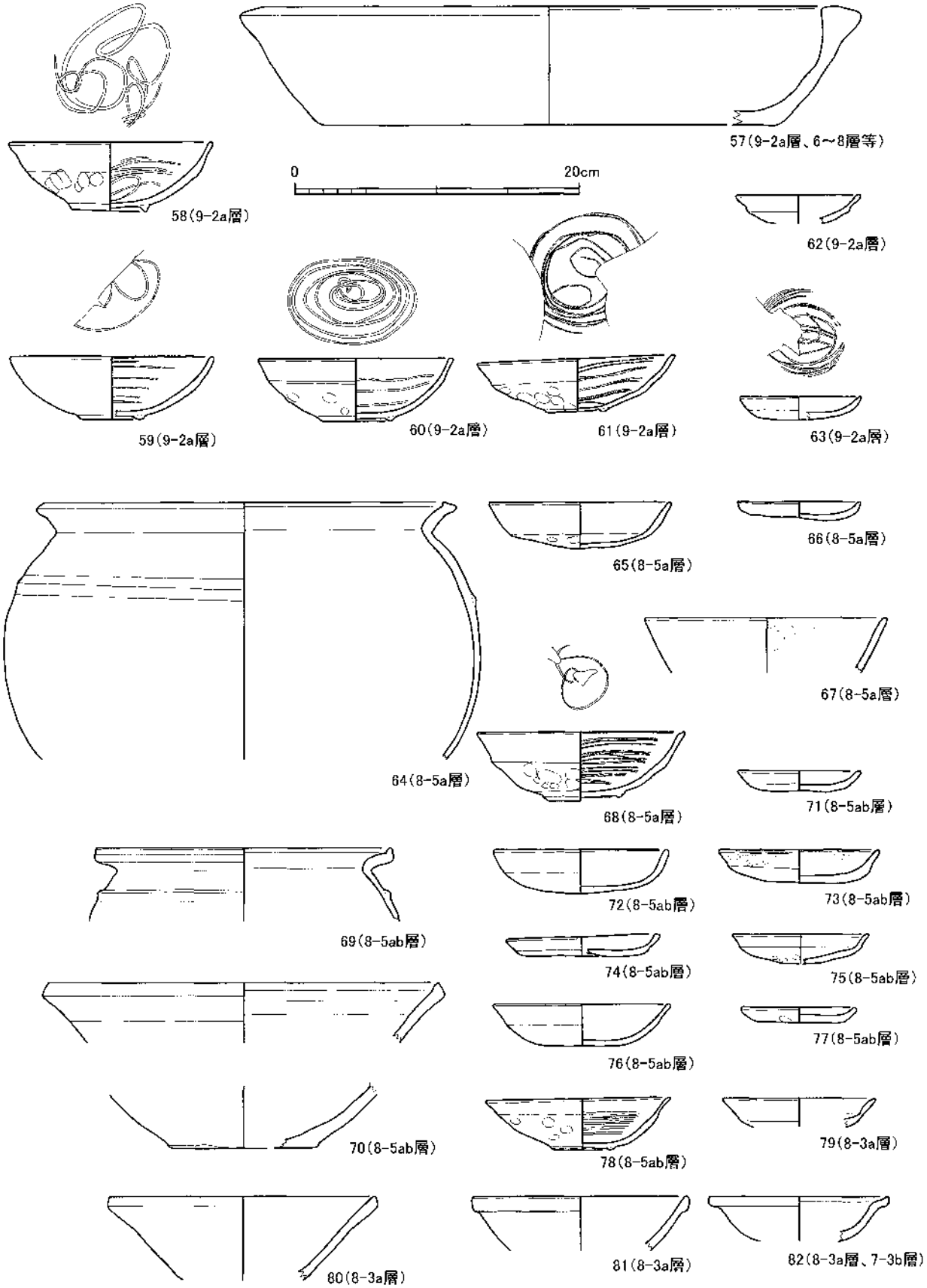


図22 出土遺物実測図(8,9層)

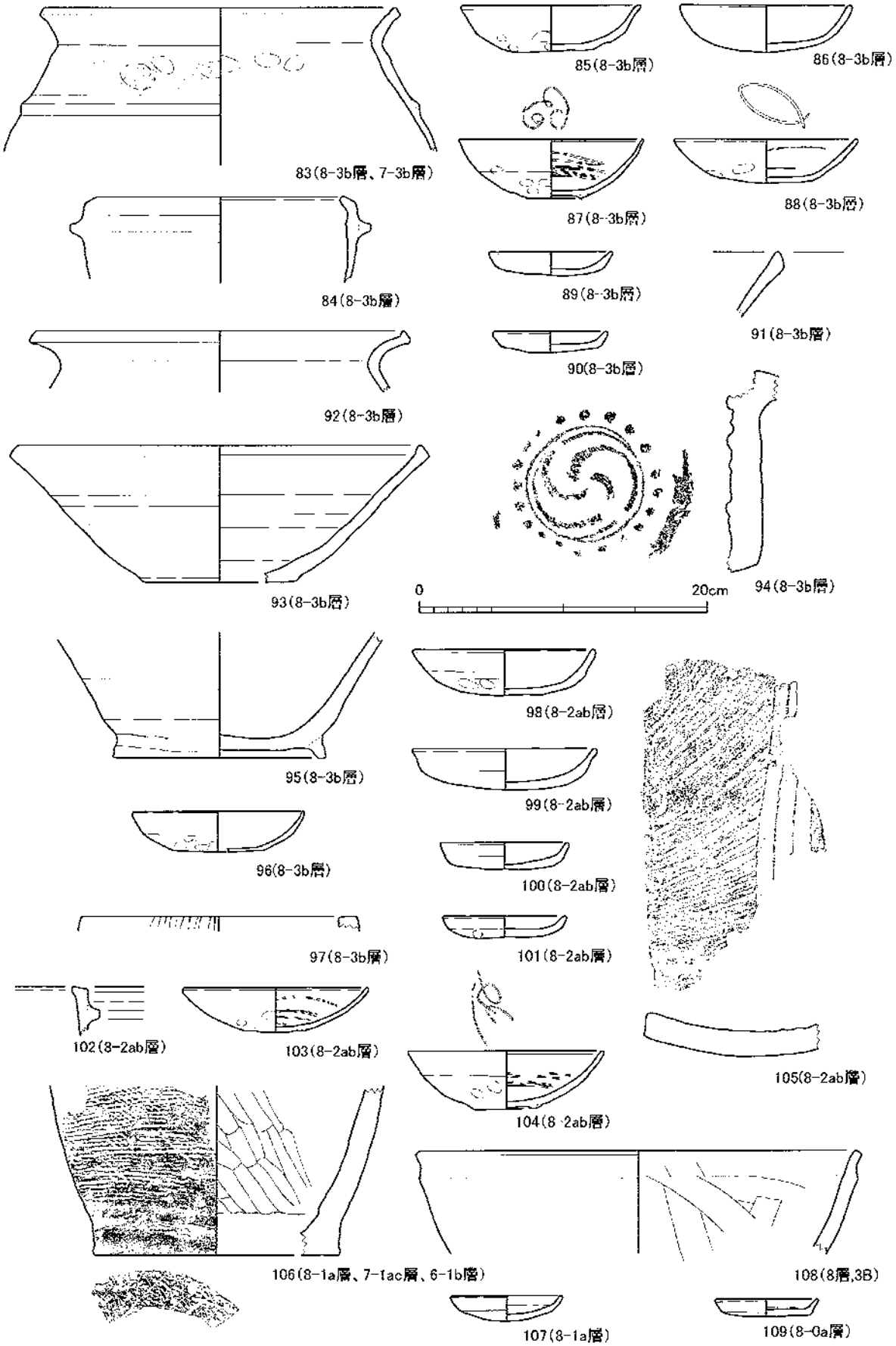


図23 出土遺物実測図(8層)

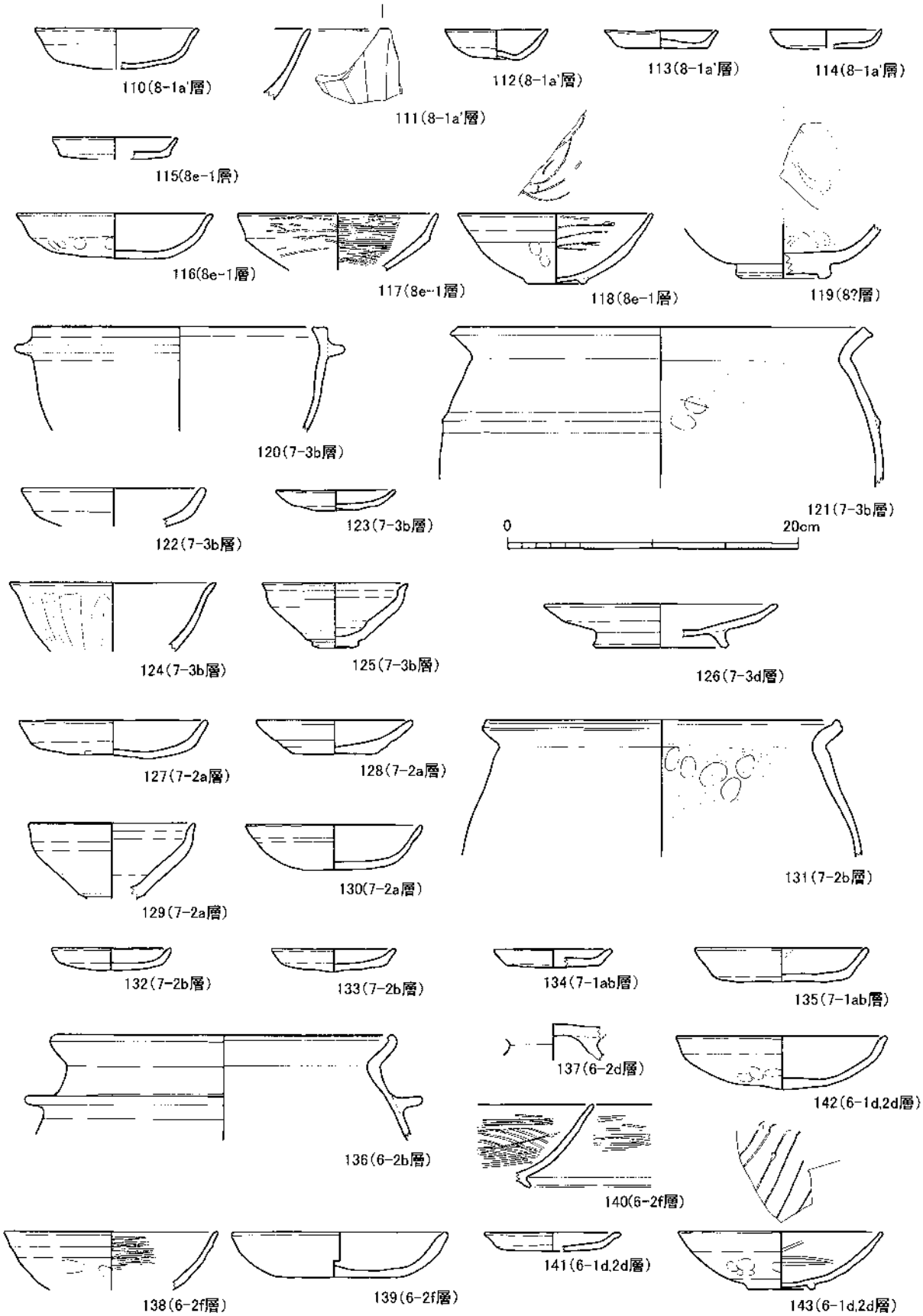


図24 出土遺物実測図(6,7,8層)

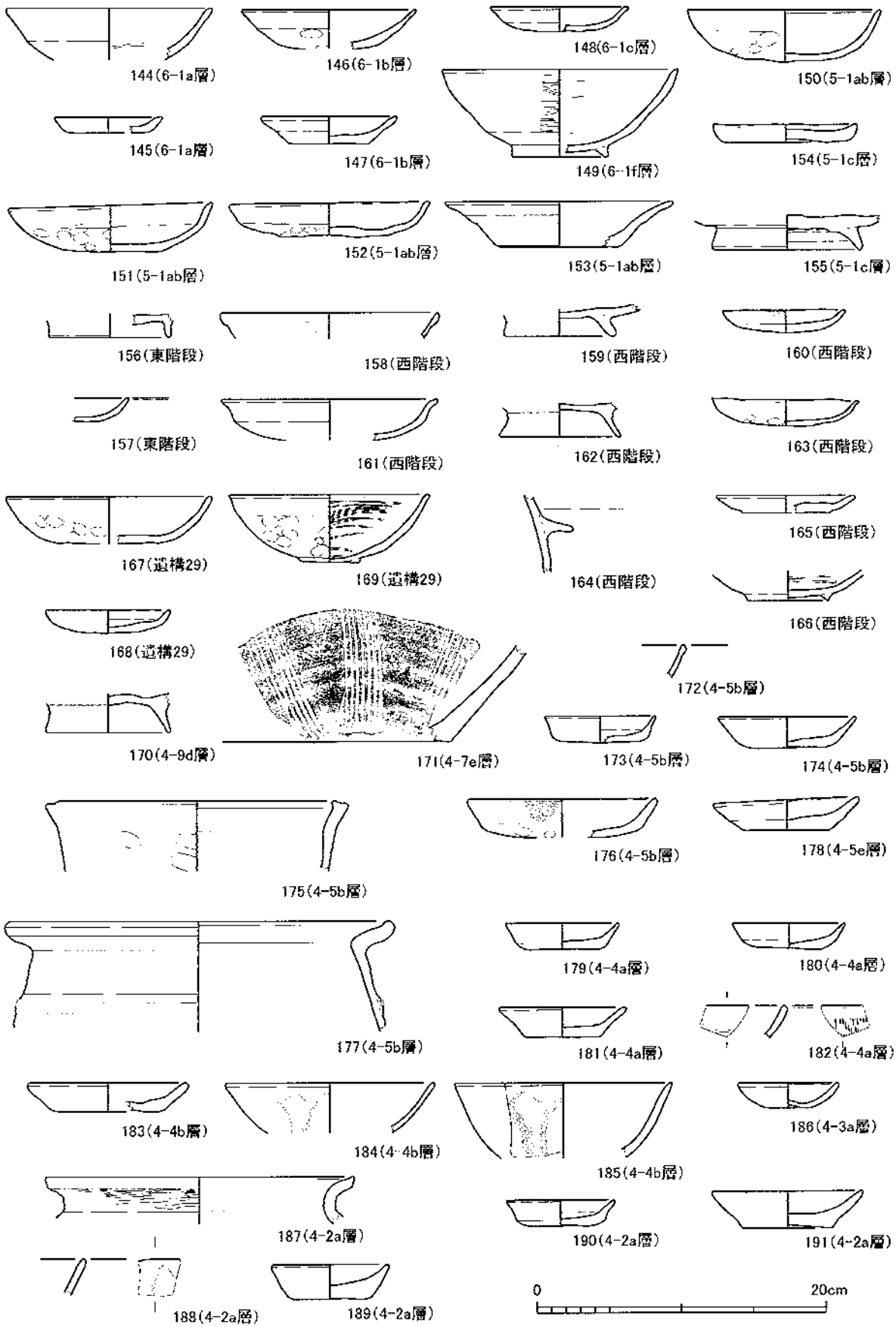


図25 出土遺物実測図(4,5,6層、東西階段部等中世遺構)

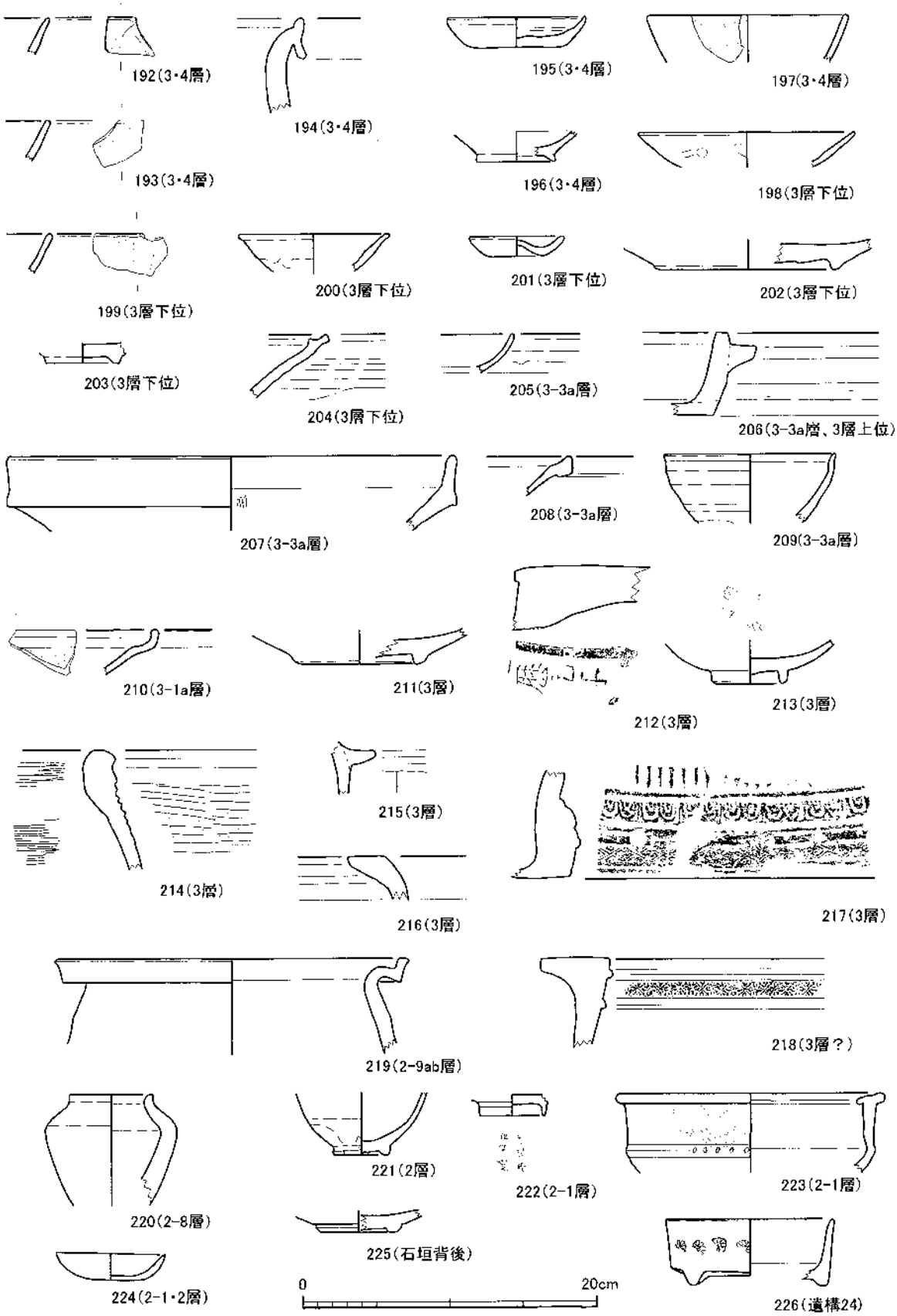


図26　出土遺物実測図(2,3層、近世遺構)

第Ⅳ章 まとめ

粉河寺は粉河寺縁起や各種文献に多数記載されているものの、当時を復元する具体的な資料は少ない。特に寺の中心から離れた今回の調査地点についての情報は限られており、元禄８年(1695年)の「粉河寺境内絵図写」や天保９年(1838年)の「紀伊国名所図会」に垣間見ることができる程度である。正確な位置は確定できないが、19世紀の景観である「紀伊国名所図会」では、調査地点付近に院が描かれている。また、17世紀末頃を描いた「粉河寺境内絵図写」では御鷹匠屋敷として利用されていた様子が窺える。石垣が造られた頃がこの絵図の景観に該当すると考えられる。

このような現状の中、室町時代の石積み遺構の検出により、わずかではあるが粉河寺の中世の景観を復元するための資料を得ることができた。石垣を積み上げる技術がない時代に、４段に分けて石積みを構築することにより、上面の敷地の確保と土留め、護岸施設としての機能を持たせた構造は、土木技術史的な側面からも重要な成果ということができる。

この石積み遺構について、第Ⅲ章では４段とも14世紀中頃から15世紀後半としたのみで、その築造の前後関係については触れなかった。断定するに十分な根拠がないことが主な理由であるが、ここでは、土層堆積状況と出土遺物から、その築造時期と築造順序について考えてみたい。

堆積土層　土層の堆積状況を再確認すると、1-1段の後1-2段目が作られたことは間違いない。図８の東壁土層断面を見ると、7-1c層の上に２段目石積みが、6-1c層の上に３段目の石積みが構築されていることがわかる。図６の東半中央トレンチでも7-1a層を切り込んで２段目石積み基底部が設置されている。このことから1-2段目→２段目→３段目の順に築造されたと考えられる。また、図12～15の東階段部土層断面をみると、２段目の石積みを２段積んだ後板石を設置しているが(図14)、この下のⅥ層の堆積後に３段目の石積みを構築している(図12・13)。３段目背後のⅠ層(５－１層)は東中央トレンチ付近まで同一土層として確認できるので（図版６)、３段目と東階段は一連の作業で造られていることになる。２段目については、当時の石積みの高さがどれほどであったかにもよるが、仮に４区の石積み部のように高さ50cm以上積み上げていたとすれば、石積みを一部壊して階段を設置していない限りは２段目の石積みも同時期のものと考えることができる。

1-1段目と1-2段目の時期差を上層堆積から検証することは、厳密には困難であるが、いくつかの状況から考えてみたい。東半の1-1段目の天端は、石が崩落している部分も多くラインは一定しないが、８層の上端ラインは概ね水平に堆積し、崩落した痕跡がないことから、1-1段目築造時の土層が崩落しないうちに1-2段目が積まれている。また、土器を多量に含む8-3b層と7-3b層は、土質・色、遺物の特徴が類似しており、本来同一土層であった可能性が高い。以上が十分な根拠になるとは思わないが、逆に別の時期とする根拠はなく、同一時期とするほうが妥当と考える。

出土遺物　出土遺物については、約220㎡と小規模な面積ながら、合計約13,000点、遺物収納コンテナにして約45箱分の遺物が出土した。各出土位置ごとの遺物点数を表２に示した。各器種間の数

量は、材質や遺物の大小による破損度合いに影響されるので、数量比は同一地点での個体数比を示すものではないが、各出土地間で各器種がどのような増減傾向を示すかの目安とはなる。

土師器皿についてみると、9-1･3層、9-2b層、８層１区では大皿より小皿の数量が少ないが、9-2a層、８層２区、７層では逆転し、７層では小皿が大皿の２倍弱を占める。瓦器については、皿が少ないことが全体的な特徴としてある。また、瓦器椀と土師器皿の比較ではそれぞれの数量が少なく、個々の誤差が大きく影響するため破片数で比較すると、土師器皿に対して瓦器は、9-1・3、9-2b層でともに36%、８層１区、9-2a層でそれぞれ24%、21%、８層２区と７層で13%、６層で19%、７層で24%を占め、土師器皿の大小数量比と同じ傾向で変化していることがわかる。

土師器皿の口径と器高を示すグラフ(図27～34)では、9-1･3層と9-2b層、５・６層で類似し、小皿口径が9cm、大皿口径が14cmを中心として分布している。石積み築造前の最も古い時期の堆積状況を示すもので、12世紀代と考えられる。これらを各地区ごとに見ると、１区の9-3層、３区の9-2b″層、３・４区の６層では、大・小皿とも口径がやや大きい傾向を示し、地山の張り出す２区を除く東西にやや古い様相を示す遺物の堆積が認められることがわかる。

次に２区に堆積する9-2a層は、小皿口径８～９cm、大皿口径13cmを中心に分布する。9-2b層よりも新しいが、この層も石積み築造前の堆積で、２区にのみ認められる。時期は13世紀代である。

1-1段目石積みの背後に堆積する８層は、１・２区で様相が異なるので分けて掲載した。１区は、小皿口径８～10cm、大皿口径12～15cmに広く分布する。本文中でも述べたが、9-3層を1-1･2段目築造時に成形しているため、この層の遺物が混入したものと考えられる。２区は土器を多量に含む層で一部３区東端にも分布する。小皿口径８～9cm、大皿口径12～13cmに中心がある。口径12cmを下回る大皿も認められる。中央トレンチ付近には２・３段目にも遺物が大量に含まれていたことから、9-2a層の存在も含めて考えると、この付近が土器の廃棄場所となっていた可能性がある。

１2段目石積みの背後に堆積する７層は、小皿口径８～９cm、大皿口径12～13cmを中心とするが

表2 出土地別遺物数量

	土師器皿				瓦器				土師器羽釜										
	大皿(1)	小皿(2)	(2)/(1)	破片も含めた合計(3)	椀	皿	破片も含めた合計(4)	(4)/(3)	外反口縁	直立口縁	破片も含めた合計	瓦質	須恵	陶器	磁器	瓦	その他	金属製品	合計
9-1･3層	12	11	92%	189	16	0	68	36%	2	0	5	0	3	0	1	6	18	0	290
9-2b層	26	19	73%	246	14	0	89	36%	5	1	22	0	4	0	1	3	9	0	374
9-2a層	47	55	117%	941	28	2	196	21%	9	4	71	1	3	0	0	7	0	0	1219
8層1区	31	18	58%	628	13	1	151	24%	7	0	45	1	3	0	5	10	7	1	851
8層2区	70	85	121%	1547	20	1	200	13%	9	2	65	2	13	2	2	50	11	4	1896
7層	43	71	165%	2246	15	1	282	13%	39	2	145	5	5	7	6	63	19	0	2778
6層	3	3	100%	187	4	0	35	19%	2	0	10	1	3	2	1	0	13	0	262
5層	4	8	200%	245	3	0	60	24%	1	0	5	0	2	1	0	1	14	0	328
4層	3	24	800%	574	5	1	178	31%	9	2	22	8	13	25	18	60	10	2	910
3層	4	5	—	498	0	0	94	19%	4	0	11	9	1	111	29	46	17	1	817
2層	0	3	—	412	0	0	76	18%	9	0	11	6	6	29	23	185	22	3	773
東階段	1	0	0%	69	0	0	20	29%	1	0	4	0	1	0	1	0	7	1	103
西階段	6	10	167%	264	0	0	48	18%	2	0	15	0	0	1	1	12	6	0	347
その他	17	30	176%	1309	5	0	208	16%	19	0	45	6	14	58	29	188	23	1	1879
合計	267	342	128%	9355	123	6	1705	18%	118	11	476	39	71	234	117	631	176	13	12817

注1 土師器皿・土師器羽釜破片には他器種の土師器片が含まれる可能性あり。
注2 土師器大皿・小皿、瓦器椀・皿については、口径の残りがおよそ30%以上あるものをカウントした。
注3 土師器羽釜外反口縁とは遺物番号20,45、直立口縁とは40,42の口縁部形態を指す。小片でも口縁部形状を識別できるものをカウントした。
注4 土師器皿は直径11cm以上を大皿それ以下を小皿としている。

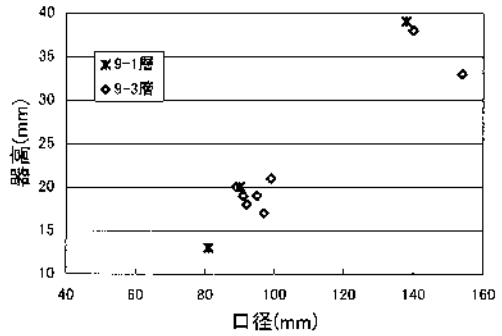


図27　土師器皿の口径と器高(9-1・3層)

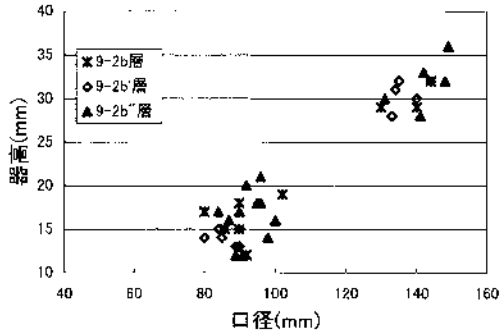


図28　土師器皿の口径と器高(9-2b層)

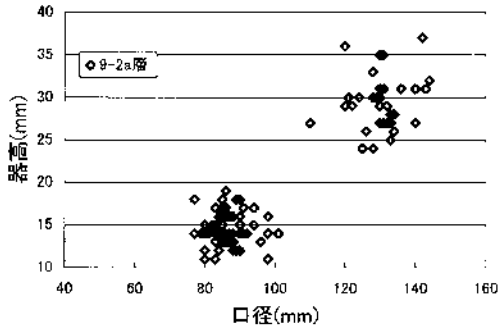


図29　土師器皿の口径と器高(9-2a層)

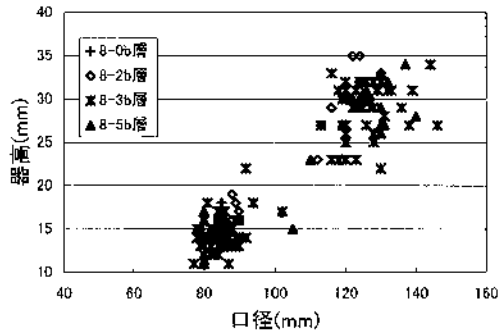


図30　土師器皿の口径と器高(8層:2区)

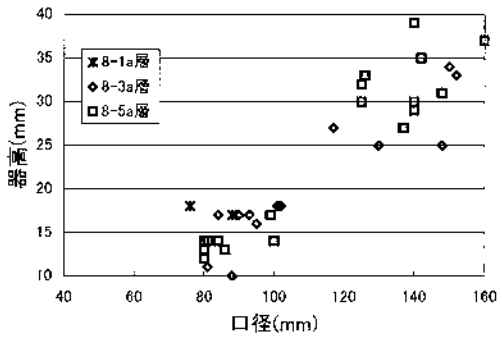


図31　土師器皿の口径と器高(8層:1区)

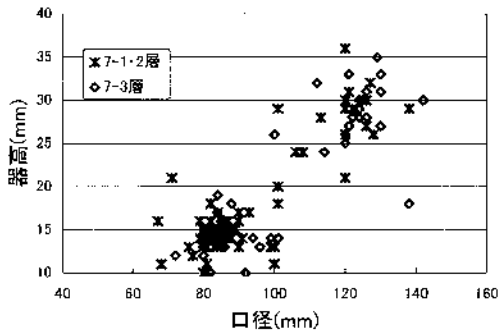


図32　土師器皿の口径と器高(7層)

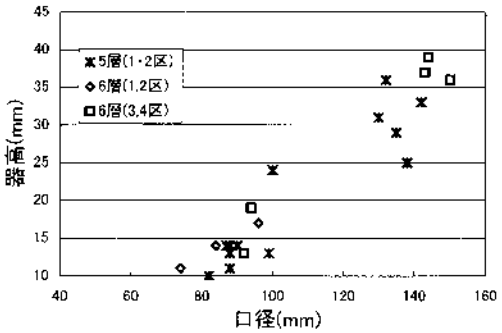


図33　土師器皿の口径と器高(5・6層)

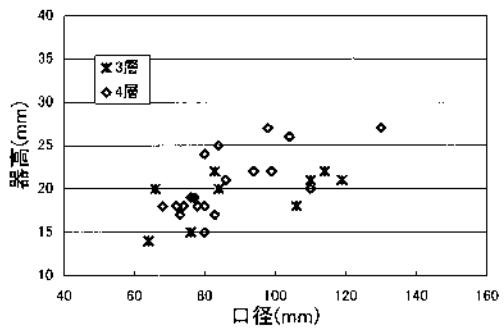


図34　土師器皿の口径と器高(3・4層)

6cm大の小皿から11cm前後の大皿まで分布範囲は広く、多様な遺物が含まれている。

石積み廃絶後の堆積層である４層は、口径６～12cmの範囲に大部分が分布している。５層以下に比べ、器高が20cm前後と大きいのが特徴である。

築造時期　以上を前述の土層堆積状況と合わせて考えると、1-1段目と1-2段目にそれぞれ対応する８層と７層の差が問題となる。７層で土師器の口径がより小さい範囲にまで分布する点は異なるが、中心となる遺物にはほとんど変わりがない。中心となる遺物は、石積み築造前の堆積土中に含まれる遺物で、７層に含まれる口径の小さい土師器は、石積み築造時を示す遺物と考えている。７・８層に現れる出土遺物の差は、大部分がベース土の成形による築造であった1-1段目と、大半が盛土による1-2段目の差によるもので、７層より後の堆積と考える５・６層で新しい遺物がほとんど認められないことも同様に捉えることができる。また、同一個体と認識できる遺物が、1-1段目、1-2段目、２段目構築土から分かれて出土する(57, 82, 83, 106など)ことも考慮すれば、４段の石積み遺構を同一時期とするのが妥当である。

石積み内部に含まれる最も新しい遺物は、14世紀代の瓦器椀や青磁であるが、112のヘソ皿、125, 129の倣建窯系天目茶碗、57の瓦質土器盤については、若干時期が下る可能性がある。また、石積み直上で多数出土する遺物は、15世紀後半の瀬戸・美濃系陶器、輸入陶磁器などで、14世紀後半から15世紀中頃と断定できる遺物はほとんど認められず、時期を絞りにくい状況になっている。このため石積みの築造は、本文で記述したとおり14世紀中頃から15世紀後半で、４段とも同時期のものとするにとどめる。

参考文献

1．粉河町史専門委員会2003『粉河町史 第一・三巻』粉河町
2．宗教法人粉河寺1996『名勝粉河寺庭園　粉河寺大角堂　史跡名勝建造物緊急修復事業概報』
3．仲原知之2002「粉河寺防災事業に係る発掘調査」『重要文化財粉河寺大門修理工事報告書』和歌山県、粉河寺
4．和歌山県教育委員会2003～2006『和歌山県埋蔵文化財調査年報－平成13～16年度－』
5．和歌山県史編纂委員会1994『和歌山県史 中世』和歌山県
6．和歌山県史編纂委員会1983『和歌山県史 考古資料』和歌山県
7．『紀伊国名所図会　第三編　巻之一』1838
8．森田勉1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究NO. 2』日本貿易陶磁研究会
9．上田秀夫1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究NO. 2』日本貿易陶磁研究会
10．菅原正明1989「西日本における瓦器生産の展開」『国立歴史民俗博物館研究報告第19集』国立歴史民俗博物館
11．中世土器研究会編1995『概説中世の土器・陶磁器』
12．鋤柄俊夫1995「大阪府南部の瓦質土器生産(1)」『日置荘遺跡』大阪府教育委員会
13．乗岡実2000「備前焼擂鉢の編年について」『第3回中近世備前焼研究会資料』中近世備前焼研究会
14．九州近世陶磁学会2000『九州陶磁の編年』
15．仲原知之2003「粉河寺遺跡の遺構・遺物について－平成13・14年度の発掘調査から－」『紀伊考古学研究』第６号
16．北野隆亮2005「和歌山平野における瓦器の分類と変遷－紀伊型瓦器椀の認識とその評価　」『紀伊考古学研究』第８号紀伊考古学研究会
17．全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年」実行委員会編2005『全国シンポジウム　中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年 発表要旨集・資料集』
18．森村健一2005「14･15世紀の龍泉窯系青磁碗－編年と堺貿易システム－」『産業・社会・人間』産業社会学会誌No. 6
19．和歌山県教育委員会2007『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図（付、史跡・名勝・天然記念物所在地図）』

付表１　出土遺物観察表

法量の（ ）内の数値は復元値

遺物番号	図版番号	遺構名 土層名	地区	種類 器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調（内/外/断面） （釉/素地/断面）	形態・技法の特徴等	備考
1	7	2～3段目石積み下 9-3層	1区 C,D	土師器 皿	15.4	3.3	－	90%	内外断面とも にぶい橙(7.5YR7/4)	やや外反する口縁部はヨコナデ、内底面は工具による直線的なナデ、外底面凹凸多いがナデ仕上げ。	焼成良。胎土密。
2	7	2～3段目石積み下 9-3層	1区 C,D	瓦器 椀	14.6	5.3	5.4	80%	灰(N4/)/灰(N4/)/ 灰白(2.5Y8/1)	口縁内端面に沈線。内面ミガキ密、外面ミガキなし。断面三角形のしっかりした高台。内底面暗文はジグザグ文。	焼成良。胎土密。
3		3段目石積み下 9-3層	1区 C,D	瓦器 椀	－	－	5.6	底部 80%	灰(5Y5/1)/灰(5Y5/1)/ 灰白(2.5Y8/1)	大きな三角形高台。内底面の暗文は平行線文？	焼成良。胎土密。
4	7	3段目石積み下 9-1b層	1区 D	土師器 甕？	(22.2)	－	－	口縁部 10%	橙(5YR7/6)/橙(5YR7/6) にぶい黄橙(10YR6/3)	短く立ち上がる口縁、端部はやや丸みあるが面を持つ。外面に煤付着。	焼成良。胎土並、1mm以下の白透・褐色粒少量、雲母中量含む。反転復元。
5		3段目石積み下 9-1b層	1区 D	土師器 皿	(9.0)	2.0	7.0	30%	にぶい黄橙(10YR7/3)/ にぶい黄橙(10YR7/3)/ 黄灰(2.5Y5/1)	丁寧なヨコナデ調整。内底面はヨコナデにより凹凸あり。外底面は回転ヘラ切りのような痕跡あるがナデ調整のため不明瞭。	焼成良。胎土並、1mm以下の片岩・灰色粒少量、雲母多量含む。反転復元。
6		3段目石積み下 9-1b層	1区 D	土師器 皿	－	－	6.0	底部 70%	内外断面とも 橙(5YR7/6)	口縁部欠損、底部回転糸きり。	焼成良。胎土やや粗い、1mm以下の灰・褐・赤色粒少量含む。東半中央トレンチ出土。
7	7	3段目石積み下 9-1b層	1区 D	白磁 椀	(15.6)	－	－	口縁部 10%	灰白(5Y7/2)/ 灰白(2.5Y7/1)	華南沿海窯系白磁碗、玉縁口縁。	焼成良。胎土密。東半中央トレンチ出土。
8		3段目石積み下 9-1b層	1区 D	土師器 皿	－	－	－	口縁部 片	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	いわゆるての字状口縁口片。	焼成良。胎土並。断面実測。東半中央トレンチ出土。
9		3段目石積み下 9-1b層	1区 D	土師器 椀？	－		(5.4)	底部 20%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	外に張り出す高台。風化のため調整不明。	焼成良。胎土やや粗い、2mm以下の白・灰・赤色粒少量含む。反転復元。東半中央トレンチ出土。
10		3段目石積み下 9-1b層	1区 D	瓦器 椀	－	－	(8.0)	底部 20%	黄灰(2.5Y5/1)/ 黄灰(2.5Y5/1)/ 灰白(2.5Y8/1)	外に張り出す高台。内底面の暗文は平行線状文。	焼成良。胎土密。反転復元。東半中央トレンチ出土。
11	7	3段目石積み下 9-1b層	2区 D	土師器 甕？	(16.6)			口縁部 10%	にぶい橙(7.5YR6/4)/ 外・断面 橙(7.5YR6/6)	直立する短い口縁。ヨコナデ調整。	焼成良。胎土粗い、2mm以下の白・灰色粒多量含む。反転復元。
12		3段目石積み下 9-1b層	2区 D	土師器 椀	(15.6)	－	－	口縁部 25%	内外断面とも 浅黄橙(10YR8/3)	口縁部丁寧なヨコナデにより外面凹む。	焼成良。胎土並、雲母中量含む。反転復元。
13	7	3段目石積み下 9-1b層	2区 D	土師器 皿	13.8	3.9	－	95%	内外断面とも 浅黄橙(10YR8/4)	粗い胎土の厚いつくり。口縁部のヨコナデも雑な印象。口縁内面に工具痕？	焼成良。胎土粗い、5mm以下の白・灰・褐・黒色粒多量含む。中央トレンチ出土。
14		3段目石積み下 9-1b層	2区 D	土師器 皿	(13.0)	－	－	口縁部 10%	浅黄橙(10YR8/3)/灰褐 (7.5YR5/2)/浅黄橙 (10YR8/3)	口縁部ヨコナデ、外面に指圧痕。小片のため復元径の取り扱いに注意。	焼成良。胎土並、2mm以下の白・灰色粒少量含む。中央トレンチ出土。反転復元。
15	7	3段目石積み下 9-1b層	2区 D	瓦器 椀	14.5	5.5	4.7	70%	灰(N5/)/灰(N5/)/ 灰白(2.5Y8/1)	やや外反する口縁、内端部には浅い沈線が巡る。断面台形の高台。風化が激しく調整ははっきりしないが、内面ミガキは密に施されている様様。	焼成良。胎土並、3mm以下の白・灰色粒少量含む。中央トレンチ出土。
16	7	3段目石積み 9-1b層	2区 D	瓦器 椀	(13.6)	5.3	5.2	50%	灰(N5/.4/)/灰(5/.4/)/ 灰白(2.5Y8/1)	内面のミガキ間隔粗い。外面ミガキなし。内底面の暗文は連結輪状文がわずかに確認できる。	焼成良。胎土密。一部反転復元。中央トレンチ出土。
17		3段目石積み下 9-1b層	2区 D	土師器 皿？	－	－	－	口縁部 片	橙(5YR7/6)/ にぶい褐(7.5YR6/3)/ 灰褐(7.5YR5/2)	口縁部ヨコナデ、内面板状工具によるランダムな方向のナデ、外面指押さえ。	焼成良。胎土並、1mm以下の灰・黒色粒少量含む。断面実測。
18		3段目石積み下 9-1b層	2区 D	黒色土器 椀	－	－	－	口縁部 片	暗灰(N3/)/にぶい黄橙 (7.5YR7/4)/暗灰(N3/)	内黒。口縁部外面強いヨコナデにより凹む。内面密なヨコミガキ、外面風化のためはっきりしないがヨコミガキわずかに観察できる。	焼成良。胎土並。断面実測。
19	7	3段目石積み下 9-1b層	2区 D	土師器 皿	8.1	1.3	－	80%	内外断面とも 浅黄橙(10YR8/3)	厚く粗いつくり。	焼成良。胎土並み、白・灰色粒少量含む。中央トレンチ出土。
20	7	3段目石積み下 9-1b層	2区 D	土師器 羽釜	－	－	－	口縁部 片	にぶい橙(7.5YR5/3)/橙 (7/5YR6/6)/黄灰(2.5Y5/1)	口縁部上方に拡張。鍔鍔突帯大きい。口縁部・体部外面ヨコナデ、内面指押さえ痕明瞭。	焼成良。胎土粗い、3mm以下の片岩、白・灰・褐色粒多量含む。断面実測。
21	7	3段目石積み下 9-1b層	2区 D	須恵器 片口鉢	(30.7)	－	－	口縁部 20%	黄灰(2.5Y5/1)/ 黄灰(2.5Y5/1)/ 灰赤(2.5YR5/2)	東播系須恵器？形態似るが胎土異質、外面はヨコナデ調整だが指圧痕が明瞭に多数残る。灰褐色系の色調。	焼成良。胎土並、2mm以下の白・灰・褐色粒中量含む。反転復元。
22	7	1-1段目石積み下 9-2b層	1,2区 B	土師器 皿	8.0	1.7	－	80%	内外断面とも にぶい黄橙(10YR7/3)	器壁厚く重厚なつくり。	焼成良。胎土やや粗い、2mm以下の白・灰・黒色粒中量含む。
23		1-1段目石積み下 9-2b層	1,2区 B	土師器 釜	(28.6)	－		口縁部 20%	橙(5YR6/6)/橙(5YR6/6) にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁端部上方にやや拡張。口縁部ヨコナデ、体部内面指押さえ。	焼成良。胎土粗い、4mm以下の白・灰色粒多量含む。反転復元
24		1-1段目石積み下 9-2b層	1,2区 B	瓦器 椀	－	－	(5.9)	底部 35%	灰白(2.5Y7/1)/褐灰 (10YR5/1)/灰白(2.5Y7/1)	外側に張り出す断面方形の高台。内底面の暗文は平行線状。	焼成良。胎土密。反転復元。
25		1-1段目石積み下 9-2b層	1,2区 B	土師器 羽釜	(17.0)	－	－	口縁部 10%	内外断面とも 灰黄褐(10YR6/2.5/2)	直立する口縁、端部は外側へ傾斜する面をなす。突帯、図示部下半で剥離。外面に煤付着。	焼成良。胎土やや粗、2mm以下の片岩、白・灰・黒色粒多量、雲母中量含む。反転復元。
26	8	1-1段目石積み下 9-2b層	1,2区 B	瓦 平瓦	－	－	－	破片	凸面灰(5Y5/1)/凹面灰 (N4/) /断面灰白(2.5Y8/1)	凸面に格子タタキ痕、離れ砂付着。凹面ナデ調整。	焼成良。胎土やや粗い、5mm以下の白・灰色粒中量含む。断面実測。
27		1-1段目石積み下 9-2b層	1区 B	土師器 杯	(15.6)	－	－	20%	内外断面とも にぶい黄橙(10YR7/2)	口縁部厚く雑なつくり。口縁部および杯部内面ナデ、杯部外面下半指押さえ。	焼成良。胎土並2mm以下の白・灰色粒少量含む。一部反転復元。
28		1-1段目石積み下 9-2b層	1区 B	土師器 皿	(13.4)	3.1		50%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	口縁部ヨコナデ、底部外面指押さえ。内底面雑なナデ。	焼成良。胎土密。一部反転復元。
29	7	1-1段目石積み下 9-2b層	1区 B	瓦器 椀	(14.8)	5.0	4.8	45%	口縁内端面浅い沈線巡る。外面ミガキなし。断面三角形の高台。	焼成良。胎土密。反転復元。	
30		1-1段目石積み下 9-2b層	3区 B	土師器 釜	(27.2)	－	－	口縁部 15%	褐灰(7.5YR4/1)/灰褐 (7.5YR5/2)/にぶい褐 (7.5YR6/3)	口縁端部はやや丸みをもつ。内外面ともヨコナデ、外面に煤付着。	焼成良。胎土粗、2mm以下の片岩、白・灰・黒色粒多量、雲母中量含む。反転復元。
31		1-1段目石積み下 9-2b層	3,4区 B	瓦器 椀	(15.8)	－	(4.8)	口縁部 15%	灰(N5/)/灰(N5/.4/)/ 灰白(N8/)	端部に丸みを持つ口縁部は大きく外反する。内面ややに粗めのヨコミガキ、内底面の暗文は平行線文。外面ミガキなし。	焼成良。胎土密。反転復元。
32		1-1段目石積み下 9-2b下層	3区 B	瓦器 不明			(4.0)	底部 完形	暗灰(N3/)/暗灰(3/)/ 灰白(N7/)	平底の底部で回転糸切り痕あり。内底面には連結輪状文らしき暗文施される。	焼成良。胎土密。
33		1-1段目石積み下 9-2b下層	3区 B	土師器 羽釜	(21.0)	－	－	図示部 15%	浅黄橙(7.5YR8/4)/ 橙(2.5Y7/6)/ 黄灰(2.5Y6/1)	外反する口縁、端部は上方に拡張する。大きく突出する突帯。外面には煤付着。	焼成良。胎土粗い、2mm以下の白・灰・褐色粒多量含む。反転復元。
34		1-1段目石積み下 9-2b下層	3区 B	須恵器 片口鉢	(25.4)	－	－	図示部 15%	内外断面とも 灰(N5/～4/)	東播系須恵器。内湾しながら立ち上がる口縁、端部は外側に拡張する。	焼成良。胎土並。反転復元。
35	8	1-1段目石積み下 9-2b下層	3区 B	瓦器 椀	(14.6)	5.4	(6.4)	35%	灰(N4/)/灰(4/)/ 灰白(2.5Y8/1)	口縁内端部に沈線、外側に張り出す断面方形の高台。内面密な間隔のミガキ、外面粗いミガキ、内底面は連結輪状文？	焼成良。胎土密。反転復元。

法量の（ ）内の数値は復元値

遺物番号	図版番号	遺構名 土層名	地区	種類 器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調(内/外/断面) (粘/露胎/断面)	形態・技法の特徴等	備考
36	8	1-1段目石積み下 9-2b'層	3区 B	土師器 皿	14.2	3.3	-	80%	内外断面とも 灰白(10YR8/1)	厚いつくり。内面ナデ調整、口縁外面もヨコナデ調整だが十分でなく凹凸激しい。外面には指押さえ痕。	焼成良。胎土並。
37		1-1段目石積み下 9-2b'層	4区 B	土師器 坏？	-	-	(8.0)	底部 15%	内外断面ともにぶい橙 (7.5YR7/3～7/4)	厚い高台、端部は面をなす。	焼成良。胎土密、1mm以下の白・褐色粒少量含む。反転復元。
38	8	1-1段目石積み下 9-2b'層	4区 B	土師器 皿	9.2	2.0	-	95%	内外断面とも 灰白(10YR8/1～8/2)	厚いつくり。内面ナデ調整、口縁外面もヨコナデ調整だが十分でなく凹凸激しい。外面には指押さえ痕。	焼成良。胎土並。
39	8	1-1段目石積み下 9-2b'層	4区 B	土師器 皿	9.6	2.1	-	95%	にぶい橙(7.5YR7/4)/ 灰白(2.5Y8/2)/ にぶい橙(7.5YR7/4)	厚いつくり。内面ナデ調整、口縁外面もヨコナデ調整だが十分でなく凹凸激しい。外面には指押さえ痕。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰色粒少量含む。
40	8	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 羽釜	(21.0)	-	-	口縁部 20%	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰 (7.5YR5/1～4/1)/にぶい黄橙(10YR7/2)	直立する口縁端部は外方へやや拡張する。突帯は断面方形でしっかりしたつくり。外面に煤付着。	焼成良。胎土並、2mm以下の片岩、白透・白・灰色粒、雲母多量含む。反転復元。
41	8	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 羽釜	(27.0)	-		口縁部 15%	にぶい橙(7.5YR7/3)/ 灰褐(7.5YR6/2)/ にぶい黄(2.5Y6/3)	直立する口縁端部は外側に突出する。突帯断面は長方形をなす。外面に煤付着。	焼成良。胎土粗い、片岩、白・灰・黒色粒、雲母多量含む。反転復元。
42		1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 羽釜	(17.2)	-	-	口縁部 20%	褐灰(7.5YR6/1)/褐灰 (7.5YR6/1)/にぶい橙 (7.5YR7/3)	直立する口縁端部は外傾する面をもつ。突帯はやや小さめで稜部は丸い。外面に煤付着。	焼成良。胎土粗い、2mm以下の片岩、白透・白・灰色粒、雲母多量含む。反転復元。
43	8	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 羽釜	(25.4)	-	-	口縁部 25%	灰褐(7.5YR5/2)/ 灰褐(7.5YR5/2)/ にぶい橙(7.5YR6/4)	外にひらく口縁部の先端を上方に折り曲げる。やや低い三角形突帯。内外面に煤付着。	焼成良。胎土粗い、2mm以下の片岩、白透・白・灰色粒多量含む。反転復元。
44	9	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 羽釜	(22.6)	-	-	口縁部 30%	灰褐(7.5YR5/2)/ にぶい褐(7.5YR5/3)/ にぶい橙(5Y6/4)	口縁端部を上方に拡張する。周部には低い断面三角形の突帯。	焼成良。胎土粗い、2mm以下の片岩、白・灰色粒多量含む。
45	8	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 羽釜	(25.2)	-	-	口縁部 25%	灰黄褐(10YR6/2)/ 灰黄褐(10YR6/2)/ 褐灰(7.5Y5/1)	外反する口縁端部は面をなし、ヨコナデにより中央が凹む。体部上半の突帯の断面は低い三角形。	焼成良。胎土粗い、片岩、白・灰・黒色粒多量、雲母中量含む。反転復元。
46	8	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	須恵器 片口鉢	(25.5)	10.0	(8.8)	20%	内外断面とも 灰(N5/)	口縁は直線的に伸びる、端部は上方へわずかに拡張する。底部へは滑らかに変化する。東播系須恵器。	焼成良。胎土やや粗。3mm以下の白・灰・褐色粒中量含む。反転復元。
47		1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 皿	(14.0)	3.1	-	30%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)～ 淡黄橙(10YR8/3)	直線的にひらく口縁と平坦な底部。口縁部ヨコナデ、体部外面指押さえ。	焼成良。胎土やや粗い、2mm以下の白・灰・褐・黒色粒中量含む、反転復元。
48		1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 皿	(13.6)	3.1	-	30%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	口縁部外面強いナデにより凹み明瞭な稜線あり。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰・黒色粒少量含む。反転復元。
49	8	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 皿	13.6	3.1	-	95%	内外ともにぶい黄橙 (7.5Y7/4)/にぶい黄橙 (10YR7/2)	口縁部ヨコナデ。底部外面の凹凸激しい。	焼成良。胎土密、赤色粒中量含む。
50	8	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 皿	13.6	3.1	-	95%	灰黄(2.5Y7/2)/灰黄 (2.5Y6/2)/灰黄(2.5Y7/2)	口縁部強いナデにより外反する部分あり。口縁部に煤付着する。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰色粒少量含む。
51	9	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 皿	9.0	1.6	5.0	90%	内外とも 灰黄褐(10YR6/2)/にぶい黄褐(10YR7/2)	口縁部強いヨコナデ。底部外面凹凸あるが平坦面をなす、中央部は指押さえにより大きく凹む。	焼成良。胎土並、赤色粒少量含む。
52	9	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 皿	(8.4)	1.4	-	75%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	歪大きい、径は8.2～8.8cmの範囲内にあり。口縁部ヨコナデ、外底面指調整。。内面に指先大の煤痕2箇所あり。	焼成良。胎土並、1mm以下の白色粒少量含む。
53	9	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 皿	(8.7)	1.5	-	80%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	歪大きい、口縁部ヨコナデ、内外面煤付着。	焼成良。胎土やや粗い、2mm以下の白・灰色粒中量含む。
54	9	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 皿	8.6	1.7	-	90%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	口縁部は直線的にひらく。口縁部は丁寧なナデ仕上げ、底部外面には指跡残る。	焼成良。胎土密。
55	9	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 皿	8.7	1.3	7.2	90%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	口縁部強いヨコナデ。底部外面凹凸あるが平坦面をなす、中央部は指押さえにより大きく凹む。	焼成良。胎土密。
56		1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	土師器 皿	12.2	2.6	-	70%	浅黄橙(10YR8/3)/にぶい橙 (5YR7/4)/にぶい橙 (5YR7/4)	口縁部に薄く煤付着。口縁部ヨコナデ。内底面ナデ、外底面指調整。	焼成良。胎土並、赤色粒少量含む。
57	9	1-1段目石積み下他 9-2a層他	2区 B	瓦質土器 盤？	(40.0)	8.3	(32.2)	40% 接合せず	暗灰(N3/)/灰(4/)/ 灰(N5/)	内湾気味に立ち上がる口縁は端部を大きく拡張する。平底。1-1段石積下の9-2層から6層まで破片多数出土する。風化激しい、内面にはヨコ方向のナデorミガキの痕跡わずかにあり。	焼成良。胎土粗い、2mm以下の白透・白・灰色粒多量含む。反転復元。8-3b(3B)、8-2b(2B)、8-1a'(1B)、7-3b(3B)、7-2a(1B)X2B)、7-1b(2B)、6-1a(2c)、3層？から同一個体出土。
58	9	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	瓦器 椀	14.2	4.8	5.2	90%	灰(N4/)/灰(N4/)/ 灰白(2.5Y8/1)	外面ミガキなし、内面粗い間隔のミガキ、内底面連結輪状文。断面三角形～台形の高台。口縁歪大きい。	焼成良。胎土密。
59	9	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	瓦器 椀	(14.2)	4.5	(4.4)	45%	灰(N4/)/灰(4/)/ 灰白(2.5Y7/1)	内面粗いヨコミガキ、外面ミガキなし。断面台形の低い高台。	焼成良。胎土並。反転復元。
60	9	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	瓦器 椀	13.6	4.4	4.8	80%	内外とも灰(N4/)～暗灰 (N3/)/灰白(2.5Y8/1)	外面ヨコナデの下端部に1本のみミガキあり、内面渦巻状の暗文。断面三角形の低い高台。	焼成良。胎土密。
61		1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	瓦器 椀	13.7	4.0	4.0	90%	暗灰(N3/)/暗灰(N3/)/ 灰白(2.5Y8/1)	外面ミガキなし。内面螺旋状の粗いミガキ。低く雑なひも状の高台。	焼成良。胎土密。
62		1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	瓦器 皿	(8.6)	-	-	口縁部 30%	灰(N5/)/灰(N5/)/ 灰白(2.5Y8/1)	口縁部強いヨコナデにより体部の稜線明瞭。	焼成良。胎土密。反転復元
63	10	1-1段目石積み下 9-2a層	2区 B	瓦器 皿	8.4	1.6	-	80%	灰(N4/)/灰(N4/)/ 灰白(N7/)	内面に暗文。口縁部ヨコナデ、外底面指押さえにより凹凸激しい。	焼成良。胎土密。
64	10	1-1段目石積み背後 8-5a層	1区 B	土師器 羽釜	28.3	-	-	口縁部 85%	にぶい黄橙(10YR6/3)/ 灰褐(7.5YR6/2)/ 褐灰(10YR6/1)	外へひらく口縁端部は面をなし、内外へ拡張する。周部の突帯は低い断面三角形。外面に煤付着。	焼成良。胎土粗い、2mm以下の白・灰・褐色粒、雲母多量含む。
65	9	1-1段目石積み背後 8-5a層	1区 B	土師器 皿	12.6	3.3	-	95%	内外断面とも 灰白(10YR8/1)	浅い皿で口縁部から底部付近まで丁寧なナデ。	焼成良。胎土並。
66	9	1-1段目石積み背後 8-5a層	1区 B	土師器 皿	8.6	1.3	-	ほぼ完形	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	口縁部ヨコナデ調整だが歪み非常に大きい、直径は8.6～9.2cm。	焼成良。胎土並。東半中央トレンチ出土。
67		1-1段目石積み背後 8-5a層	1区 B	青磁 碗	(15.6)	-	-	口縁部 10%	オリーブ灰(10Y5/2)/ 灰白(5Y7/1)	口縁部小片、内面に文様あり、外面凹凸大きい。	焼成良・胎土密。反転復元。
68	9	1-1段目石積み背後 8-5a層	1区 B	瓦器 椀	14.3	4.8	5.0	95%	暗灰(N3/)/暗灰(N3/)/ 灰白(5Y8/1)	口縁内端面に浅い沈線。内面螺旋状のヨコミガキ、外面ミガキなし。断面三角形の高台は雑なヨコナデにより形態不安定。	焼成良。胎土密。

法量の（ ）内の数値は復元値

遺物番号	図版番号	遺構名 土層名	地区	種類 器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調(内/外/断面) (釉/素地/断面)	形態・技法の特徴等	備考
69		1-1段目石積み背後 8-5ab層	2区 B	土師器 羽釜	(20.6)	-	-	口縁部 10%	にぶい橙(7.5YR7/3)/にぶい褐(7.5YR6/3)/にぶい橙(7.5YR7/3)	外反する口縁の端部を上方に拡張、端面はナデにより凹む。体部上半の突帯は断面三角形で低い。外面に煤付着。	焼成良。胎土粗い、2mm以下の片岩、白・灰・褐色粒多量含む。反転復元。中央トレンチ出土。
70		1-1段目石積み背後 8-5ab層	2区 B	須恵器 片口鉢	(27.2)	-	(10.6)	口縁部 10%	内外断面とも灰(N6/)～黄灰(2.5Y6/1)	東播系須恵器。口縁部やや外反気味にひらき、端部をわずかに上方へ拡張する。底部と同一個体か？	焼成良。胎土並、2mm以下の白・灰色粒少量含む。反転復元。中央トレンチ出土。
71	10	1-1段目石積み背後 8-5ab層	2区 B	土師器 皿	8.5	1.4		ほぼ完形	内外断面とも灰白(10YR8/1)	口縁部および内面丁寧なナデ調整。外底面には指圧痕。	焼成良。胎土密、中央トレンチ出土。
72	10	1-1段目石積み背後 8-5ab層	2区 B	土師器 皿	12.0	3.1	-	70%	内外断面とも灰白(10YR8/2)	口縁部ヨコナデ、内面丁寧なナデにより凹凸ほとんどなし。	焼成良。胎土並。
73	10	1-1段目石積み背後 8-5ab層	2区 B	土師器 皿	11.0	2.3	-	80%	内外断面とも灰白(10YR8/2)	口縁部ヨコナデ、残存端部の約半分に煤が付着する、灯明皿として使用か？	焼成良。胎土やや粗い、1mm以下の白・灰・黒色粒中量含む。
74	10	1-1段目石積み背後 8-5ab層	2区 B	土師器 皿	10.5	1.5	-	75%	淡黄(2.5YR8/3)/淡黄(2.5YR8/3)/浅黄橙(7.5YR8/3)	口縁部ヨコナデ、端部に幅1cm弱の煤が付着する部位1箇所あり、灯明皿として使用か？	焼成良。胎土粗い、2mm以下の白・灰・黒色粒少量含む。中央トレンチ出土。
75		1-1段目石積み背後 8-5ab層	2区 B	土師器 皿	(9.4)	2.1	-	35%	内外断面とも灰白(10YR8/2)	口縁部外面強いヨコナデ、内底面も丁寧なヨコナデ。外底面は指押さえ。	焼成良。胎土密。反転復元。
76	10	1-1段目石積み背後 8-5ab層	2区 B	瓦器 椀	(12.0)	2.9	-	40%	内外断面とも灰(2.5Y5/1)	口縁端部やや面をなす。高台なく、平坦な底部。大粒の片岩含む。	焼成やや不良。胎土並、5mm以下の片岩、白・灰色粒中量含む。反転復元。
77	10	1-1段目石積み背後 8-5ab層	2区 B	瓦器？ 皿	8.0	1.1	6.2	80%	灰(N6/)/灰(N4/)/灰白(2.5Y7/1)	口縁部ヨコナデ、内面ナデ。調整は土師器皿と同様、焼きのみが瓦質。	焼成良。胎土並、1mm以下の灰色粒少量含む。
78	10	1-1段目石積み背後 8-5ab層	2区 B	瓦器 椀	12.8	3.6	3.8	80%	灰(N4/)/灰(N4/)/灰白(2.5Y8/1)	歪み大きい。口縁内端面に沈線巡る。外面ミガキなし、内面ヨコミガキ比較的密に施される。内面に鉄分付着するため暗文不明。	焼成良。胎土密。
79	10	1-1段目石積み背後 8-3a層	1区 B	青磁 皿	(10.6)	-	-	口縁部 10%	灰オリーブ(7.5Y5/2～6/2)/灰黄(2.5Y7/2)/灰白(5Y7/1)	屈曲して立ち上がる口縁はわずかに外反する。屈曲部より下外面には施釉なし。	焼成良。胎土密。反転復元。
80		1-1段目石積み背後 8-3a層	1区 B	白磁？ こね鉢	(18.4)	-	-	口縁部 25%	内外断面とも灰白(2.5Y8/1)、口縁部のみ灰(N4/)	器壁うすい。口縁端部ややや丸み帯びる、重ね焼きのため口縁のみ灰色。	焼成良。胎土粗く脆い、2mm以下の白・灰色粒中量含む。反転復元。
81	10	1-1段目石積み背後 8-3a層	1区 B	白磁 碗	(14.9)	-	-	口縁部 10%	灰白(2.5GY8/1)/灰白(N8/)	関南沿海窯系白磁碗。玉縁口縁。小片のため復元径の取り扱いに注意。	焼成良。胎土密。反転復元。
82	10	1-1段目石積み背後 8-3a層	1区 B	青磁 杯	(12.4)	-	-	口縁部 35%	明緑灰(10GY7/1)/灰白(N8/)	口縁外側へ屈曲したあと、端部を上方に折り曲げる。鮮やかな緑色。	焼成良、胎土密。7-3b層(3区B)と接合。反転復元。
83	10	1-1段目石積み背後 8-3b層	2区 B	土師器 羽釜	(24.6)	-	-	口縁部 40%	灰褐(7.5YR6/2)/にぶい橙(7.5YR7/4)/浅黄橙(7.5YR8/4)	口縁端部内側にわずかに拡張。頸部突帯断面低い三角形。外面に煤付着。	焼成良。胎土2mm以下の白・灰・褐色粒、雲母多量、赤色粒中量含む。反転復元。7-3b層(2区B)と接合。
84	11	1-1段目石積み背後 8-3b層	2区 B	土師器 羽釜	(17.0)	-	-	口縁部 10%	にぶい褐(7.5YR5/3)/にぶい褐(7.5YR5/3)/灰黄(2.5Y6/2)	直立する口縁の端部を内側に折り曲げる。口縁部ヨコナデ。体部内外面に煤付着。	焼成良。胎土粗い、2mm以下の白・灰・褐・黒色粒、雲母多量含む。反転復元。
85	11	1-1段目石積み背後 8-3b層	2区 B	土師器 皿	12.4	3.2	-	95%	内外面灰白(10YR8/2)/黄灰(2.5Y6/1)	口縁部わずかに外反気味にひらく。口縁部ヨコナデ。	焼成良。胎土やや粗い、1mm以下の白・灰・黒色粒中量含む。中央トレンチ出土。
86	11	1-1段目石積み背後 8-3b層	2区 B	土師器 皿	11.6	3.3	-	95%	内外断面とも灰白(10YR8/2)	底部から滑らかに立ち上がる小形の皿。外底面も丁寧な仕上げ。	焼成良。胎土並、2mm以下の白・灰色粒少量含む。中央トレンチ出土。
87	11	1-1段目石積み背後 8-3b層	2区 B	瓦器 椀	(12.8)	(4.2)	(4.7)	70%	灰(N5/)/灰(N6/～5/)/灰白(N8/)	口縁部内端面に沈線、外面ミガキなし。高台は断面不整形で雑なつくり。	焼成良。胎土密。一部反転復元。
88	11	1-1段目石積み背後 8-3b層	2区 B	瓦器 椀	12.5	3.1	-	80%	黄灰(2.5Y6/1)/黄灰(2.5Y5/1)/灰(N6/)	高台なく、器高小さい。内面のミガキ2から3本認められるのみ。	焼成良。胎土並、3mm以下の片岩、白・灰色粒少量含む。
89		1-1段目石積み背後 8-3b層	2区 B	土師器 皿	8.5	1.7	-	ほぼ完形	内外断面とも灰白(10YR8/2)	口縁部ヨコナデ。外底面指押さえ痕明瞭。	焼成良。胎土並。
90		1-1段目石積み背後 8-3b層	2区 B	土師器 皿	7.8	1.5	7.0	ほぼ完形	内外断面とも灰白(10YR8/2)～浅黄橙(7.5YR8/4)	口縁部ヨコナデ、底部立ち上がりの屈曲明瞭、高台なく、器高小さい。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰色粒少量含む。
91		1-1段目石積み背後 8-3b層	2区 B	須恵器 片口鉢	-	-	-	口縁部片	内外断面とも黄灰(2.5Y5/1)	東播系須恵器片口鉢。口縁外端面は丸みを持つ。	焼成良。胎土粗い、0.5mm以下の白色粒中量含む。断面実測。
92		1-1段目石積み背後 8-3b層	3区 B	土師器 釜	(25.6)	-	-	口縁部 15%	灰褐(7.5YR5/2)/にぶい橙(5YR6/3)/にぶい橙(7.5YR6/4)	外反する口縁端部を上方へ拡張する。	焼成良。胎土やや粗い、2mm以下の片岩、赤色・白・灰色粒、雲母多量含む。反転復元。
93	11	1-1段目石積み背後 8-3b層	3区 B	須恵器 片口鉢	(28.0)	9.6	(10.8)	20%	灰黄褐(10YR6/2)/灰白(N7/)/灰白(N7/)	東播系須恵器片口鉢。口縁はやや外反する、端部は内側に拡張。底部立ち上がり境界明瞭。	焼成良。胎土並、5mm以下の白・灰・黒色粒少量含む。反転復元。
94	11	1-1段目石積み背後 8-3b層	3区 B	瓦 丸瓦	-			瓦当片	灰(N4/)/灰(N4/)/灰白(N8/)	外縁幅に比べ高さは低い。色調部は尖り気味、尾は長くのび側線に達なる。	焼成良。胎土やや粗い、5mm以下の白・灰色粒中量含む。断面実測。
95	11	1-1段目石積み背後 8-3b層	3区 B	陶器 鉢	-	-	(14.8)	底部 45%	内外断面とも灰白(N8/～7/)	瀬戸？。非常に粗い胎土で灰色系に焼かれる。高台は外に強り出す断面台形。	焼成良。胎土粗い、3mm以下の白・灰・黒色粒多量含む。反転復元。
96		1-1段目石積み背後 8-3b層	3区 B	瓦器 椀	11.9	2.8	-	50%	内外断面とも灰白(N6/)	内湾気味に立ち上がる口縁、高台なく、平坦な底部。外底面には指圧痕。	焼成やや不良。胎土並、3mm以下の片岩？白・灰色粒中量含む。反転復元。
97		1-1段目石積み背後 8-3b層	3区 B	石鍋	(19.2)	-	-	口縁部 10%	内外断面とも灰(N6/～5/)	口縁端部片。外面に剥ぎ取り痕跡。	反転復元。
98	11	1-1段目石積み背後 8-2ab層	2区 B	土師器 皿	12.4	3.2	-	80%	内外断面とも橙(5YR7/6)～浅黄橙(7.5YR8/4)	厚いつくり。口縁はややひらきながら上方に直線的に伸びる。外底面には指圧痕。	焼成良。胎土並、2mm以下の褐色粒少量含む。
99	11	1-1段目石積み背後 8-2ab層	2区 B	土師器 皿	12.6	2.9	-	80%	内外断面とも灰白(10YR8/2)	口縁部ヨコナデ、外底面もナデにより凹凸少ない。口縁部歪みあり、平均直径12.3cm程度。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰色粒少量含む。
100		1-1段目石積み背後 8-2ab層	2区 B	土師器 皿	8.6	1.9		90%	内外断面とも にぶい黄橙(10YR7/2)	全体に厚いつくり。口縁部は丁寧なナデ調整。	焼成良。胎土やや粗い、1mm以下の白・灰・黒色粒中量含む。
101		1-1段目石積み背後 8-2ab層	2区 B	土師器 皿	8.4	1.5	-	90%	内外断面とも灰白(10YR8/2)	厚いつくり。口縁部ヨコナデ。	焼成良。胎土並、1mm以下の灰・黒色粒少量含む。
102		1-1段目石積み背後 8-2ab層	2区 B	土師器 羽釜	-	-	-	口縁部片	にぶい橙(5YR7/4)/にぶい橙(5YR7/4)/灰黄(2.5Y6/2)	口縁端部は内側に拡張、突帯は断面台形。	焼成良。胎土粗い、2mm以下の白・灰色粒、雲母多量含む。断面実測。
103	12	1-1段目石積み背後 8-2ab層	2区 B	瓦器 椀	(12.8)	3.1	-	40%	灰(N4/)/灰(N4/)、灰白(N8/1)/灰白(N8/)	器高小さい。高台は退化した低いひも状。内底には数本のミガキ。	焼成良。胎土密。反転復元。
104	12	1-1段目石積み背後 8-2ab層	2区 B	瓦器 椀	13.3	4.1	3.6	80%	灰(N6/～4/)/灰(N6/～4/)/灰白(N7/)	口縁内端面に浅い沈線。内面ミガキ粗い螺旋状。外面ミガキなし。高台の貼り付け粗い。	焼成良。胎土密。
105	11	1-1段目石積み背後 8-2ab層	2区 B	瓦 丸瓦	-	-	-	破片	灰(N5/)/灰(N5/)/灰白(N7/)	左側1辺以外は欠損。内外面とも布目と弧状のコビキ痕明瞭に残る。凹面中央付近に4条以上の縦方向のナデ痕あり凹む。	焼成良。胎土並、7mm以下の白・灰・黒色粒少量含む。断面実測。
106	12	1-1段目石積み背後 8-1a層	2区 B	須恵器 壺？甕？	-	-	(17.0)	底部 20%	黄灰(2.5Y5/1)/褐灰(10YR4/1)/にぶい赤褐(5YR5/3)	外面水平方向のタタキ(4本/cm)、右下がりのタタキも残る、下端から4cm程度は横方向のナデによりタタキは消される。内面幅1～1.5cmのつよいナデ。外底面には植物痕跡。十瓶焼？	焼成良。胎土並、1mm以下の白色粒少量含む。反転復元。7-1ac層(1区B)、6-1b層(2区C)出土と同一個体。
107		1-1段目石積み背後 8-1a層	1,2区 B	土師器 皿	(7.6)	1.8	-	30%	内外断面とも にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁部は内湾気味に立ち上がる。口縁部ヨコナデ。	焼成良、胎土密。反転復元。

法量の( )内の数値は復元値

遺物番号	図版番号	遺構名 土層名	地区	種類 器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率	色調(内/外/断面)(釉/露胎/断面)	形態・技法の特徴等	備考
108	12	西階段下 8層	3区 B	瓦器 こね鉢	(30.0)	-	-	口縁部 30%	灰(N5/～4/)/灰(N5/～4/)/灰白(5Y7/1)	器壁薄滑らか。口縁外面強いヨコナデにより凹む。内面板状工具によるナデ。	焼成良。胎土並、2mm以下の灰色粒少量含む。反転復元。
109		1-1段目石積み背後 8-9a層	2区 B	土師器 皿	7.0	1.2	6.2	65%	内外断面とも 淡黄橙(10YR8/3)	底部の立ち上がり明瞭。口縁部ヨコナデ、外底面ユビオサエ。	焼成良。胎土並、1mm以下の灰色粒少量含む。
110	13	1-2段目石積み背後 8-1a'層	1区 B	土師器 皿	11.3	2.8	-	90%	内外断面とも にぶい黄橙(10YR7/3)	口縁やや外反、ヨコナデ。外底面も指押さえ後ナデ。	焼成良。胎土並、4mm以下の白・灰色粒少量含む。
111		1-2段目石積み背後 8-1a層	1区 B	青磁 碗	-	-	-	口縁部片	緑灰(7.5Y6/1)/ 灰白(N8/)	口縁ややか反気味。龍泉窯系。	焼成良。胎土並。東半中央トレンチ出土。断面実測。
112	13	1-2段目石積み背後 8-1a'層	1区 B	土師器 皿	7.1	2.1	-	80%	淡黄(2.5Y7/3)/灰黄(2.5Y7/2)/淡黄(2.5Y7/3)	外底面中央が凹むいわゆるへそ皿。皿は小さい。	焼成良。胎土密。
113	13	1-2段目石積み背後 8-1a'層	1区 B	土師器 皿	7.7	1.2	-	90%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	口縁部ヨコナデ、外底面ナデ仕上げ。口縁部やや歪む。	焼成良。胎土並、1mm以下の白色粒少量含む。
114		1-2段目石積み背後 8-1a層	1区 B	土師器 皿	(7.6)	1.3	-	40%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	口縁部ヨコナデ、外底面ナデ仕上げ。	焼成良。胎土並、2mm以下の白・灰色粒少量含む。反転復元。
115		1-1段目石積み 8e-1層	4区 B	瓦器 皿	(8.8)	1.5	(7.7)	20%	灰(N4/)/灰(N4/)/灰白(2.5Y8/1)	口縁部強いヨコナデ、底部外面指調整。内面はほとんど残っていないためか脆文なし。	焼成良。胎土密。反転復元。
116	12	1-1段目石積み 8e-1層	4区 B	土師器 皿	13.4	3.1	-	60%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	口縁部やや外反する。底部外面は指圧痕により凹凸激しい。	焼成良。胎土やや粗、2mm以下の白・灰・黒色粒粒子量含む。
117		1-1段目石積み 8e-1層	4区 B	瓦器 碗	(13.8)	-	-	口縁部 15%	灰(N5/)/灰(N4/)/灰白(2.5Y8/1)	内面密なミガキ、外面粗いミガキ残る。口縁端部丸い、体部中程での凹曲明瞭。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰色粒少量含む。反転復元。
118	12	1-1段目石積み 8e-1層	4区 B	瓦器 碗	(13.4)	-	(3.6)	30%	灰(N5/)/灰(N5/)/灰白(5Y7/1)	内面粗い間隔のミガキ、外面ミガキなし。断面台形のやや低い高台。	焼成良。胎土並、1mm以下の灰色粒少量含む。反転復元。
119		8層?	3・4区 B	青磁 碗	-	-	(6.5)	底部 30%	灰オリーブ(7.5Y5/2.5/2)/淡黄橙(10YR8/3)/灰(N8/)	高台下面やや丸みあり。内面劃花文。	焼成良。胎土密、反転復元。
120	12	1-2段目石積み背後 7-3b層	2区 B	土師器 羽釜	(18.5)	-	-	口縁部 50%	内外断面とも にぶい橙(7.5YR7/4)	直立する口縁上端部および内面はヨコナデにより凹む。突帯は丸みあり。外面に煤付着。	焼成良。胎土並、2mm以下の片岩、白・灰・褐色粒中量含む。7～2層と接合。反転復元。
121	12	1-2段目石積み背後 7-3b層	2区 B	土師器 羽釜	(27.7)	-	-	口縁部 30%	にぶい橙(7.5YR7/4)/にぶい橙(7.5YR6/4)/黄灰(2.5YR5/1)	口縁端部は外側にやや拡張する。鍔部突帯は退化し粘土を雑に貼り付けるのみ。	焼成良。胎土やや粗い、2mm以下の白・灰・褐色粒多量含む。反転復元。中央トレンチ出土。
122	12	1-2段目石積み背後 7-3b層	2区 B	土師器 皿	12.5	-	-	70%	内外断面とも 淡黄橙(7.5YR8/3.8/4)	厚いつくり。口縁部ヨコナデ、外底面凹凸激しい。	焼成良。胎土並、2mm以下の白・灰・褐色粒少量含む。中央トレンチ出土。
123		1-2段目石積み背後 7-3b層	2区 B	土師器 皿	8.2	1.4	-	60%	淡黄橙(7.5YR8/4)/橙(5YR7/6)/淡黄橙(7.5YR8/4)	口縁部ヨコナデ、外底面指圧痕。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰色粒少量含む。反転復元。
124	12	1-2段目石積み背後 7-3b層	2区 B	青磁 碗	(14.2)	-		口縁部 20%	明緑灰(10GY7/1)/ 灰白(5Y8/1)	口縁やや外反する龍泉窯系。凹凸大きいが丸みあり稜はっきりしない。	焼成良。胎土密。反転復元。
125	13	1-2段目石積み背後 7-3b層	3区 B	輸入陶器 天目茶碗	(10.0)	4.5	3.2	25%	黒(7.5YR1.7/1)/にぶい黄橙(10YR7/3)/黄灰(2.5Y6/1)	微建窯系黒釉天目茶碗。器壁厚くやや器高小さい。底部外面には成形時の工具痕残り雑な仕上げ。黒釉と鉄釉の二重掛け。茶溜りに条筋痕。	焼成良。胎土密、反転復元。
126		1-2段目石積み背後 7-3d層	4区 B	土師器 高台付皿	(16.0)	3.0	(8.8)	30%	内外断面とも 淡黄(2.5Y8/1～8/2)	口縁部ヨコナデ、内底面板状工具によるナデ。	焼成良。胎土密、反転復元。
127		1-2段目石積み背後 7-2a層	1区 B	土師器 皿	12.8	2.6	-	90%	内外断面とも 灰白(2.5Y8/2)	口縁部ヨコナデ、外底面指圧痕。	焼成良。胎土並、2mm以下の白・灰色粒少量含む。
128		1-2段目石積み背後 7-2a層	1区 B	土師器 皿	(10.6)	2.4	(5.1)	15%	内外断面とも 淡黄橙(7.5YR8/4)	厚く直線的にひらく口縁、底部外面はヨコナデにより2段凹む。外底面に板目らしき痕跡。	焼成良。胎土並、1mm以下の白透・白・灰・褐色粒少量含む。反転復元。上層から混入の可能性。
129	13	1-2段目石積み背後 7-2a層	1区 B	輸入陶器 天目茶碗	(11.4)	5.2	-	10%	黒(7.5YR1.7/1)/にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(2.5Y6/1)	微建窯系黒釉天目茶碗。小片のため復元径の取り扱いに注意。口縁部の外反それほど強くない。黒釉と鉄釉の二重掛け。茶溜りに条筋痕。	焼成良。胎土密。反転復元。
130	13	1-2段目石積み背後 7-2a層	2区 B	土師器 皿	12.1	3.1		70%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	口縁部強いなでにより凹む。底面の凹凸少ない。	焼成良。胎土密、赤色粒少量含む。
131	13	1-2段目石積み背後 7-2c層	2区 B	土師器 釜	(24.0)	-	-	口縁部 10%	茶褐(5YR5/2)/灰褐(7.5YR5/2)/にぶい橙(7.5YR6/3)	口縁端部凹線状に凹む。口縁ヨコナデ、内面横方向のハケメ。外面に煤付着。	焼成良。胎土やや粗い、2mm以下の白・褐色粒粒中量含む。反転復元。
132	13	1-2段目石積み背後 7-2b層	2区 B	土師器 皿	8.2	1.6	-	95%	内外断面とも灰白(10YR8/2)～淡橙(5YR8/3)	口縁部ヨコナデ、外底面ナデ仕上げだが指圧痕残る。	焼成良。胎土並、2mm以下の白・灰色粒中量含む。中央トレンチ出土。
133	13	1-2段目石積み背後 7-2b層	2区 B	土師器 皿	8.5	1.6	-	90%	内外断面とも 橙(7.5YR7/6)	口縁部ヨコナデ、外底面指圧痕により凹凸激しい。	焼成良。胎土密。
134		1-2、2段目間 7-1ab層	1区 B	土師器 皿	(8.0)	1.3	-	口縁部 20%	内外断面とも にぶい橙(7.5YR7/4)	口縁部ヨコナデ、外底面もナデ調整。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・赤色粒少量含む。反転復元。
135		1-2、2段目間 7-1ab層	2区 B	土師器 皿	11.8	2.3	9.4	45%	内外断面とも 淡黄橙(7.5YR8/3)	底面平坦で屈曲部の稜線明瞭。口縁に煤付着、灯明皿として使用か?	焼成良。胎土やや粗い、1mm以下の白・灰・赤色粒中量含む。反転復元。
136		2段目石積み背後 6-2b層	2区 C	土師器 羽釜	(23.2)	-	-	口縁部 15%	灰黄褐(10YR6/2)/にぶい橙(7.5YR7/4)/灰黄褐(10YR6/2)	口縁端部丸みを持ち、内側へ折り曲げる。鍔部突帯大きい。	焼成良。胎土粗い、3mm以下の片岩、白・灰・褐色粒多量含む。反転復元。
137		2段目石積み背後 5-2d層	4区 C	土師器 底?	-	-	-	高台片	内外断面とも 橙(7.5YR7/6)	高台外へひらく。	焼成良。胎土密、赤色粒少量含む。反転復元。
138		2段目石積み背後 6-2f層	4区 C	土師器 椀	(14.6)	-	-	口縁部 10%	内外断面とも 灰黄(2.5YR7/2)	内面には細かい単位のミガキ。外面は2段のヨコナデにより凹む。	焼成良。胎土並、2mm以下の白透・白色粒少量含む。反転復元。
139		2段目石積み背後 6-2f層	4区 C	土師器 皿	14.7	3.1	8.8	40%	内外断面とも 淡黄橙(10YR8/3)	内底面中央凸。口縁部非常厚い、ヨコナデ。外底面もナデ仕上げ。	焼成良。胎土並、2mm以下の白・灰色粒、赤色粒中量含む。
140		2段目石積み背後 6-2f層	4区 C	瓦器 碗	-	5.7	-	破片	暗灰(N3/)/暗灰(N3/)/にぶい黄橙(10YR7/3)	外に大きく張り出す高台。内外面とも密なミガキ。	焼成良。胎土やや粗い、1mm以下の白色粒少量含む。断面実測。
141		2段目石積み背後 6-1d,2d層	4区 C	土師器 皿	(9.2)	1.3		60%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	口縁端部屈曲し外反する。	焼成良。胎土並、3mm以下の白・褐・赤色粒少量含む。4区東端。
142	13	2段目石積み背後 6-1d,2d層	4区 C	土師器 皿	14.3	3.7	-	90%	にぶい黄橙(10YR7/2)/灰黄(10YR6/2)/灰黄(10YR6/2)/	やや雑なつくり。口縁部ヨコナデ。内外面煤?付着。	焼成良。胎土並、2mm以下の白・灰・黒色粒少量含む。4区東端。反転復元。
143		2段目石積み背後 6-1d,2d層	4区 C	瓦器 椀	(14.0)	4.0	4.6	30%	灰(N4/)/灰(N4/)/淡白(7.5Y8/1)	口縁端部丸い。断面方形の高台。外面ミガキなし、内面ミガキ間隔はっきりしない、内底並平行線文。	焼成良、胎土密。4区東端。反転復元。
144		2段目石積み背後 6-1a層	1区 C	瓦器 椀	(14.3)	-	-	口縁部 10%	内外断面とも 灰白(5Y7/1～7/2)	器高低い。風化のためはっきりしないが内面にはミガキ痕あり。	焼成良。胎土並。1mm以下の白色粒少量含む。反転復元。
145		2段目石積み背後 6-1a層	1区 C	土師器 皿	(7.4)	1.1	-	口縁部 20%	内外断面とも 淡黄橙(10YR8/4)	厚いつくり、粗い胎土。	焼成良。胎土粗い、2mm以下の白・灰・黒色粒中量含む。反転復元。
146		2段目石積み背後 6-1b層	2区 C	瓦器 椀	(12.2)	-	-	口縁部 10%	内外断面とも 黄灰(2.5Y6/1)	器高・口径とも小さい。ミガキなし。断面も灰色。	焼成良。胎土やや粗い。1mm以下の白・灰色粒少量含む。反転復元。

法量の（ ）内の数値は復元値

遺物番号	図版番号	遺構名 土層名	地区	種類 器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調(内/外/断面) (釉/露胎/断面)	形態・技法の特徴等	備考
147		2段目石積み背後 6-1b層	3区 C	土師器 皿	(9.4)	1.9	(5.6)	20%	内外断面とも 橙(5YR7/6)	口縁部ヨコナデ。外底面静止糸きり痕？	焼成良。胎土やや粗い。1mm以下の白色粒、赤色粒、雲母中量含む。反転復元。
148		2段目石積み背後 5-1c層	1区 C	土師器 皿	(9.6)	1.7	-	口縁部 25%	内外断面とも 浅黄橙(10YR8/3)	口縁部はやや外反する。ヨコナデ。	焼成良。胎土密。反転復元。
149		2段目石積み背後 6-1f層	4区 C	瓦器 椀	(16.4)	6.1	6.7	20%	灰(N4/)/灰(N4/)/ 灰白(N8/)	口縁内端面沈線状に凹む。断面三角形のしっかりした高台。内外底ミガキ、内面単位はっきりしない。内底面暗文はジグザク？	焼成良。胎土並。4区東端。反転復元。
150	13	3段目石積み背後 5-1ab層	2区 D	土師器 皿	13.2	3.6	-	95%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	口縁部をヨコナデするが、強くなく下半の指押さえとの境界不明瞭。	焼成良。胎土並、2mm以下の灰・黒色粒少量含む。中央トレンチ出土。
151		3段目石積み背後 5-1ab層	2区 D	土師器 皿	14.2	3.3	-	80%	内外断面とも 浅黄橙(7.5YR8/4)	口縁部内端面面取り風の強いナデ。外底面指押さえ痕明瞭。内面に煤付着。	焼成良。胎土やや粗い。2mm以下の白・灰・褐・黒・赤色粒多量含む。中央トレンチ出土。
152	13	3段目石積み背後 5-1ab層	2区 D	土師器 皿	13.8	2.5	-	90%	灰赤(2.5YR5/2)/赤灰(2.5Y5/1)/にぶい黄橙(10YR7/3)	厚く雑なつくり。口縁ヨコナデ、内面ナデ調整だが、雑で凹凸激しい。	焼成良。胎土並、2mm以下の灰・黒色粒、赤色粒少量含む。中央トレンチ出土。
153		3段目石積み背後 5-1ab層	2区 D	土師器 皿	(15.8)	3.2	-	口縁部 15%	内外面 浅黄橙(7.5YR8/4)/浅黄橙(10YR8/3)	外反して長く伸びる口縁、ヨコナデ調整。底部平底、風化のため調整など不明。	焼成良。胎土密。反転復元。
154	13	3段目石積み背後 5-1c層	1,2区 D	土師器 皿	9.9	1.3	8.8	70%	内外断面とも 浅黄橙(7.5YR8/4)	厚いつくりで器高小さい。口縁部ヨコナデ。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰・褐・赤色粒、雲母多量含む。
155		3段目石積み背後 5-1c層	1,2区 D	土師器 椀or皿	-	-	(10.0)	高部 20%	灰白(10YR7/1)/灰白(10YR8/2)/灰(N4/)	外側に強り出す高い高台。外底面に回転糸きり痕らしき痕跡。内面に煤付着。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰色粒、雲母中量含む。反転復元。
156		東階段2段目板石下 図14 VI層	2区 C	土師器 皿	-	-	(8.5)	底部 25%	内外断面とも 浅黄橙(10YR8/4)	直線的に下方に伸びる大きい高台。	焼成良。胎土密、赤色粒少量含む。反転復元。
157		東階段2段目板石下 図14 VI層	2区 C	土師器 皿	-	-	-	口縁部 片	内外断面とも 浅黄橙(10YR8/4)	薄いつくり。外底面を含め丁寧なナデ仕上げ。	焼成良。胎土密。赤色粒少量含む。断面実測。
158		西階段東端 図16 I層	3区 B	白磁 椀	(15.2)	-	-	口縁部 10%	灰白(5Y7/2)/灰白(5Y8/1)	閩南沿海窯系白磁碗。薄い玉縁状口縁。	焼成良。胎土密。反転復元。
159		西階段東端 図16 I層	3区 B	土師器 皿？	-	-	(7.5)	底部 25%	浅黄橙(7.5YR8/4)/浅黄橙(7.5YR8/4)/灰黄(2.5Y7/2)	外に大きく張り出す高台。	焼成良。胎土並。
160		西階段東端 図16 I層	3区 B	土師器 皿	8.3	1.6	-	95%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	内底面および口縁外端面1箇所に煤付着(幅15mm程度)。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰・褐・黒色粒少量含む。
161		西階段西端中段石下 図17 iv層	3区 B,C	土師器 皿	(15.0)	2.9	-	25%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	口縁部大きく外反、内端部はヨコナデによりやや凹む。内底面工具ナデ、外底面もナデ仕上げ。	焼成良。胎土並、反転復元。
162		西階段西端石下 図17 iii～v層	3区 C	土師器 坏？	-	-	(8.4)	底部 30%	浅黄橙(7.5YR8/4)/浅黄橙(7.5YR8/4)/灰黄褐(10YR6/2)	内外面とも回転ヨコナデ。外底面に回転糸切り痕あり。	焼成良。胎土密。反転復元。
163		西階段西端石下 図17 iii～v層	3区 C	土師器 皿	10.1	1.8	-	95%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	薄いつくり。口縁端部を短く外方へ折り曲げる。	焼成良。胎土密。
164		西階段西端石下 図17 iii～v層	3区 C	土師器 羽釜	-	-	-	突帯片	内外断面とも にぶい褐(7.5YR6/3)	大きく突出する突帯。	焼成良。胎土粗い、片岩、白・灰・褐・黒色粒多量含む。断面実測。
165		西階段西端石下 図17 iii～v層	3区 C	土師器 皿	(9.5)	1.3	(6.0)	20%	内外断面とも 橙(2.5Y7/6)	丁寧なヨコナデ調整。外底面は回転糸切り。	焼成良。胎土並、赤色粒・雲母中量含む。反転復元。
166		西階段 中央板石部下	3区 B	瓦器 椀	-	-	5.6	80%	灰(N4/)/灰(N4/)/灰白(7.5Y7/1)	断面三角形の高台。内面にはミガキ痕わずかに観察できる。	焼成良。胎土密。
167		遺構29 埋土	中央 トレンチ	土師器 皿	(14.2)	3.3	-	30%	橙(5YR7/6)/橙(5YR7/6)/にぶい黄橙(10YR7/4)	口縁部ヨコナデ、内面ナデ、外底面指圧痕明瞭。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰・赤色粒少量含む。反転復元。
168		遺構29 埋土	中央 トレンチ	土師器 皿	(8.6)	1.6	-	口縁部 25%	内外断面とも 橙(5YR7/6)	口縁部ヨコナデ、内外底面も丁寧なナデ仕上げ。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・赤色粒少量、雲母多量含む。反転復元。
169		遺構29 埋土	中央 トレンチ	瓦器 椀	13.8	4.8	4.1	90%	灰(N5/)/灰(N5/)/灰白(7.5Y8/1)	口縁内端面には浅い沈線。外面ミガキなし、内面ミガキ粗い螺旋状。	焼成良。胎土密。
170		4-9d層	4区 C	土師器 皿or椀	-	-	(8.8)	底部 40%	内外断面とも にぶい橙(7.5YR7/3)	欠損部多く、詳細不明。	焼成良。胎土やや粗い、2mm以下の白・灰・褐色粒少量含む。反転復元。
171		4-7c層	3区 C	陶器 擂鉢	-	-	-	底部片	灰(N4/)/褐灰(10YR5/1)/褐灰(5YR4/1)	備前焼。スリメは7条で放射状に施される。内面は灰色。	焼成良。胎土やや粗い、2mm以下の白色粒少量含む。断面実測。
172		4-5b	1,2区 B	白磁 椀	-	-	-	口縁部 片	灰白(5Y8/1)/灰白(5Y8/1)	閩南沿海窯系白磁碗。玉縁状の口縁片。	焼成良。胎土密。断面実測。
173	13	4-5b層	1,2区 B	土師器 皿	(7.6)	1.9	5.6	50%	灰白(2.5Y8/1)/灰白(2.5Y8/1)/暗灰(N3/)	口縁部上方へ直線的に立ち上がる。底部やや厚い。口縁部ヨコナデ、内外底面ナデ。	焼成良。胎土並、1mm以下の灰色粒少量含む。反転復元。
174	13	4-5b層	1,2区 B	土師器 皿	(9.4)	2.2	-	60%	褐灰(10YR5/1～6/1)/褐灰(10YR5/1～6/1)/	口縁部ヨコナデ。外底面板目状の圧痕。	焼成良。胎土並。反転復元。
175		4-5b層	1,2区 B	土師器 煮沸具？	(19.0)		-	口縁部 10%	にぶい黄橙(10YR7/4)/灰褐(7.5YR4/2)/灰黄(2.5Y7/2)	やや外にひらきながら直立する口縁端部は凹み内側へ拡張する。	焼成良。胎土粗い、3mm以下の灰・褐色粒多量含む。反転復元。
176		4-5b層	3区 B	土師器 皿	(13.0)	2.7	-	40%	内外断面とも 浅黄橙(7.5YR8/4)	口縁部ヨコナデ、内底面ナデ、外底面指押さえ。口縁端部および内底面(幅5cm程度)に煤付着。	焼成良。胎土やや粗い、1mm以下の白・灰・赤色粒中量含む。反転復元。
177		4-5b層	3区 B	土師器 羽釜	(26.2)	-	-	口縁部 15%	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰褐(7.5YR5/2)/灰黄(2.5Y7/2)	口縁端部丸み持つ。肩部突帯は先端部を欠損するがかなり退化した形態と考えられる。	焼成良。胎土粗い、3mm以下の灰・褐色粒多量含む。反転復元。
178	13	4-5a層	3区 B	土師器 皿	9.9	2.2	6.1	75%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	底部厚い平底。口縁部ヨコナデ、内底面雑なナデ仕上げ。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰・赤色粒少量含む。
179		4-4a層	1区 C	土師器 皿	7.8	1.8	5.2	60%	内外断面とも 灰白(2.5Y8/2)	口縁は直線的にひらく、ヨコナデ。底部厚い平底。	焼成良。胎土密、1mm以下の白色粒少量含む。東半中央トレンチ出土。
180	14	4-4a層	1区 C	土師器 皿	7.7	1.9	4.5	80%	内外断面とも 灰白(10YR8/1)	内底面中央凹む。口縁部ヨコナデ。内外底面ナデ。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰・黒色粒少量含む。東半中央トレンチ出土。
181	14	4-4a層	1区 C	土師器 皿	8.6	2.1	5.3	60%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	口縁部直線的にひらく、ヨコナデ。内外底面ナデ調整。丁寧なつくり。	焼成良。胎土並、2mm以下の白・灰色粒少量含む。東半中央トレンチ出土。
182		4-4a層	1,2区 BC	青磁 椀			-	口縁部 片	灰(10Y6/1)/灰白(2.5Y8/1)	同安窯系青磁碗。外面に細かい間隔の切り目。内面下部には横方向のヘラ文様。	焼成良。胎土密。断面実測。
183		4-4b層	2区 BC	土師器 皿	(11.0)	2.0	(7.8)	30%	内外断面とも 浅黄橙(7.5YR8/4)	全体に厚いつくり。ヨコナデ調整。外底面には板目？痕跡。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰・黒色粒中量含む。反転復元。
184	14	4-4b層	2区 B,C	青磁 椀	(14.4)	-	-	口縁部 10%	オリーブ灰(5GY6/1)/灰白(2.5Y8/1)	口縁は外にひらく。中央の蓮弁は両側の蓮弁に切られる。凹凸大、複線明瞭。	焼成良。胎土密。反転復元。中央トレンチ出土。
185	14	4-4b層	2区 B,C	青磁 椀	(15.0)	-	-	口縁部 10%	明オリーブ灰(5GY7/1)/灰白(N8/)	口縁部のひらきは少ない。非常にきれいな仕上がり。中央の蓮弁は両側の蓮弁に切られる。凹凸大。	焼成良。胎土密。反転復元。小片のため復元径の取り扱いに注意。中央トレンチ出土。
186	14	4-3a層	1区 D	土師器 皿	(5.8)	1.8		40%	内外断面とも 浅黄橙(7.5YR8/4)	いわゆるへそ皿。口縁内湾気味に立ち上がる。端部2箇所に幅1cm前後の煤付着。	焼成良。胎土密、赤色粒少量。反転復元。

法量の( )内の数値は復元値

遺物番号	図版番号	遺構名 土層名	地区	種類 器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率	色調(内/外/断面) (釉/露胎/断面)	形態・技法の特徴等	備考
187	14	4-2a層	1,2区 B,C	土師器 壺?	(7.4)	-	-	口縁部 15%	暗灰(N3/)/暗灰(N3/)/ にぶい黄橙(10YR7/2)	口縁端部は上方につまみあげる受口状。頸部外面横方向のハケメ?	焼成良。胎土並、1mm以下の白・褐色粒少量含む。反転復元。
188		4-2a層	1区 B,C	青磁 碗	-	-	-	口縁部 片	灰オリーブ(5Y5/3)/ 灰白(5Y7/1)	蓮弁の凹凸あるが縁線は明瞭でない。	焼成良。胎土密。断面実測。
189	14	4 7a層	1区 B,C	土師器 皿	(8.0)	2.4	5.8	70%	内外断面とも 淺黄橙(10YR8/3)	底部非常に厚い。ヨコナデ調整、口縁端部に2箇所幅1cm前後の煤付着。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰・黒色粒少量含む。一部反転復元。
190	14	4-2a層	1区 B,C	土師器 皿	(7.4)	1.8	-	70%	内外断面とも 灰白(2.5Y8/2)	口縁部1箇所を除き欠損、残存部に煤付着、ヨコナデ調整。	焼成良。胎土並、2mm以下の灰色粒少量含む。一部反転復元。
191		4-2a層	1区 B,C	土師器 皿	(10.4)	2.6	6.2	60%	内外断面とも 淺黄橙(10YR8/3)	やや内湾気味に立ち上がる口縁。口縁ヨコナデ、端部に煤3ケ所付着。	焼成良。胎土並、2mm以下の灰・褐色粒少量含む。反転復元。
192		3,4層	2区	青磁 碗	-	-	-	口縁部 片	灰オリーブ(5Y5/3)/ 灰白(N8/)	中央の蓮弁は両側の蓮弁に切られる。凹凸大。	焼成良。胎土密。断面実測。
193		3,4層	2区	青磁 碗	-	-	-	口縁部 片	オリーブ灰(10Y6/2)/ 灰白(2.5Y7/1)	龍泉窯系線描蓮弁文青磁碗。蓮弁細かい。	焼成良。胎土密。断面実測。
194		3,4層	3区	陶器 壺	-			口縁部 片	内外面 灰褐(5YR4/2)/ 黄灰(2.5Y5/1)	常滑焼。下端を欠損するが口縁縁帯部の拡張大きく3cm程度か?	焼成良。胎土並。断面実測。
195		3,4層	3区	土師器 皿	(8.3)	2.2	-	30%	内外面 褐灰(7.5YR6/1) /灰(N4/)	口縁部ヨコナデ、内外底面ナデ調整、外底面板目状の圧痕わずかに残る。	焼成良。胎土並、2mm以下の白・灰・褐色粒少量含む。反転復元。
196		3,4層	3区	須恵器? 甕?	-	-	(5.4)	底部 30%	赤褐(2.5YR4/8)/ 灰白(N7/)/灰白(N7/)	断面三角形の高台。内面には赤色顔料?付着。	焼成良。胎土並、2mm以下の白色粒少量含む。反転復元。
197	14	3,4層	3区 4D11d	青磁 碗	(13.4)	-	-	口縁部 10%	オリーブ灰(5GY6/1)/ 灰白(5Y7/1)	龍泉窯系線描蓮弁文青磁碗。小片のため復元径の取り扱いに注意。	焼成良。胎土並。反転復元。
198		3層下位	4区 B	土師器 皿	(14.6)	-	-	口縁部 25%	内外断面とも 淺黄橙(10YR8/3)	口径大きく、やにひらく口縁。丁寧なヨコナデ。	焼成良。胎土並、1mm以下の白透・褐色粒少量含む。反転復元。
199		3層下位	4区 B	青磁 碗	-	-	-	口縁部 片	オリーブ灰(5GY6/1)/ 灰白(N7/1)	龍泉窯系線描蓮弁文青磁碗。	焼成良。胎土並。断面実。
200		3層下位	4区 B	陶器 皿	(10.2)	-	-	口縁部 10%	オリーブ灰(10Y6/2)/灰白 (2.5Y7/1)/灰白(2.5Y7/1)	瀬戸・美濃系陶器。口縁端部わずかに外反。内外面とも口縁から2cm程度施釉。傾きやや緩くなる可能性あり。	焼成良。胎土密。反転復元。
201		3層下位	4区 B	土師器 皿	(6.4)	1.4	(3.9)	30%	内外断面とも 灰白(10YR8/2)	いわゆるへそ皿、凹み大。外へひらく口縁はやや内湾気味、ヨコナデ調整。	焼成良。胎土並、1mm以下の灰・褐色粒中量含む。反転復元。
202		3層下位	4区 B	輸入陶器 皿	-	-	(11.5)	底部 20%	灰白(5Y8/1)/橙(2.5YR6/6)/ 橙(2.5YR6/6)/	高台から体部へは滑らかに変化し、この付近まで施釉。	焼成良。胎土並、反転復元。
203		3層下位	4区 B	陶器 底部片	-	-	(6.0)	底部 80%	オリーブ黄(7.5Y6/3)/ 灰白(2.5Y8/1)	瀬戸・美濃系陶器。高台の断面台形。底部外面まで施釉。内底面の釉厚1mmを超える部位あり。	焼成良。胎土並。
204		3層下位	4区 B	陶器 擂鉢			-	口縁部 片	オリーブ灰(5Y5/3)/灰白 (10Y7/1)/灰白(10Y7/1)	瀬戸・美濃系陶器。酒線の擂鉢か?口縁端部やや丸みを持つ。	焼成良。胎土並み。断面実測。
205		3-3a層	2区 B,C	白磁 皿?	-	-	-	口縁部 片	灰白(5Y8/1)/ 灰白(10YR8/2)/ 灰白(10YR8/2)	口縁端部面をなす。外面は上から2cm程度の範囲を施釉。	焼成良。胎土密。断面実測。
206	14	3-3a層	2区 C	土師質? 火鉢?		-	-	口縁部 片	明褐灰(5YR7/2)/ 淺黄橙(10YR8/3)/ 淺黄橙(10YR8/3)	長さ10cm程度の破片。直線的で丸みなく、平面方形or長方形と推定される。外面下半は横方向のケズリ、外底面には砂粒多数付着。	焼成良。胎土やや粗い、3mm以下の白透・灰・褐色粒・雲母?多量含む。断面実測。3層上位(4区B)出土と同一個体。
207		3-3a層	2区 B,C	陶器 擂鉢	(30.2)	-	-	口縁部 10%	内外断面とも赤褐(10R6/6) 口縁帯灰赤(10R4/2)	備前焼。口縁部上方の立ち上がりは板状で真上に向かう。下端の垂下はわずかだがシャープ。	焼成良。胎土密。反転復元。
208		3-3a層	2区 B,C	青磁 盤			-	口縁部 片	明青灰(5BG7/1)/ にぶい橙(5YR6/3)	龍泉窯系青磁盤。口縁部片、小片のため傾きやや異なる可能性あり。	焼成良。胎土密。断面実測。
209		3-3a層	2区 4C10y	陶器 天目茶碗	(11.5)	-	-	底示部 20%	黒(N2/)/灰白(2.5Y7/1)	瀬戸・美濃系陶器。小片のため復元径・傾きの取り扱いに注意。	焼成良。胎土密。反転復元。
210		3-1a層	1区 D	青磁 盤	-	-	-	口縁部 片	オリーブ灰(10Y6/2)/ 明褐灰(5Y7/1)	龍泉窯系青磁盤。口縁部片、小片のため傾きやや異なる可能性あり。	焼成良。胎土密。断面実測。
211		3層	4D11c	青磁 盤	-	-	(7.7)	底部 20%	オリーブ灰(10Y6/2)/灰褐 (5YR5/2)/灰白(5Y7/1)	龍泉窯系青磁盤。	焼成良。胎土密。反転復元。
212	14	3層	1,2区	瓦 平瓦	-	-	-	瓦当片	淺黄(2.5Y7/3)	軒平瓦。凹面に布目痕、凸面ナデ。瓦当部に「・・・慶元年」?の文字。断面実測。	焼成良。胎土やや粗い、5mm以下の白・灰・黒色粒中量含む。
213		3層	2区 B,C	青磁 盤	-		4.2	底部 完形	オリーブ灰(10Y5/2)/ 赤灰(2.5YR5/1)/灰(N6/)	外面下端まで施釉。内底面に文様?施されるが不明瞭。	焼成良。胎土密。
214		3層	3区 B,C	瓦質土器 壺	-	-	-	口縁部 片	黄灰(2.5Y5/1)/灰白 (2.5Y8/2)/灰白(2.5Y8/2)	口縁厚く丸み持つ。内面ヨコハケメ、外面ややお下がりの深いタタキ。	焼成良。胎土やや粗い、3mm以下の白透・灰色粒中量含む。断面実測。
215		3層	3区 B,C	瓦質土器 羽釜	-	-	-	口縁部 片	黄灰(2.5Y5/1)/ 灰褐(7.5YR4/2)/ にぶい黄橙(10YR7/3)	突帯下外面は横方向のケズリ。	焼成良。胎土やや粗い、2mm以下の白・褐色粒中量含む。断面実測。
216		3層	3区 B,C	瓦質土器 火鉢	-	-	-	口縁部 片	灰(N4/)/灰(N4/)/ 灰白(N8/)	外面丁寧なヘラミガキ、内面ヨコナデにより凹凸あり。	焼成良。胎土並。断面実測。
217	14	3層	3区	瓦質土器 風炉	-	-	-	底部片	灰(N5/)/灰(N4/)/ 灰白(2.5Y8/1)	底部外面には4条の突線が巡められ、中央に2条の突線が隣り合う。突帯間には唐草文、蓮弁文が押線、蓮子文が切り込みにより施文される。	焼成良。胎土並、3mm以下の白・灰色粒中量含む。断面実測。
218	14	3層?	4区	瓦質土器 火鉢			-	口縁部 片	灰(N4/)/灰(N4/)/ 灰白(N8/)	口縁部を内側へ直角に曲げる。方形の火鉢。口縁外面には2条の凸線間に花菱文を押線。	焼成良。胎土並。断面実測。
219		2-9ab層	1,2区 4C10y	陶器 甕	(22.7)	-	-	口縁部 10%	オリーブ黄(7.5Y6/3)/ にぶい褐(7.5YR5/3)/ 灰(7.5Y6/1)	鎌倉時代丹波焼。口縁上方に拡張する。口縁内面まで緑色釉、体部内面は無釉。	焼成良。胎土並、2mm以下の白色粒少量含む。反転復元。
220		2-8層	1,2区 4C10y	瓦質土器 壺?	(5.6)	-	-	口縁部 20%	灰(N4/)/灰(N4/)/ 灰白(N8/)	内面横方向の工具によるナデ、外面ナデ。	焼成良。胎土並、1mm以下の白・灰色粒少量含む。反転復元。
221		2層	1区 4C11y	陶器 碗	-	-	3.6	底部 90%	灰白(10YR8/1)/灰白 (10YR8/2)/灰白(10YR8/2)	肥前系陶器。外面下半、外底面は無釉。	焼成良。胎土並。一部反転復元。
222		2-1層	1,2区 4C11y	染付 碗	-	-	(4.4)	底部 80%	内外断面とも 灰白(N8/)	伊万里焼。外底面に「大明成化年製」の文字銘。	焼成良。胎土密。一部反転復元。
223	14	2-1層	1,2区 4C10y	陶器 火入れ	(17.8)	-	-	口縁部 20%	にぶい褐(7.5YR6/3)/にぶい赤褐(2.5YR5/3)/にぶい褐 (7.5YR6/3)	肥前系陶器。外面に刷毛目、屈曲部にはキザミ目を施す。	焼成良。胎土密。反転復元。
224		2-1,2層	1,2区 4C10y	土師器 皿	7.4	1.8	-	50%	内外断面とも 淺黄橙(7.5YR8/4)	薄いつくり。歪み大きいが内外面とも丁寧なナデ仕上げ。	焼成良。胎土密。
225		石垣背後	1,2区	陶器 大皿	-	-	(5.5)	底部 20%	灰白(2.5GY8/1)/にぶい橙 (5YR6/4)/灰黄(2.5Y6/2)	肥前系陶器。高台は露胎。見込みの釉を蛇の目状に剥ぐ。	焼成良。胎土密。反転復元。
226	14	遺構24 埋土	4C10y 4D10a	瓦質土器 香炉	(11.2)	4.5		25%	暗灰(N3/)/暗灰(N3/)/ 淺黄橙(10YR8/3)	花文のスタンプを押捺。小突起状の脚は1箇所のみ残る。3点として図化。	焼成良。胎土密。反転復元。

石積み遺構全景（北東から）

石積み遺構全景（北西から）

石積み遺構全景（北から）

1区 1-1,1-2, 2段目石積み（北から）

2区３段目石積み（北から）

石積み全景（西から）

2区 1-1 段目石積み背後礫　（北から）

東階段全景（北から）

東階段２段目板石部（西から）

東階段３段目板石部（南から）

東階段２・３段目板石部（西から）

東階段３段目（上部）板石部（南から）

東階段３段目（上部）板石部（北から）

２区石積み検出状況（移動石含む）（北から）

２区石積み検出状況（移動石含む）（南から）

西階段全景（北から）

3区石積み検出状況（移動石含む）（北から）

西階段ベース土成形状況（北西から）

西階段板石部（南から）

4区2段目石積み（北から）

1・2区2層上面遺構：拡張前（西から）

遺構 33（石列）検出状況（西から）

遺構 33（石列）南北土層断面（東から）

遺構 39（井戸）土層断面（北から）

調査前状況：西半（北西から）

調査前状況：東半（北西から）

地山面検出状況（北東から）

地山面検出状況（北から）

中央トレンチ２層堆積状況（西から）

東半中央トレンチ３段目石積み土層断面（東から）

東中央トレンチ１段目石積み土層断面（北西から）

１区南壁土層断面（北から）

東階段２段目板石部南北土層断面（西から）

東階段２～３段目間東西土層断面（北から）

東階段３段目板石部南北土層断面（西から）

東壁南北土層断面（東から）

1

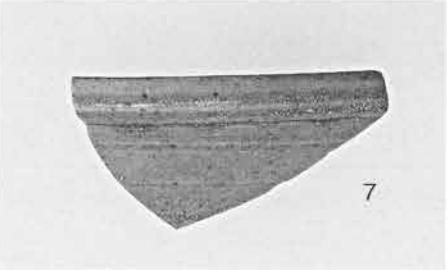
13

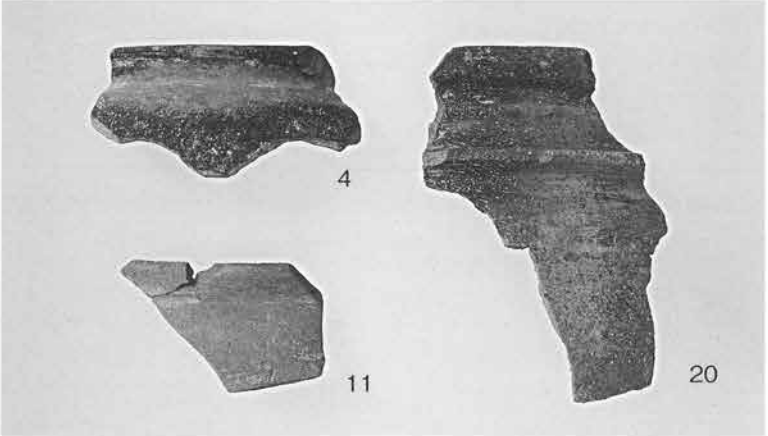
2

15

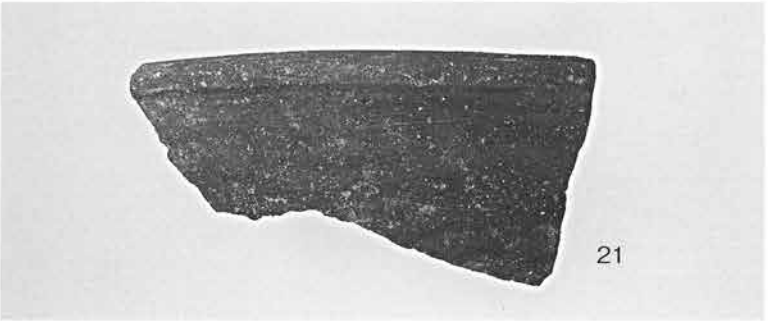
16

29


7


4
11
20

19

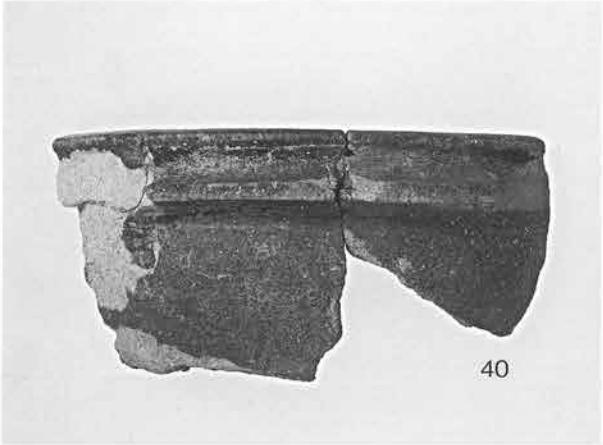

21

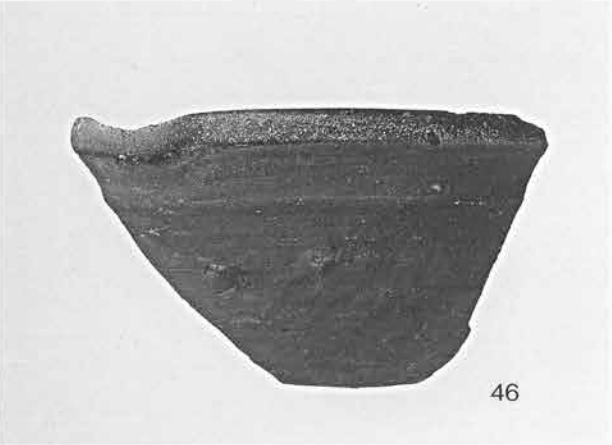
22

26

35

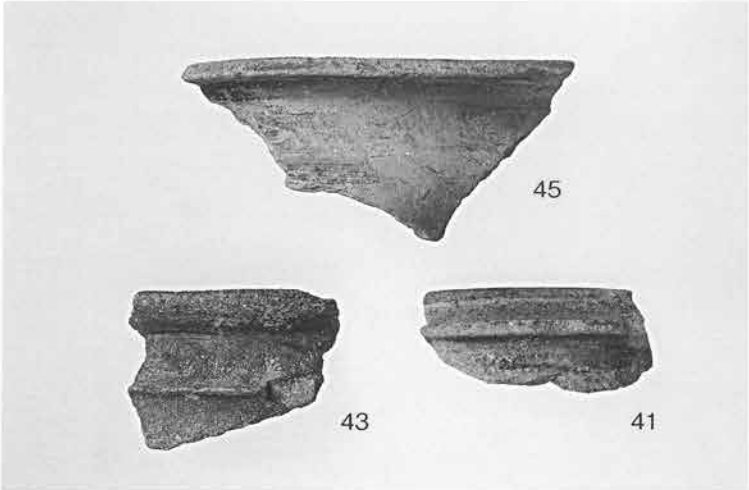
36


40


46

49

50


45
43
41

38

39

51

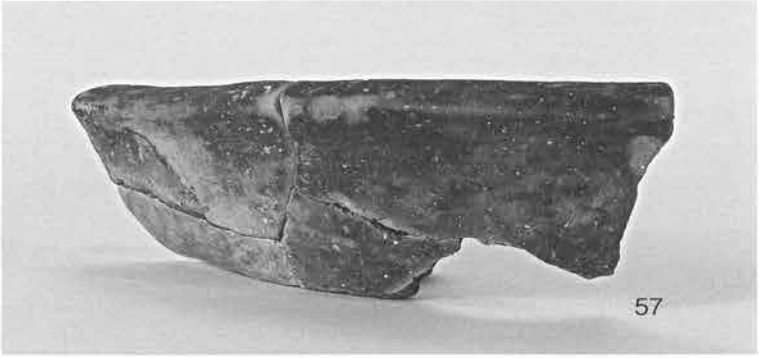
52

53

44

54

55


57

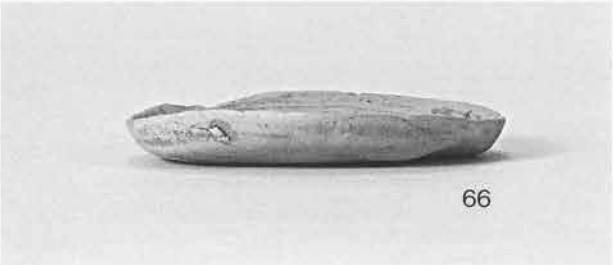
58

59

60

68

65

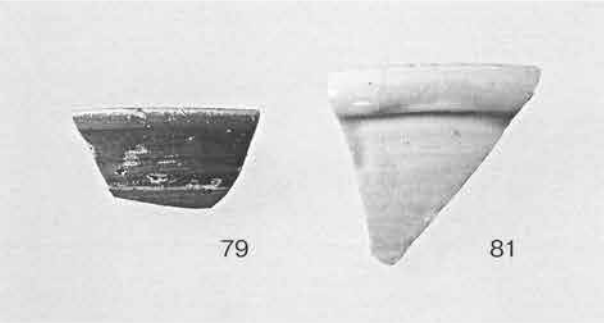

66

63

71

77

64


79 81

82

72

78

73

74

76

83

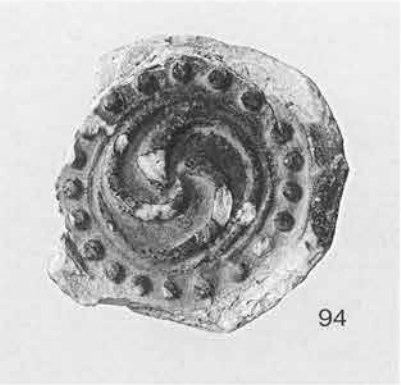
85

86

87

88

84


94

105 凹面

105 凸面

93

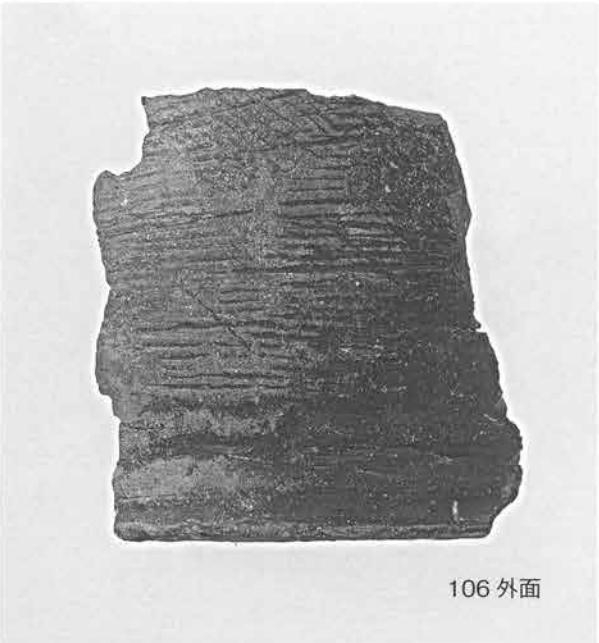
95

98

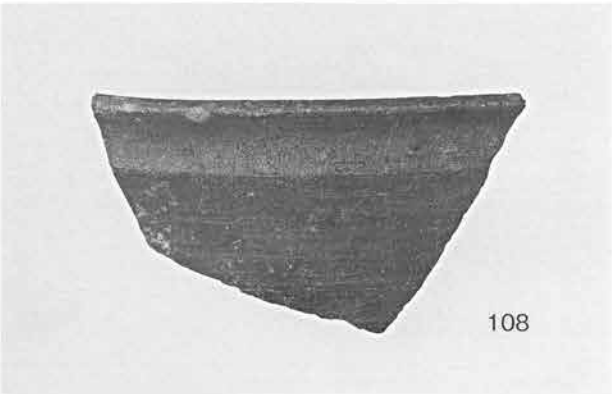
99

103

104

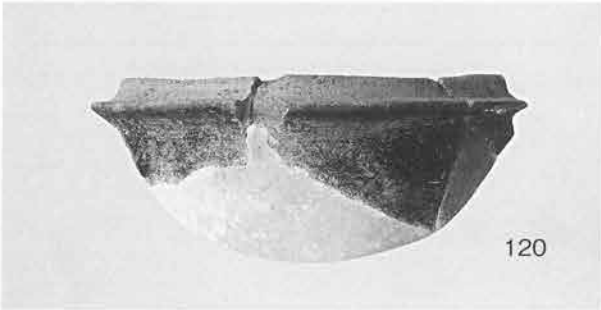

106 外面

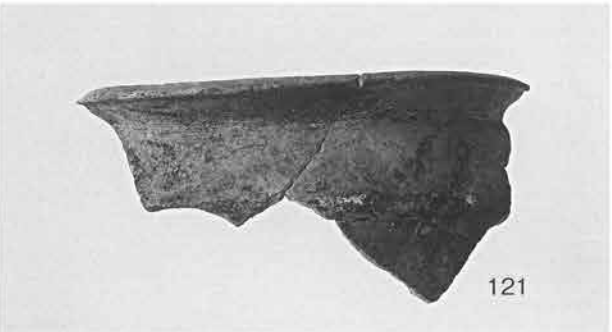
106 外底面

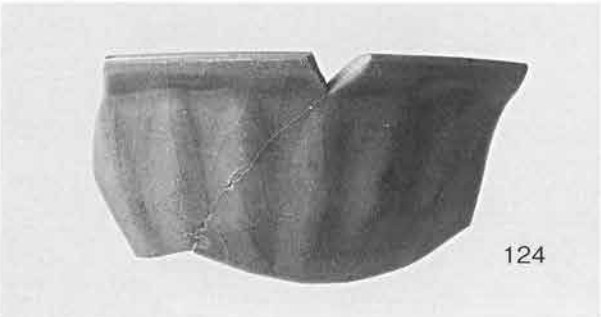

108

118

116

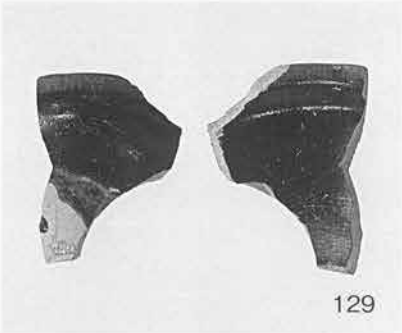

120


121


124

122

125


129

112

113

125 外底面

125 内底面

132

133

131

110

130

142

150

152

154

173

174

178

180

181

186

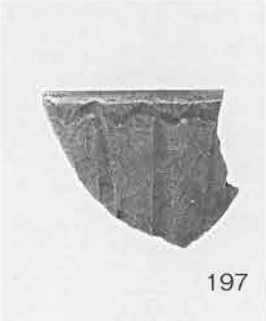
189

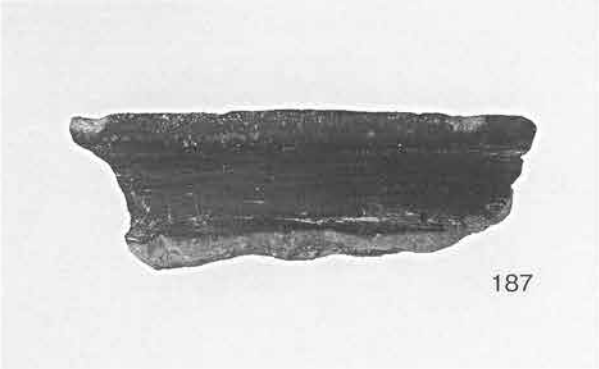
190

212

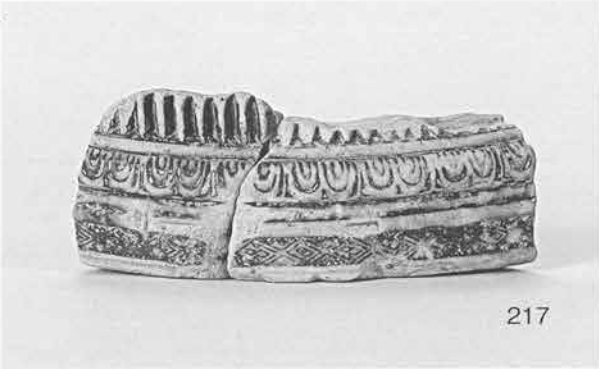
185

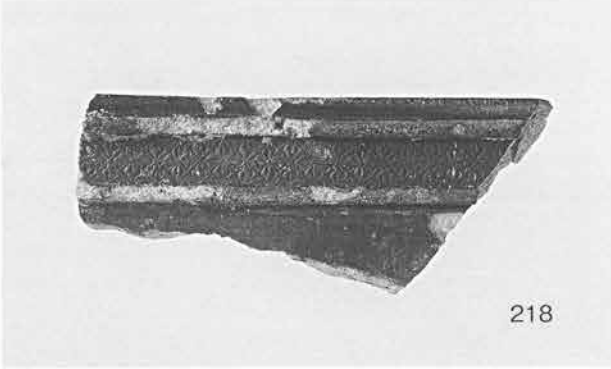
184


197


187

206


217


218

223

226

報告書抄録

ふりがな	こかわでらいせき
書　　名	粉河寺遺跡
副書名	長屋川砂防環境整備工事に伴う発掘調査報告書
編著者名	佐々木宏治
編集機関	財団法人　和歌山県文化財センター
所在地	〒640-8246　和歌山県和歌山市湊571-1　　TEL　073-433-3843
発行年月日	西暦2008年2月20日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北 緯 ° ′ ″	東 経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
こかわでらいせき 粉河寺遺跡	きのかわし 紀の川市 こかわ 粉河	302082	粉河 地区 22	34° 16′ 48″	135° 24′ 17″	2006年11月13日～ 2007年1月31日	220	長屋川砂防環境整備工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
粉河寺遺跡	寺院跡	平安時代 鎌倉時代 室町時代 江戸時代	石積み	土師器皿・羽釜、 瓦器碗・皿、 輸入陶磁器、瓦、 東播系須恵器、 常滑焼、備前焼、 瀬戸・美濃系陶器、 瓦質土器	室町時代の護岸施設

要約	粉河寺参道南を流れる長屋川の左岸に築造された４段の石積み遺構を長さ30m近くにわたり検出した。最下段の石積み基底部から最上段の石積み天端までの高さ、奥行きとも約3.5mを測る。各段の石積み残存高さは50cm前後の部分がほとんどであるが、場所により1m近い部分も存在する。いずれも砂岩を主体とした粗い印象を受ける野面積みである。明確な裏込め栗石層は認められない。また、東西２箇所で上面の敷地に上がるための階段と考えられる遺構を確認した。特に西側は規模が大きく幅約４mで、両端に耳石が遺存していた。 時期は、出土遺物から14世紀中頃から15世紀後半の間に収まるものと考えられる。

粉河寺遺跡

―長屋川砂防環境整備工事に伴う発掘調査報告書―

2008年２月20日

編集・発行　財団法人　和歌山県文化財センター

印刷・製本　株式会社　協和